

2008（平成20）年度「大学評価」申請用

専任教員の教育・研究業績（表24、25）

大 阪 体 育 大 学

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

1	所属 健康福祉学部	職名 学長・教授	氏名 永吉 宏英	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・無 ○・無
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 視聴覚教材による理解度の向上		平成15年前期～	映像・写真等視聴覚教材を使い、講義内容を具体的にイメージできるように工夫して理解度を高めた。		
(2) 「学生による授業評価」を実施		平成16年前期～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて改善を図っている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書					
「みんなのスポーツ」日本体育社		平成15年9月	おすすめ企画・ダメ企画は」を執筆。高齢者を対象としたスポーツイベント企画の考え方、方法について明らかにした。		
「みんなのスポーツ」日本体育社		平成15年9月	「野外活動で気をつけることは」を執筆。野外活動プログラムの企画、実行における注意点について明らかにした。		
「基礎から学ぶ体育・スポーツの科学」		平成18年4月	「スポーツの社会的、文化的、経済的価値」「生涯スポーツの教育的意義」について執筆		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
(1) 大阪大学社会教育主事養成講習会における講義		平成15年7月～	「社会体育」「健康教育」について講義した。		
(2) 国立社会教育研究所社会教育主事講習会における講義		平成17年2月～	「レクリエーション」について講義		
(3) 健康運動指導士養成講習会における講義		平成15年11月・2月～	健康運動指導士養成講習会で「レクリエーション」について講義		
4. その他教育活動上特記すべき事項					
(1) 日本野外教育学会第7回大会実行委員会実行委員長		平成15年7月～平成16年6月	実行委員長として学会大会の企画・運営を行った。		
(2) 修士論文作成指導		平成16年3月～	修士論文4編の作成を指導教員として指導		
(3) 阪南地区身体障害者スポーツ・レクリエーション大会の企画・運営		平成16年4月～9月	健康福祉学部学生でボランティアを組織し、学生教育を兼ねて阪南地区13市町の身体障害者350名が参加するスポーツ・レクリエーション大会の企画・運営を担当した。		
(4) 「関西野外活動ミーティング」の運営を実行委員長として担当		平成16年2月～平成18年2月	関西の大学・大学院学生の卒論・修論発表と、野外活動団体に所属する若手研究者の発表を中心とした研究会を実行委員長として毎年わたって運営・指導した。		
(5) 日本高等教育評価機構評価員として活動		平成18年、平成19年	評価員として平成18年、平成19年に、計2つの大学の認証評価を担当した。		

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	大阪体育大学		16～19 142～145（p）
キャンプディレクター必携	共著	平成18年4月	社団法人日本キャンプ協会		1～2, 33～38（p）
「政令指定都市における障害者スポーツの 振興に関する調査」報告書	共著	平成17年11月	堺市	小西治子、池島明子、 弘中陽子、安田ななえ	1～37、38～42 43～43（p）
「障害者の運動・スポーツ活動の実態に関 する調査」報告書	共著	平成17年11月	堺市	小西治子、池島明子、 弘中陽子、安田ななえ	5～52, 70～73（p）
「堺市民のスポーツと健康に関する調査」 報告書	単著	平成17年10月	堺市		
「大阪市がめざす総合型地域スポーツクラ ブ報告書」	共著	平成15年	大阪市	赤松喜久、松永敬子	1～29（p）
「大阪市民のスポーツと健康に関する調 査」報告書	単著	平成15年	大阪市		
論文					
長期キャンプ体験における参加者の社会的 スキルの変容に関する研究	共著	平成15年4月	野外教育研究第6巻第2号	◎青木康太郎	
アウトドア・レクリエーションによる地域 活性化―長野県北安曇野郡白馬村を事例と して	共著	平成16年7月	大阪体育大学紀要第35巻	◎岡安 功	
障害者のスポーツ活動の現状に関する 調査研究	共著	平成18年	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要 第3号	安田ななえ、小西治子、 弘中陽子、池島明子	63～66（p）
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成15年4月～17年		大阪市総合計画審議会委員・文化交流部会副会長			
平成15年4月1日～平成18年3月31日		日本野外教育学会副理事長			
平成15年4月1日～平成18年3月31日		日本キャンプ協会国際委員会副委員長			
平成15年4月1日～平成16年3月31日		伊丹市スポーツ振興審議会会長			
平成15年4月1日～		日本バンパープール協会理事長			

平成15年7月～平成16年6月	日本野外教育学会第7回大会実行委員長
平成16年4月～	大阪市スポーツ振興審議会副会長
平成16年4月～平成17年4月	大阪市スポーツ施設指定管理者選定委員会委員長
平成17年4月～	日本高等教育評価機構評価員
平成17年4月～	堺市スポーツ振興審議会会長
平成17年4月1日～	日本介護予防指導士協会会長

(表24)

2

所属	体育学部	職名	学部長・教授	氏名	柏森 康雄	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
保健体育科教育法Ⅱ		平成15・16・17・18・19年度	各年度とも授業評価の結果は、両科目とも大学の講義科目の平均値より高い値を示し、学生の評価は高かった。				
体育の教材研究		平成15・16・17・18年度	ただ、学生の授業参加及び予習・復習を積極的に進めさせること等に工夫が必要であることが明らかになった。				
保健体育科教育法A		平成19年度 前期					
2. 作成した教科書、教材、参考書							
保健体育科教育法Ⅱ		平成16・17・18年3月	保健体育科教育法Ⅱの授業用テキストを、直近のトピックや話題を加筆し、授業の進め方に沿って内容を改訂した。				
保健体育科教育法A		平成19年3月	カリキュラムの改訂に伴ない、保健体育科教育法Aの授業用テキストを作成した。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
学校体育指導者中央講習会 東部地区 講師		平成15年5月20日～23日	教員研修センターが実施している小・中・高等学校における体育教諭の資質向上を図るための講習会。バレーボール班の講義・実技を担当した。				
兵庫県 県立高等学校10年経験者の研修会 講師		平成15・16年度	兵庫県立教育研修所主催の県立高等学校10年経験者を対象とした研修事業で「これからの体育科教育」について講義を行った。				
バレーボール学会第9回研究大会 シンポジウム 講師		平成16年3月28日	学習指導要領の改訂を踏まえたバレーボール授業のあり方について発表した。				
4. その他教育活動上特記すべき事項							

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	172頁～175頁
論文					
バレーボールにおける攻撃力評価に関する 研究 (3)	共著	平成15年5月1日	バレーボール学会「バレーボール研究」 第5巻第1号	工藤健司 柏森康雄 島津大宣 泉川喬一 田原武彦	18頁～25頁
Efficacy of ankle bracing in top-level volleyball players	共著	平成19年5月1日	バレーボール学会「バレーボール研究」 第9巻第1号	森北育弘 柏森康雄 浅井正仁	1頁～4頁
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成15年4月	～	平成17年3月	日本体育学会 代議員		
平成16年4月	～	現在に至る	全日本大学バレーボール連盟 副理事長		
平成16年4月	～	現在に至る	関西大学バレーボール連盟 副会長兼理事長		
平成18年4月	～	現在に至る	バレーボール学会 副会長		
平成19年4月	～	現在に至る	日本体育学会 体育方法専門分科会 世話人		
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	女子バレーボール 部		2. 役職	部長兼監督	3. 部員数
			52 人		
4. 現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 4 回		延べ日数： 16 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間	場 所	
	全日本大学バレーボール女子選手権大会		12月第1週	東京都体育館他	
	西日本大学バレーボール女子選手権大会		6月第4週	広島県立総合体育館（グリーンアリーナー）	
	関西大学バレーボール連盟 春季・秋季1部リーグ戦		4・5月 9・10月	関西地区各大学	

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
平成15年4・5月	関西大学バレーボール連盟 女子春季1部リーグ戦	3位	関西地区各大学
平成15年8月	関西大学バレーボール女子選手権大会	3位	龍谷大学体育館
平成16年8月	関西大学バレーボール女子選手権大会	3位	山城運動公園
平成17年8月	関西大学バレーボール女子選手権大会	2位	山城運動公園
平成17年9・10月	関西大学バレーボール連盟 女子秋季1部リーグ戦	2位	関西地区各大学
平成18年4・5月	関西大学バレーボール連盟 女子春季1部リーグ戦	2位	関西地区各大学

(表24)

3

所属	体育学部	職名	教授	氏名	浅井 正仁	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成16~17年	(1) - 1 「スポーツ基本運動」においては、基本的運動をテーマとして取り上げ、学生のパフォーマンス測定と運動観察 (VTR) させ、各種の運動機序を理解できるよう配慮した。				
(1)授業評価を実施し教育内容等を吟味した。							
2. 作成した教科書、教材、参考書		平成16年	(1) - 2 各種目 (バレーボール、バスケット、ハンドボール、サッカー、ラグビー、その他) のゲーム分析的研究を内容、研究方法、対象等により分類してデータベースを作成した。関連授業において教材として利用している。				
スポーツ種目別のトレーニング、Ⅲスポーツ種目別のトレーニングの例 「8. ハンドボール」 P43-51							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成16~17年	(1) - 3 「バレーボールⅡ」においては、モデル授業を実施させ、教授方法 (5項目)、教材評価 (5項目) の授業評価アンケート用紙を作成し、当該授業を評価させた。モデル授業担当者はアンケートを集計して、次週の授業時にグラフ化したものを提示するよう工夫した。教育実習前にどのような観点で授業を構成して、何を配慮しなければならないかを実践的に経験させる狙いである。				
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間			内 容		
平成16年8月	～	平成17年	全日本大学バレーボール連盟 男子強化委員会 委員		
平成16年	～	平成17年	関西大学バレーボール連盟 常任理事		
平成16年	～	平成17年	関西大学バレーボール連盟 指導普及委員会 男子部会長		
Ⅳ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	男子バレーボール 部		2. 役職	監督	3. 部員数 40 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 12 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
	全日本インカレ（東京）		12月	東京	
	西日本インカレ（兵庫・広島）		6月	兵庫・広島	
	関西大学バレーボール連盟春季・秋季リーグ戦（大阪、京都、兵庫）		4月～6月、9月～11月	大阪、京都、兵庫	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					
開催期間		大会名		成績	場 所
平成15年 8月		関西インカレ		3位	
平成16年 8月		関西インカレ		3位	相愛大学
平成18年 6月		関西大学バレーボール連盟春季1部リーグ戦		3位	
(個人)平成15年 8月		第4回西日本大学5学連男女選抜対抗戦（関西選抜：長江晃生）		1位	大阪 松下電器体育館
(個人)平成16年 8月		第5回西日本大学5学連男女選抜対抗戦（関西選抜：長江、佐藤淳）		3位	広島 県立総合体育館
(個人)平成17年 7月		関西大学バレーボール連盟ビーチバレー選手権（前田洋平、川越裕康）		1位	兵庫県 明石市
(個人)平成19年 7月		関西大学バレーボール連盟ビーチバレー選手権（竹井寛明、林良樹）		2位	兵庫県 明石市

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無
体育学部	教授	浅野 幸子	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概要	
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			
(1) 視聴覚関連機器の活用とAuthenticな教材の利用による授業活動	平成15年4月～	Video, DVD, PC機器などの利用により、多様な情報を学習者に与えて意味の理解を促すと同時に、動機づけに努め、学習の効率化を図った。（英語Ⅰ&Ⅱ、教養演習Ⅰ&Ⅱ、総合演習）	
(2) プリゼンテーションを重視した指導	平成15年4月～	グループやペアでの活動を通して、英語による表現力(英語Ⅰ&Ⅱ)や日本語による発表のための基礎力(教養演習Ⅰ&Ⅱ)の養成を目指した。	
(3) 小論文や小テストによる学習活動評価の実施	平成15年4月～	毎回の授業での小テストの実施(英語Ⅰ&Ⅱ)や小論文の提出(教養演習Ⅰ&Ⅱ)により、学生の理解度を確認し、授業内容と指導方法の改善に役立てると共に、即時のKR情報を学生にフィードバックして学習意欲を促した。	
(4) 「学生による授業評価」の実施	平成16年7・12月 平成17・18年	大阪体育大学FD委員会実施の授業評価を受け、その結果を基に学生の意見などを参考にして、授業内容と指導方法の改善に努めた。	
(5) E-Learningシステムの活用	平成19年4月～	英語Ⅳ(TOEIC受験対策コース)の授業でALCNetAcademy, Superstandard Courseを活用し個別指導を行ない効果をあげるよう努力した。また英語特(再履修クラス)では、各学生の習熟レベルに合った学習内容の選択と個別学習により再学習への動機づけと指導の効率化を図った。	
2. 作成した教科書、教材、参考書			
(1) 英語Ⅰおよび英語Ⅱの教材の作成	平成15年4月～	TVコマーシャル、ニュースや映画、あるいは、インターネットから入手した素材を基にして、体育系学生が得意とする非言語的な能力を生かしながら、英語コミュニケーション能力を伸ばすための独自の教材の作成を行なった。	
(2) 教養演習Ⅰ&Ⅱのためのワークシートの作成	平成15年4月～ 平成17年3月	体育大学学生に適切な指導内容と方法を円滑かつ効果的に実践するために自作ワークシートを作成した。	
(3) 総合演習の授業のための教材・ワークシートの作成	平成18年4月～	学生の特色を生かした指導内容と方法により効果的な授業を実践するために、自作ワークシートと教材を作成した。	
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			
(1) 大阪体育大学健康福祉学部国際・地域交流委員会主催中学校英語教員のためのワークショップ・セミナー講師	平成18年3月9日	平成16年度から実施された特別支援教育への対応を考慮した教材と指導法について、実践と理論の両面から英語教員の研修指導を行った。	
4. その他教育活動上特記すべき事項			
(1) 平成16年度 TOEIC Bridge IPテストの実施を主導	平成17年1月21日	英語Ⅰの履修者(360名)を対象に実施し、平成17年度英語Ⅱの習熟度別クラス編成の資料とした。	
(2) 平成17年度 TOEIC Bridge IPテストの実施を主導	平成18年1月19日	英語Ⅰの履修者(480名)を対象に実施し、平成18年度英語Ⅱの習熟度別クラス編成の資料とした。	
(3) 平成17年度 TOEIC IPテストの実施を主導	平成18年1月19日	大学院生と学部生を対象に、英語コミュニケーション能力の測定と卒業後の進路指導を意図して実施した。	

(4)平成18年度 TOEIC Bridge IPテストの実施を主導	平成19年1月21日 平成19年3月28日	英語Ⅰの履修者(500名)を対象に実施し、平成19年度英語Ⅱの習熟度別クラス編成の資料とした。
(5)平成18年度 TOEIC IPテストの実施を主導	平成19年1月21日 平成19年3月28日	大学院生と学部生を対象に、英語コミュニケーション能力の測定と卒業後の進路指導を意図して実施した。
(5)平成19年度 TOEIC IPテストの実施を主導	平成19年7月7日	平成19年度新設された英語Ⅳの学生の指導と併せて、大学院生と学部生を対象に、英語コミュニケーション能力の測定と就職・進学試験準備を意図して実施した。

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
Some effects of audio-visual approach on foreign language anxiety	単著	平成15年3月	大阪体育大学紀要, 34号		p. 65-82
Phonological awareness, working memory, and non-verbal factors in foreign language word learning with different tasks	単著	平成16年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要創刊号		p. 133-158
An integrative approach to testing and teaching to enhance verbal and cognitive functions for a child with Down syndrome	共著	平成19年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要 第4号	浅野紀和	
その他					
外国語彙学習に関わる音韻知覚と作動記憶および非言語的要因について	単著	平成16年 9月	第43回大学英語教育学会(JACET)全国大会要綱		p. 284-285
英語学習に関わる認知的な要因（作動記憶）について	単著	平成17年 6月	大学教育学会第27回大会発表要旨集録		p. 111-112
外国語(英語)学習に関わる記憶の要因について	単著	平成17年 9月	第44回大学英語教育学会(JACET)全国大会要綱		p. 48-49
Cognitive Malle-ability of a Child with Down Syndrome	単著	平成18年 5月	The International Summit for the Alliance on Social Inclusion 2006		
外国語学習に関わる言語性および非言語性記憶について	単著	平成18年 9月	第45回大学英語教育学会(JACET)全国大会要綱		p. 114-115
英語学習困難に見られる認知的・言語的要因について	単著	平成19年 3月	第23回(平成18年度)関東地区大学教育研究会報告集(大学教育学会関東支部)初年次・導入教育-基礎ゼミ等の経験から		p. 9-15

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
-----	-----

平成15年4月	～	平成19年7月	大学英語教育学会(JACET)会員
平成15年4月	～	平成19年7月	全国語学教育学会(JALT)会員
平成15年4月	～	平成19年7月	大学教育学会会員
平成17年4月	～	平成19年7月	The International Dyslexia Association
平成17年4月	～	平成19年7月	Learning Disabilities Association of America
IV クラブ活動の指導業績			
1. 指導クラブ名		部	2. 役職
4. 現場指導の頻度		① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない	
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数： 日
6. クラブの競技力向上への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			

(表24)

5

所属	体育学部	職名	教授	氏名	荒木 雅信	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 「スポーツ心理学」・「メンタルトレーニング論」・「行動分析論」講義でのレポート作成指導と方法論の実習				H15年度前期～	毎回の授業のポイントについての理解を深めると共に文章作成能力の向上を図っている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 (1) スポーツ心理学講義ノート (2) メンタルトレーニング論講義ノート (3) 行動分析論講義ノート				H15年度前期～ H15年度前期～ H15年度前期～	講義ノートを作成し、初回の授業で配布し、活用法についてアドバイスした。 講義ノートを作成し、初回の授業で配布し、活用法についてアドバイスした。 講義ノートを作成し、初回の授業で配布し、活用法についてアドバイスした。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 日本高等学校野球連盟主催による講習会				H16年・17年3月	指導者を対象とした効果的なチーム作りと指導について講演をおこなった。		

(2) 大阪府教育委員会（教育センター）主催による講習会	H17年8月	指導者を対象とした効果的な（心理的）指導について講演をおこなった。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
こころとからだのしくみ	共著	平成16年7月	あいり出版	増原光彦・荒木雅信・上勝也	94頁～110頁
論文					
Contingent Muscular Tension during a Choice Reaction Task.	共著	2006年6月	Perceptual and Motor Skills	荒木雅信・調枝孝治	736頁～746頁
Order of a Uniform Random Presentation on Contextual Interference in a Serial Tracking Task	共著	2006年6月	Perceptual and Motor Skills	杉山真人・荒木雅信・調枝孝治	839頁～854頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成14年4月 ～ 現在	大阪体育学会理事
平成14年4月 ～ 現在	日本オリンピック委員会・強化スタッフ（アーチェリー）
平成16年4月 ～ 現在	日本パラリンピック委員会・強化部委員
平成16年4月 ～ 現在	日本ライフセービング協会理事（スポーツ担当）
平成18年4月 ～ 現在	日本スポーツ心理学会理事

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	ライフセービング 部	2. 役職	部長	3. 部員数	30 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回	延べ日数： 7 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名	期 間	場 所		

全日本ライフセービング室内選手権大会	2007年5月12～13日	横浜市
全日本ライフセービング学生選手権大会	2007年9月22～23日	千葉県御宿町
全日本ライフセービング選手権大会	2007年10月6～7日	神奈川県藤沢市

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開催期間	大会名	成績	場所
H17年9月23～24日	全日本ライフセービング学生選手権大会	男子総合4位	御宿町
H17年9月23～24日	全日本ライフセービング学生選手権大会	ビーチフラックス優勝	御宿町
H18年9月	ライフセービングチャンピオンシップ島根カップ	総合優勝	浜田市

(表24)

6

所属	体育学部	職名	教授	氏名	井田 國敬	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 講義「スポーツ社会学」 (1) 教育内容・方法など (2) 成績評価など (3) 「学生による授業評価」など				平成15～19年度	(1) スポーツ・体育をめぐる社会的・文化的現象、さらにその社会病理的状況等の基礎的テーマについて、学生の理解と問題意識の向上を期して毎週の講義内容の要点を資料として配布し、OHPを併用して講義した。 (2) 課題への関心喚起のためのレポートおよび期末定期試験を課した。専門必修科目としての学修水準確保のために、再試験・次期再履修にこだわっている。 (3) FD委員会による「授業評価」を毎学期末に実施した。受講マナーに対する厳しい指導について、賛否両論がある。真摯な学生の辛口の評価から授業改善のヒントを得ている。		
講義「スポーツ文化研究」 (1) 教育内容・方法など (2) 成績評価など (3) 「学生による授業評価」など				同上	(1) 近代スポーツの源流である英国のスポーツ文化・風土・精神などの理解を目的として、文献資料などを駆使しテーマの深化を図る。 (2) 「スポーツの意味」の探求を期す授業として、授業前後のレポートを頻繁に課して、関心と問題意識の向上を図った。 (3) 新しい知見を得てスポーツを考える機会として、「評価」ははかなり高かった(平成18年度実施)		
演習「体育学演習IおよびII」				同上	「スポーツに係わる社会的・文化的現象の考察」を課題として、10名弱の小グループ演習として、テーマに対する学生自らの能動的な活動(資料作り、発表、討論など)を重視し、その向上を督励した。学業と生活全般に関し、個々の学生との面談やEメールでの交流に留意した。		
演習「教養演習」				平成15～18年度	大学(体育大学)で学ぶこと、スポーツの意味、聴く・読む・書く等の活動の基本的な意味と方法を概説した。また若者・スポーツ選手の生き方について文献・映像フィルムを教材にして討論した。		

演習「総合演習」	平成19年度	学生個々が「青少年」「家族」をキーワードとする新聞記事を探り上げ、その要点・関連内容等を資料化し、口頭発表・討論・批評レポート作成をし、その試みの中で種々のスキルを習得すると共に、社会的問題意識の向上を図る。
2. 作成した教科書、教材、参考書 (1) 「スポーツ社会学」講義資料およびOHP原稿 (2) 「スポーツ文化研究」講義資料	平成15～19年度	(1) シラバスの授業計画に従い、講義内容を資料（配布用）及びOHPを活用し、講義内容の理解の深化を図った。 (2) 同上
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) 日本体育協会講習会（講師） (2) 堺市スポーツ指導者養成講座（講師）	平成15～19年度 平成17年度	(1) 競技別B級指導者・上級指導者養成（スポーツ社会学分野） (2) 堺市公認スポーツ指導者養成（同上）
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「基礎から学ぶ体育・スポーツの科学」第1部2章社会的現象としてのスポーツ	共著	平成19年度4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	26頁～29頁
「基礎から学ぶ体育・スポーツの科学」第4部3章アマチュアリズムとプロフェッショナルリズム	共著	平成19年度4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	288頁～291頁
論文					

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
昭和41年4月 ～	現在 日本体育学会会員
昭和41年4月 ～	現在 大阪体育学会会員
平成8年8月 ～	現在 International Society for Comparative Education and Sport 会員

IV クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名				
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				

(表24)

7	所属	体育学部	職名	教授	氏名	伊藤 章	大学院における研究指導担当資格の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) パワーポイントを使いながら、資料、板書を併用し、聴覚障害者にも分かりやすいように配慮している。 道具を用いる。				言葉での説明の内容はできる限り板書ををするようにしている。 道具を用いて実際に動かしながら説明している。				
2. 作成した教科書、教材、参考書 毎授業資料を配布し、切り貼りをしながらのノート作りを指導している。								
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 授業がバイオメカニクスと陸上競技に関連したものであるため、私の研究そのものが授業に役立っている。				研究業績を参照				
4. その他教育活動上特記すべき事項								

II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数	
著書						
バイオメカニクス：身体運動の科学的基礎	共著	平成16年10月	杏林書院	金子公宥，福永哲夫	197頁～202頁	
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編集	232頁～235頁	
スポーツ科学辞典	共著	平成18年9月	平凡社	社団法人日本体育学会監修	25頁～27頁	
論文						
ハンマー投げ記録と半間ヘッド速度の関係	共著	平成18年7月	体育学研究（第51巻第4号）	坂東美和子，田邊 智	505頁～514頁	
Biomechanical analysis of the javelin at the 2005 IAAF World Championships in Athleitics	共著	平成18年6月	IAAF New Studies in Athleitics (21;2)	M. Murakami, S. Tanabe, M Ishikawa, J. Isolehto, P.V. Komi	67頁-80頁	
Changes in the step width, step length, and step frequency of the world's top sprinters during the 100 metres	共著	平成18年9月	IAAF New Studies in Athleitics (21;3)	M. Ishikawa, J. Isolehto, P.V. Komi	35頁-39頁	
A three dimensional analysis of the contributions of upper limb joint movement to horizontal racket head velocity at ball impact during tennis serving	共著	平成19年9月	Sports Biomechanics (6;3)	S. Tanabe	418頁-433頁	
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動						
期 間		内 容				
平成7年4月	～	現在	日本スポーツ方法学会理事			
平成9年4月	～	現在	日本バイオメカニクス学会理事			
平成14年4月	～	現在	大阪体育学会副会長			
平成14年4月	～	現在	日本体育学会代議員			
平成15年4月	～	現在	体育学研究編集委員			
IV クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	陸上競技 部		2. 役職	コーチ	3. 部員数	約200人
4. 現場指導の頻度	③	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回		延べ日数： 5 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			

8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所
	関西インターカレッジ		5月	年によって異なる
	西日本インターカレッジ		9月	年によって異なる
	日本インターカレッジ		6月	年によって異なる
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間		大会名	成績	場 所
5月18日～20日		関西インターカレッジ	男子400mリレー優勝	奈良・鴻池陸上競技場
9月14日～16日		西日本インターカレッジ	男子400mリレー優勝	岐阜・メモリアル競技場
5月18日～20日		関西インターカレッジ	男子総合優勝	奈良・鴻池陸上競技場
5月18日～20日		関西インターカレッジ	女子総合優勝	奈良・鴻池陸上競技場

(表24)

8

所属	体育学部	職名	教授	氏名	伊藤 美智子	大学院における研究指導担当資格の有無	○有 ・ 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				平成15年より	ノートは、ワークブック編と記録編の2部構成になっている。ワークブック編については、ダンスの理論や学習指導要領での取り扱いについて、解説と設問についてレポートを作成するようになっている。実技のみならず理論的な枠組みをしっかりと確立させることを目的として、行わせている。記録編では、毎時間の授業内容の記録を行い、自らの経験知を記録し、今後の指導に役立てるようになっている。このノートは、年2回提出させ、指導後返却している。		
(1) 「ダンス」実技授業におけるノート課題の指導							
(2) 「演習Ⅰ・Ⅱ」におけるビデオ教材の活用				平成15年より	体育科教育コースに所属する演習学生に対して、小・中・高校の教育現場における授業場面の映像を用いて、より効果的な学習が進められるようにした。当該のビデオ撮影は、現場の協力を得て、教育実習・研究授業などで撮影したものである。		
2. 作成した教科書、教材、参考書				平成16年4月	ダンス授業の指導法をわかり易く解説し、CD-ROMをつけたテキストを作成した。		
1. 踊るこころ 踊るからだ ダンス (CD-ROM付テキスト)				平成18年5月	より具体的な学習内容を提示し、誰にでも指導できるモデル授業を明らかにしたDVD付テキストを作成した。		
2. 踊る 創る 見る 創作ダンスの授業 (DVD付テキスト)				平成15年より	ダンス学習に関する内容を的確にまとめ、学生の学習活動やその記録をまとめやすい形式で作成した。また、学習指導要領での取り扱いや授業において学ぶ認知的学習内容の確認などが容易に行なえるようになっている。		
3. 「ダンス」実技授業における学習ノートの作成							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				平成16年7月17日	指導者を対象としてダンス実技を行なった。		
(1) NPO法人MGLA 体操講習会							

(2) 三重県四日市市研究協議会共催研修会	平成17年5月12日	中学校教員を対象として、ダンス実技指導を行なった。
(3) 三重県四日市市中学校保健体育科教育研究協議会	平成17年8月26日	中学校教員を対象として、障害者のダンス指導に関する実技講習を行なった。
(4) 大阪府和泉養護学校教員研修会	平成17年12月12日	教員に対して障害者のダンス指導に関する実技講習を行なった。
(5) OSPAスポーツ大学講師	平成15年より毎年 3月	大阪体育大学と大阪市の提携によって毎年開催される社会人対象の講座を担当した。 高校生を対象としてダンスセミナーを開催している。
平成15年～平成18年 大阪体育大学公開講座 ダンスセミナー開催 知的障害者のダンスグループ「ルード・フェアリー」のダンス指導	平成10年4月より	知的障害者のダンスグループに対してボランティアスタッフとして、ダンス指導を行い、社会的貢献と共に指導法研究を行なっている。

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	大修館書店	大阪体育学部編	138頁～141頁, 157頁～158頁 178頁～181頁
踊る 創る 見る 創作ダンスの授業 (DVD付)	共著	平成19年5月	レイシスソフトウエアサービス	©伊藤美智子、林信恵	
論文					

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成16年4月 ～ 平成19年7月	大阪府スポーツ振興審議会委員
平成16年4月 ～ 平成19年7月	日本体育学会会員
平成16年4月 ～ 平成19年7月	舞踊学会会員
平成16年4月 ～ 平成19年7月	日本体育科教育学会会員
平成17年4月 ～ 平成19年7月	大阪女子体育連盟理事
平成17年4月 ～ 平成19年7月	日本女子体育連盟特別会員

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	創作ダンス 部	2. 役職	監督	3. 部員数	20 人
4. 現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回	延べ日数： 6 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			

7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所
	全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）		8月5～9日	神戸文化ホール
	大阪体育大学単独公演		10月	大阪森之宮ピロティホール
	アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ（少人数による創作ダンスコンクール）		9月	富山県福岡町Uホール
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）				
開催期間		大会名	成績	場 所
平成15年8月		第16回全日本高校・大学ダンスフェスティバル（神戸）	特別賞受賞	神戸文化ホール
平成15年9月		アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ（少人数による創作ダンスコンクール）	松本千代栄賞受賞	富山県福岡町Uホール
平成15年9月		アーティスティックムーブメント・イン・トヤマ（少人数による創作ダンスコンクール）	特別賞受賞	富山県福岡町Uホール

(表24)

9

所属	体育学部	職名	教授	氏名	岩田 勝	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1)「リハビリテーション概論」講義				H15年～H19年半期	(1)主要項目には資料としてプリント配布し、板書を軸に講義する。		
(2)「アスレチックケア」実習 (3)「マッサージ法」実習				H15年～H19年半期	(2)(3)技術習得のため出席を促し、出欠を取る。手技の示範を多くおこない、個々の技術習得状況に応じ指摘指導を行い習熟度をたかめる。		
(4)「柔道」実技				H15年～H19年通年	(4)目標を「初段」修得に置き、基本、応用技を修得させる。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
(1)「基礎から学ぶ体育・スポーツの科学」(H18・19)、プリント				H15年～H19年	(1)障害・外傷の処置と後療法		
(2)(3)プリント、人体標本				H15年～H19年	(2)(3)プリントの配布、人体標本を活用し解剖学説明を行い理解度を高める。		
(4)プリント配布、ビデオの鑑賞				H15年～H19年	技の分類のプリント、「形」のTV鑑賞		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							

(1)「スポーツ障害・外傷の救急処置法」の講演	H15年～H19年	(1)(2) 各市行政、体育振興会、体育協会等主催のスポーツ指導員研修及びスポーツ指導員養成講座の講師として、選手のコンディショニング。スポーツ障害・外傷の予防、鑑別法、処置法など実習を交えて講義を行う。
(2)「スポーツマッサージ法」の講演	H15年～H19年	
4. その他教育活動上特記すべき事項 「学生による授業評価」を実施	H15年～H18年度	FD委員会による授業評価を受けて、学生の意見を参考にして改善を図る。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	(株)大修館書店	大阪体育大学体育学部	262頁～265頁
論文					
Effect of postmenopausal exercise on the bone mineral density	共著	平成16年8月	Pre-Olympic congress 2004 Sport Science Through Tho Ages. Proceedings.	S. TAKISE, T. KAWAKAMI ET AL	381頁
高コレステロール血症がカルシウムパラドックスに及ぼす影響	共著	平成16年9月	体力科学 (第53巻6号)	河上 俊和、滝瀬 定文、他	845頁
運動が骨細胞に及ぼす形態学的研究	共著	平成17年9月	体力科学 (第54巻6号)	儀満 大輔、滝瀬 定文、他	471頁
骨折治癒過程におけるラット脛骨微細血管構築の形態学的研究	共著	平成18年9月	体力科学 (第55巻6号)	向井 裕貴、滝瀬 定文、他	859頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
～ 現在	日本体育学会 会員
～ 現在	関西学生柔道連盟 理事長
～ 現在	(社)全日本学生柔道連盟 理事
～ 現在	(財)全日本柔道連盟 評議員

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	柔道 部		2. 役職	部長	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	3 回	延べ日数：	21 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				

8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所
	全日本学生女子柔道優勝大会		6月中旬	日本武道館
	全日本学生柔道体重別選手権大会(男子・女子)		10月中旬	日本武道館
	全日本学生体重別団体優勝大会		11月初旬	尼崎市記念公園総合体育館
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間		大会名	成績	場 所
平成16年5月23日		関西学生柔道優勝大会(団体・女子)	第3位	尼崎記念公園総合体育館
平成16年8月28・29日		関西学生体重別選手権大会(男子・女子)	48kg優勝、70kg準優勝、52kg第3位	グリーンアリーナ神戸
平成17年9月3・4日		関西学生体重別選手権大会(男子・女子)	60kg第3位、52kg優勝、第3位、70kg第3位、	岸和田総合体育館
平成18年5月27日		関西学生柔道優勝大会(団体・女子)	第3位	尼崎記念公園総合体育館
平成18年9月2・3日		関西学生体重別選手権大会(男子・女子)	57kg準優勝、3位、48kg3位、78超3位	岸和田総合体育館

(表24)

10	所属	大学	職名	教授	氏名	梅林 薫	大学院における研究指導担当資格の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				講義については、常に視覚的情報を提供するようにしている。(パワーポイントや動画などで)実技については、より実践的そして指導方法を意識しながらの授業展開を行っている。				
2. 作成した教科書、教材、参考書				運動学については、担当教員との毎年の打ち合わせにより、改訂を行いながら、テキストを作成している。				
運動学、体力トレーニング論のテキスト作成								

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
日本テニス協会での指導員講習会		テニスの授業展開については、テニス指導者講習会で発表している。体力トレーニング指導については、各地域でのトレーニング指導などで活用している。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	189-190頁、224~227頁、350 ~353ページ
体力とはなにか -運動処方その前に-	共著	平成19年3月	有限会社 ナップ	長澤純一編著	69~76頁
新版テニス指導教本	共著	平成17年9月	大修館書店	財団法人日本テニス協会	37~46頁、66~74頁、191~ 201頁、206~213頁
ポロテリーのテニスコーチング	共著	平成17年4月	大修館書店	梅林 薫監訳	
論文					
球技スポーツ戦術の一般化および統一理論	共著	平成15年3月	学習院大学スポーツ・健康科学センター 紀要 第11号	佐藤陽治	27~46頁
男子プロテニス選手におけるサービス速度 変化の戦術的効果に関する一考察	共著	平成15年3月	学習院大学スポーツ・健康科学センター 紀要 第11号	佐藤陽治	1~26頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成15年4月 ~ 平成19年3月	財団法人日本テニス協会 強化本部スポーツ科学委員会委員長
平成15年4月 ~ 平成19年3月	関西テニス協会理事、強化本部スポーツ医科学委員会委員長
平成17年4月 ~ 平成19年3月	運動生理学会理事、評議員
平成17年4月 ~ 平成19年3月	大阪府テニス協会常務理事
平成15年4月 ~ 平成19年3月	日本オリンピック委員会強化スタッフ（スポーツ医科学・マネジメント）

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	テニス（男子）部	2. 役職	監督	3. 部員数	30 人
4. 現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 3 回	延べ日数： 14 日			

6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所
	全日本学生テニス選手権大会	8月上旬	有明テニスの森公園（東京）
	関西学生テニス選手権大会	5月下旬、8月中旬	鞆公園テニスコート（大阪）
	関西学生テニスリーグ戦（1部）	9月下旬	舞洲テニスコート（大阪）
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）			
開催期間	大会名	成績	場 所
平成16年8月下旬	関西学生テニスリーグ戦（男子1部）		

(表24)

1 1

所属	体育学部	職名	教授	氏名	江刺 正吾	大学院における研究指導担当資格の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）			} H18. 6. 2～H19. 10. 24休職				
2. 作成した教科書、教材、参考書							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		

著書				
体操・薙刀からスポーツへー戦前の女子高等教育機関における身体教育ー		2003年	道和書院	
論文				

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動		人
期 間	内 容	
平成12年1月 ~ 平成13年12月	科学研究費委員会専門委員 (体育)	
~		

Ⅳ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人	
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名					
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					

(表24)

1 2	所属	体育学部	職名	教授	氏名	岡村 浩嗣	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
Ⅰ 教育活動								
教育実践上の主な業績				年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				2006, 2007年				
(1) 栄養管理では種々の食事療法についてQ&A形式の資料を作成し、学生が現実的な疑問に対して根拠に基づき考えられるよう工夫した。				2006, 2007年				
(2) スポーツ栄養学では、講義で使うスライドだけでなく、ポイントとなる説明の記述を加えて配布資料とした。								
2. 作成した教科書、教材、参考書								
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
4. その他教育活動上特記すべき事項								

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
新版コンディショニングのスポーツ栄養学	共著	2007	市村出版	樋口満編著	127-137
スポーツ・運動栄養学	共著	2007	講談社	加藤秀夫・中坊幸弘編	80-85
論文					
甘味、塩味、酸味および苦味の閾値に対する運動の影響	共著	2007	臨床スポーツ医学24（2）	岡村浩嗣、宮崎（金原）志帆	233-238
Effect of amino acid and glucose administration following exercise on the turnover of muscle protein in the hindlimb femoral region of Thoroughbreds. :	共著	2006	Equine vet J Suppl, 36	A Matsui, H Ohmura, Y Asai, T Takahashi, A Hiraga, K Okamura, H Tokimura, T Sugino, T Obitsu and K Taniguchi.	611-616
運動負荷したサラブレッドにおける同位体アミノ酸（L-[ring-2H5]-phenylalanine）標識法による後肢大腿部タンパク質の合成および分解の測定：2コンポーネントメソッド（動脈と静脈濃度格差）	共著	2006	馬の科学43	松井朗、大村一、朝井洋、高橋敏光、平賀敦、岡村浩嗣、時村景子、杉野利久、小櫃剛人、谷口幸三	267-282
同位体アミノ酸をトレーサーとしたウマの大腿部筋の筋タンパク質合成および分解速度測定方法の確立	共著	2006	馬の科学43	松井朗、大村一、朝井洋、平賀敦、岡村浩嗣、時村景子、杉野利久、小櫃剛人、谷口幸三	8-18
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
1999年 ~		日本体力医学会評議員			
2003年 ~		日本オリンピック委員会情報・医・科学専門委員会科学サポート部会			
2003年 ~		日本テニス協会スポーツ科学委員会サポート部会			
2003年 ~ 2004年		スポーツ選手の栄養調査・サポート基準値策定及び評価に関するプロジェクト（国立スポーツ科学センター）			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	空手道部／ボクシング部		2. 役職	部長	3. 部員数 10/10 人
4. 現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 回		延べ日数： 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		④	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		

8. 部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				

(表24)

13

所属	体育学部	職名	教授	氏名	岡崎 勝博	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
「学校保健」		平成18年	学生の自主的な学びを組織し、授業において学生主体のシンポジウムを開催した。				
2. 作成した教科書、教材、参考書							
保健指導ビデオ「わたしたちのからだと健康 VOL5 環境汚染と健康」		平成19年	環境汚染と健康の関係について解説を行ったビデオ				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
「貝塚市教育委員会健康体力部会」研究会の講師		平成18年10月11日	子どもの体力・健康度を向上させるための方法について解説				
「泉南市信達小学校講演」の講師		平成18年10月19日	食育と子どもの体力・健康度の向上について				
「貝塚第二中学校 PTA対象の講演」の講師		平成19年1月29日	「早寝・早起き・朝ご飯」運動の効果について				
貝塚市教育振興学校保健部研修会の講師		平成19年7月10日	楽しい保健授業づくりの工夫				
岸和田保健所主催「学校における喫煙防止教育研修会」の講師		平成19年8月1日	「誰でもできる!! 喫煙防止教育の授業づくり」				
「貝塚市教育フォーラム2007」の講師		平成19年8月8日	「健康力アップ」～レッツ、生き生き生活～				
泉南市管理職研修の講師		平成19年8月27日	「食育について～管理職として～」				
第17回全国教職員養護教員部近畿ブロック学習交流会分科会共同研究者		平成19年9月8日	子どもを主体とした教育としての健康診断について				
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
最新「『授業書』方式による保健の授業	共著	平成16年11月	大修館書店	藤田和也 他18名	31頁～36頁、72頁～78頁、 102頁～107頁		
子どもの「社会的自立」の基礎を培う	共著	平成19年4月1日	教育開発研究所	山口満 他45名	26頁～29頁		

論文					
運動習得過程における「スポレコ」の有効性とその授業開発	共著・筆頭	平成16年3月	筑波大学附属駒場論集第43集		123頁～132頁
中学生の食事改善のための教育プログラムの開発（第1報）	共著	平成16年3月	筑波大学附属駒場論集第43集		133頁～147頁
「体育・スポーツ、健康文化の再構築を」	単著	平成16年10月	雑誌「体育科教育」（第52巻第12号）		34頁～37頁
「スポーツテストを利用し、長期的な観点から授業を構想しよう」	単著	平成17年5月	雑誌「体育科教育」（第53巻第5号）		62頁～65頁
「日本の保健科教育は行動主義的保健教育を選択すべきか」	単著	平成17年5月	雑誌「体育科教育」（第53巻第5号）		58頁～60頁
「保健教育における実践力を考える」	共著	平成18年8月	雑誌「体育科教育」（第54巻第8号）		10頁～15頁
「『健康でなければ淘汰されるいのち』の時代」	単著	平成18年11月	雑誌「現代スポーツ評論」（第15巻）		109頁～115頁
「体育学部の教員養成コースから見た『実践的指導力』の育成」	単著	平成19年10月	「体育科教育学研究」（24巻1号）		作成中

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
～	

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）				

(表24)

14

所属	体育学部	職名	教授	氏名	金子 公有	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 1) 「演習Ⅰ（3年生）での教育方法 「演習Ⅱ（4年生）」での教育方法 2) 「視覚教材の利用」 3) 大学院の講義・実習	平成18年度	年度前半は「パワーアップの科学」（拙著）を輪読させ、後半は卒論研究テーマを模索するための文献抄読を行なわせた。 年度当初に各自の卒論テーマを確認し、予備実験を必要とするものと、すぐ本実験に取り掛かれるものに分けて実験を行なった。卒論発表会では各自パワーポイントを用いて成果を発表した。 パソコンによる計算処理とパワーポイントによる成果の発表 バイオメカニクス特論（修士2年次） 高齢者の歩行動作をバイオメカニクス的に分析するとともに、それらを教材として「研究のあり方」を指導した。 バイオメカニクス特論（前期課程） 授業の前半には、1年生が各自の研究計画を、2年生が研究経過を報告して討論した。後半は教師がパワーポイントにより種々の研究例を紹介し、質問に応ずるかたちで授業を展開した。 スポーツ科学研究論（後期課程オムニバス授業） 各自の研究計画を聞いてコメントするとともに、教師自身の博士論文を紹介した。 スポーツ科学特論B（後期課程オムニバス授業） スポーツ・バイオメカニクスのトピックスをパワーポイントにて示し、質疑討論を行なった。
2. 作成した教科書、教材、参考書 1) 「スポーツ・バイオメカニクス入門」（学部） 2) 実験器具の製作、パワーポイントによる資料等（大学院）	平成18年度	学部の授業用に執筆した拙著「スポーツ・バイオメカニクス入門」を2006年3月に改訂し、それを参考書として用いた。 文献検索、実験計画と製作など、なるべく学生が自主的に楽しく学べるよう留意して授業を行なった。パワーポイントや印刷物も併用した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 1) 研究発表 2) 講演	平成18年度	日本体育学会、日本体力医学会において研究成果を発表した。（研究業績参照） 健康運動指導士の講習会で「運動力学」（3時間）を、NGFゴルフ指導者講習会で「ゴルフのバイオメカニクス」（2時間）をそれぞれ講じた。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					

バイオメカニクス～身体運動の科学的基礎～	共編	2004年10月	杏林書院	金子公有, 福永哲夫	
論文					
高齢者の肘屈筋における力-速度関係とパワー	共著	2004年1月	体育学研究第49巻第1号	田路秀樹, 金子公有	
マシード歩行の動作とエネルギー消費量	共著	2004年3月	大阪体育学研究第42巻	村上雅俊, 田中ひかる, 金子公有	
Effect of multiple load training on the force-velocity relationship.	共著	2004年11月	Journal of Strength and Conditioning Research. 第18巻4号	田路秀樹, 金子公有	
金属バットと木製バットにおける打球速度と打撃動作	共著	2005年3月	大阪体育大学紀要第36巻	川端浩一, 金子公有	
宇宙船内「体操」のエネルギー消費量に関する事例研究	共著	2005年3月	体育学研究第50巻第2号	宮辻和貴, 田邊智, 金子公有	
シャトル・スタミナテスト(3分間シャトル) 評価基準案の作成	共著	2005年6月	体育の科学第55巻6号	金子公有, 中尾泰史, 淵本隆文, 藤田英和, 田路秀樹, 西垣利男, 末井健作	
ゴルフクラブのスイングウェイト(バランス)に関する一考察～慣性モーメントとの相関からみた「妥当性」について～	共著	2005年7月	ゴルフの科学第18巻1号	金子公有, 川端浩一	
高齢者の歩行における着地足の「足向角」について	共著	2006年3月	大阪体育学研究第44巻	澤山純也, 竹内裕樹, 金子公有	
野球バットの「振り易さ」に関わる慣性モーメントについて	共著	2006年3月	大阪体育大学紀要第37巻	川端浩一, 金子公有	
Energy expenditure while performing gymnastic-like motion in spacelab during spaceflight:case study	共著	2006年	Appl. Physiol. Nutr. Metab. 31	Kaneko, M., Miyatsuji, K., Tanabe, S.	1-4
力-速度関係からみた肘の屈筋と伸筋の特性比較	共著	2007年	日本生理人類学会誌 12(2)	田路秀樹, 金子公有	43-48
高齢者の歩行運動における身体重心動揺の3次元解析	共著	2007年	大阪体育学研究	宮辻和貴, 澤山純也, 川端浩一, 金子公有	1-11

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動			
期 間	現 在	内 容	
平成6年4月	～	現在	日本バイオメカニクス学会理事
平成10年4月	～	現在	日本体育学会代議員
平成17年4月	～	現在	大阪体育学会顧問
IV クラブ活動の指導業績			
1. 指導クラブ名		部	2. 役職
4. 現場指導の頻度		① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない	
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：
6. クラブの競技力向上への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			

(表24)

15	所属	体育学部	職名	教授	氏名	神崎 浩	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績					年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)								
講義ノートの作成					平成15年～	授業のポイント、用語の解説等を盛り込んだノートを作成し、それに沿った授業を展開している。また毎授業の終了前に、復習の意味で書売れボー津を書かせている。		
授業評価の導入					平成16年～	授業評価を積極的に導入することで、得られたデータや学生の意見をある程度反映させて、授業の改善をしている。		
パワーポイントを用いた視覚に訴える授業の導入					平成15年～	学生の理解を深めるためにパワーポイントを用い、視覚的に重要事項を示すことで、わかりやすい授業を心掛けている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書								
運動学・運動学概論講義ノート					平成15年～	授業のポイント、用語の解説等を盛り込んだノートを作成し、それに沿った授業を展開している。また毎授業の終了前に、復習の意味で書売れボー津を書かせている。		

スポーツ種目別ワンポイントトレーニング（共著）	平成17年	剣道のトレーニング方法について、筋電図による筋の活動様式をもとにそれに必要なトレーニング方法を写真を入れて解説した。
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学（共著）	平成19年	スポーツ科学概論の教科書として、「生涯スポーツと学校教育」を担当し、執筆した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
平成15年度 広島市「武道講話・武道講習会」講師	平成15年12月20日	広島市運動部活動地域連携実践事業連絡協議会（文科相委託事業）
平成15年度 学校支援社会人等指導者運動部活動外部指導者第2回研修会講師	平成16年2月9日	大阪府教育委員会教育振興室保健体育科
平成17年度 香川大学青少年剣道研修会講師	平成17年11月6日	香川大学
平成18年度 高槻市生涯スポーツ指導者養成講座講師	平成18年7月22日	高槻市教育委員会
4. その他教育活動上特記すべき事項		
大阪体育大学体育学部におけるカリキュラム改革	平成15・16年	カリキュラム改革委員会の委員として携わった。
愛知万博への剣道部の剣道デモンストレーション参加	平成17年8月	剣道を紹介するデモンストレーションの指導と当日の指揮を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ 体育・スポーツの基礎	共著	平成19年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	78頁～81頁
剣道上達大辞典 「剣道 攻めの極意」	共著	平成19年3月	B. B. MOOK ベースボールマガジン社	池田 哲雄編	26頁～43頁、83頁～89頁
技を極める剣道	単著	平成19年4月	ベースボールマガジン社		
論文					
剣道選手の対峙場面における心理的作用機序に関する実験的研究	共著	平成16年3月	大阪武道学研究（第12巻1号）	荒木 雅信	
剣道の正面打ち動作に関する動作学的研究	共著	平成17年3月	大阪体育大学紀要 36	伊藤 章	51頁～60頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成15年 ～	日本武道学会評議員
平成15年 ～	大阪学校剣道連盟常任理事
平成15年 ～	大阪市修道館師範

平成19年	～	関西学生剣道連盟理事			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	剣道部		2. 役職	総監督	3. 部員数 72人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：3回		延べ日数：30日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期間	場所	
	大阪学生選手権大会		4月下旬	大阪府内の大学体育館	
	関西学生選手権大会		5月中旬	大阪市中央体育館	
	西日本学生優勝大会		5月下旬	福岡市民体育館	
	大阪学生新人大会		6月中旬	大阪府内の大学体育館	
	全日本学生選手権大会		7月上旬	大阪府立体育館	
	大阪学生優勝大会		9月上旬	大阪府内の大学体育館	
	関西学生優勝大会		9月中旬	大阪市中央体育館	
	全日本学生優勝大会		10月下旬	日本武道館	
	関西学生新人大会		11月中旬	関西圏内の大学体育館	
	全日本女子学生優勝大会		11月下旬	愛知県武道館	
	全日本学生オープン大会		12月中旬 (2年に一度)	各地域連盟持ち回り	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間		大会名	成績	場所	
平成15年11月		全日本学生優勝大会	優勝	日本武道館	
平成15年7月		全日本学生選手権大会	3位、ベスト8	大阪府立体育館	
平成15年5月		西日本学生優勝大会	3位	福岡市民体育館	
平成15年9月		関西学生優勝大会	準優勝	大阪市中央体育館	
平成15年9月		関西女子学生優勝大会	3位	大阪市中央体育館	

平成15年5月	関西学生選手権大会	2位、3位	大阪市中央体育館
平成16年5月	西日本学生優勝大会	優勝	福岡市民体育館
平成16年9月	関西学生優勝大会	優勝	大阪市中央体育館
平成16年5月	関西学生選手権大会	優勝、3位	大阪市中央体育館
平成16年11月	関西学生新人大会	3位	近畿大学
平成17年9月	関西学生優勝大会	3位	大阪市中央体育館
平成17年5月	関西学生選手権大会	2位	大阪市中央体育館
平成17年11月	関西学生新人大会	優勝	近畿大学
平成18年7月	全日本学生選手権大会	優勝	日本武道館
平成18年5月	西日本学生優勝大会	2位	福岡市民体育館
平成18年9月	関西学生優勝大会	3位	大阪市中央体育館
平成18年5月	関西学生選手権大会	3位	大阪市中央体育館
平成17年11月	関西学生新人大会	優勝	近畿大学
平成19年5月	西日本学生優勝大会	3位	福岡市民体育館
平成19年5月	関西学生選手権大会	3位	大阪市中央体育館
平成19年7月	全日本学生選手権大会	3位、ベスト8	大阪府立体育館

(表24)

16	所属	体育学部	職名	教授	氏名	木本 毅	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「総合演習」の実践的指導のあり方			平成19年7月	環境概論講義、ビデオ教材視聴、課題発見学習、調査研究活動、グループ発表、グループ討議、全体発表、評価				
2. 作成した教科書、教材、参考書 「教育行政」指導資料集			平成19年4月	教育行政の法律主義及びその組織と機能、教育課程行政と学習指導要領、教育改革、教育財政、スポーツ行政、学校運営、教員の任用服務研修処分等				

「教師論」指導資料集	平成19年4月	教職の意義、理想の教師像、教職観、教員の職務、任用、服務、処分、待遇等
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 学校経営特論「教育改革と特色ある学校創り」和歌山大学教育学研究科 集中講義「学校教育の現状と課題」和歌山大学教育学部	平成19年1月 平成18年8月	総合学科、単位制課程、中高一貫教育、学校間連携、特色ある学科の新設 現行学習指導要領の目指す教育、初等中等教育の今日的課題とその解決ほか
特別講義「管理職のリーダーシップ」和歌山大学教育学研究科 特別講義「授業改善と学校経営」和歌山大学教育学研究科 学校経営特論「高等学校経営の基本スタンス」和歌山大学教育学研究科 特別講義「教育課程の編成と学校経営」和歌山大学教育学研究科 特別講義「学力形成と学校マネジメント」和歌山大学教育学研究科	平成18年2月 平成18年10月 平成18年12月 平成17年10月 平成17年7月	高等学校管理職の学校経営ー中高一貫教育の推進、学科の新設、入試改革ほか 学習理論、学習動機論、学習での自律、意欲を高める指導、授業改善の視点 教師の力量形成、研修と学校運営、学校改革の基本的視点ほか 現行学習指導要領と中学校高等学校の教育課程の編成および学校運営ほか 学力論、学力形成に果たす教師の役割、学習理論、教育心理学、教員研修ほか
4. その他教育活動上特記すべき事項 特別講演「高校生はいま」全国高等学校PTA連合会近畿大会	平成15年8月	現代高校生像、高校教育の現状と今日的課題およびPTA活動の果たす役割

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
選ばれる学校づくりに向けた取組み	単著	平成15年7月	全国普通科高等学校長会誌51号	文系専門学科及び併設型中高一貫教育校の開設、長期休業日の短縮	P144-146
高校入学者選抜における学力問題の自校作成	単著	平成14年7月	全国普通科高等学校長会誌50号	高校入学者選抜試験問題の自校作成の取組みと学校経営活性化	P147-148

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成19年4月 ~	日本教育経営学会 会員
平成19年4月 ~	日本教育行政学会 会員
平成19年4月 ~	関西教育経営学会 会員
平成17年6月 ~	和歌山日独協会 理事（18年度より） 常務理事
平成17年9月 ~	和歌山日米協会 理事
平成15年4月 ~	平成16年3月 和歌山県高等学校長会 副会長

IV クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	女子軟式野球同好会 部		2. 役職	部長
3. 部員数	7 人			
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない		
5. 合宿指導	年間合宿回数：	0 回	延べ日数：	0 日
6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所
	全日本大学女子野球選手権大会		平成19年8月21日～26日	富山県魚津市
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				

(表24)

17	所属	体育学部	職名	教授	氏名	河島 英隆		有・無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)								
授業評価を実施し、授業改善を図っている。				レポートを課し、その中で授業評価、理解度を把握することで授業内容や授業方法に反映させている。				
2. 作成した教科書、教材、参考書								
(1) テニスのカリキュラムと指導法 (河島英隆編著)			平成15年3月初版	テニスの技術に加え、指導にも役立つよう授業の構成・展開。及び指導法を纏めたものである。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
(1) 高槻市教育委員会指導者講習会			平成15年5月24日	スポーツ指導者の役割と責任を主に2時間の講演を行った。				
4. その他教育活動上特記すべき事項								
(1) 茨木市民テニス教室			平成15年～平成19年	茨木市教育委員会が主催する年に2季のテニス教室。ヘッド講師として年間計、20回の教室を担当。本学学生も指導実習生として時折、参加している。				
(2) 関西学生テニス連盟講習会			平成17年4月17日	主として指導者不在の大学の主将を対象に、練習計画の立て方、練習法、及びチーム運営に関する講習会を行った。				

II 研究活動						
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数	
著書						
テニスのカリキュラムと指導法	共著	平成17年3月改訂	大同印刷所	河島英隆編著、梅林薫、畑山雅史、松原慶子	1頁～40頁，45頁～47頁	
論文						
コーチング メモランダムⅧ	単著	平成16年2月	権第8号		9頁～12頁	
コーチング メモランダムⅨ	単著	平成17年2月	権第9号		39頁～4頁	
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動						
期 間		内 容				
昭和61年3月	～	現在	関西学生テニス連盟部長監督会 理事長			
平成12年4月	～	平成16年3月	全日本学生テニス連盟部長監督会 副会長			
平成16年4月	～	現在	全日本学生テニス連盟部長監督会 会長			
IV クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	テニス 部		2. 役職	部長・総監督	3. 部員数	70 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 4 回		延べ日数： 20 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間		場 所	
	関西学生春季テニストーナメント		予選：5月、本戦：6月		鞆テニスセンター	
	全日本学生テニス選手権		8月～9月		有明テニスセンター他	
	関西大学対抗リーグ戦		9月～10月		舞洲シーサイドテニスガーデン他	

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
平成18年度	関西大学対抗テニスリーグ戦	男子1部3位	舞洲シーサイドテニスガーデン他
平成17年度	大阪毎日オープンテニス選手権	男子ダブルス優勝	靱テニスセンター

(表24)

18

所属	体育学部	職名	教授	氏名	栗山 佳也	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
2. 作成した教科書、教材、参考書							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	大修館	本学教員	244頁～247頁		
論文							
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動							
期間		内容					
平成12年4月～		日本陸上競技連盟強化委員					
平成15年4月～		関西学生陸上競技連盟ヘッドコーチ					
平成15年4月～		日本学生陸上競技連合強化委員					
平成18年4月～		日本学生陸上競技連合理事					
平成18年4月～		近畿陸上競技協会常任理事					

IV クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	陸上競技部	2. 役職	監督	3. 部員数 280 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない		
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回	延べ日数： 7 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所	
	関西学生陸上競技対校選手権大会	5月中旬(4日間)	長居陸上競技場ほか	
	日本学生陸上競技対校選手権大会	6月上旬(3日間)	国立競技場ほか	
	日本陸上競技選手権大会	7月上旬(3日間)	国立競技場ほか	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間	大会名	成績	場 所	
平成19年5月14・18・19・20日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男女総合優勝	鴻池陸上競技場・奈良	
平成18年5月14・18・19・20日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男女総合優勝	長居陸上競技場・大阪	
平成17年5月19・20・21・22日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合2位、女子総合優勝	長居陸上競技場・大阪	
平成16年5月20・21・22・23日	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合2位、女子総合優勝	長居陸上競技場・大阪	
平成15年5月3週目	関西学生陸上競技対校選手権大会	男子総合2位、女子総合優勝	長居陸上競技場・大阪	
平成18年6月9・10・11日	日本学生陸上競技対校選手権大会	女子総合6位	横浜競技場	

(表24)

19	所属	体育学部	職名	教授	氏名	坂田 好弘	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				平成16～18年	毎回の授業で質問事項を準備し、その回答をレポートにして回収した。			
(1)Tell me and I forget. Show me and I remember. Involve me and I understand. の通り、一方的な授業でなく、質問を多くした学生参加の授業								

2. 作成した教科書、教材、参考書 (1)教科毎にパワーポイントとビデオを編集して使用	平成16～18年	ビジュアルな教材を使い、具体的なイメージのもとに理解を得た。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
NZラグビーにおける普及・育成方法		2004年3月	大体大紀要		

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成16年 ～ 平成19年	2007年ラグビーワールドカップフランス大会 親善大使
平成17年 ～ 現在	日本ラグビーフットボール協会 評議委員

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	ラグビー 部	2. 役職	部長・監督	3. 部員数	90 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	2 回	延べ日数：	17 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
	関西大学ラグビーAリーグ		10月～12月	花園ラグビー場 他	
	全国大学選手権		12月～1月	花園ラグビー場 国立競技場 他	

10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開 催 期 間	大 会 名	成 績	場 所
平成15年10月～12月	関西大学ラグビーAリーグ	2位	花園ラグビー場 他
平成16年10月～12月	関西大学ラグビーAリーグ	2位・3位	花園ラグビー場 他
平成17年10月～12月	関西大学ラグビーAリーグ	3位・2位	花園ラグビー場 他

平成17年12月	全国大学選手権	5位 (ベスト8)	花園ラグビー場
平成18年10月～12月	関西大学ラグビーAリーグ	優勝	花園ラグビー場 他
平成18年12月～19年1月	全国大学選手権	3位	花園・国立競技場

(表24)

20

所属	体育学部	職名	教授	氏名	坂本 康博	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) コーチング論 I				平成4年～	理解力向上と文章作成能力向上のために、毎時講義の残り10分間でレポートを作成し提出させている。内容、誤字脱字について次の講義で解説している。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 コーチング論 I 　　　　　　　　　私製テキスト				平成4年～	講義内容と参考資料(計42頁)を配布しOHPを使用して講義。重要事項と自分の意見を纏めるスペースを作り、そのつど記録させている。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 特別演習(サッカー)				平成15年～	(財)日本サッカー協会公認インストラクターの資格で、(財)日本サッカー協会公認C級コーチ並びに(財)日本体育協会公認指導員の両ライセンスを平成18年度までに80名認定。コーチングコース所属でサッカーI・IIを受講したサッカー部所属の学生に講義・指導実践を通しコーチング法を習得させ、ライセンス授与の判定を行う。		
4. その他教育活動上特記すべき事項							
1 (財)健康・体力づくり事業財団・健康運動指導士養成事業 講師				平成1年～	テーマ 楽しいボール運動(実技)		
2 サッカー部・サッカー部後援会共催・サッカーフェスティバル				昭和56年～	部員による小・中・高校の各部門別大会の企画・運営・審判の指導		
3 JC(泉佐野)杯・少年サッカー大会				平成3年～	部員による小学生のサッカー大会の企画・運営・審判の指導		
4 OUHSスポーツキャンプ				平成16年～	少年サッカーの実技指導		
II 研究活動							
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数	
著書							
高等学校「保健体育」		共著	平成16年	第一学習者	藤原喜悦他18名	154～156頁	
体育・スポーツの科学		共著	平成19年	大修館書店	大阪体育大学体育学部	38～41, 202～205, 236～237頁	
論文							

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動			
期 間		内 容	
平成15年	～	平成17年3月	全日本大学サッカー連盟 理事
平成8年	～	平成17年3月	関西学生サッカー連盟 副理事長
平成18年4月	～	現在	” 常任理事
昭和47年	～	現在	” 技術委員
IV クラブ活動の指導業績			
1. 指導クラブ名	サッカー（男・女） 部		2. 役職 部長・総監督 3. 部員数 200 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない	
5. 合宿指導	年間合宿回数：	3 回	延べ日数： 20 日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間 場 所
	関西春季リーグ・関西選手権・新人戦・関西秋季リーグ		4月～11月 関西各地
	総理大臣杯・全日本大学サッカートーナメント		7月 関西各地
	大学選手権 (全日本選手権)		12～1月 9～1月 関西各地・東京（日本各地）
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開 催 期 間		大 会 名	成 績 場 所
男子部 平成19年	関西学生選手権		優勝 (総理大臣杯出場) 関西
平成19年	関西学生春季リーグ		準優勝 関西
平成17年	関西学生新人戦		優勝 関西
平成16年	関西学生選手権		3位 (総理大臣杯出場) 関西
平成15年	関西学生秋季リーグ		3位 (全日本大学選手権出場) 関西

女子部	平成15年～平成19年	関西学生女子春季リーグ	連続全て優勝	関西
	平成15年～平成18年	関西学生女子秋季リーグ	連続全て優勝	関西
	平成18年度	全日本大学選手権	優勝	神戸・東京

(表24)

2 1

所属	体育学部	職名	教授	氏名	作道 正夫	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2. 作成した教科書、教材、参考書 (1) 「懸待一致の指導論」		毎年刷新	種目別指導法（指導実習の為）の資料として、各種講習会資料を細くしながら作成している。剣道という運動の捉え方、基礎基本の考え方、指導展開の具体・留意点について。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等			全国高等学校・中学校・剣道（部活動）指導者研修会（毎年1月4日から6日千葉県勝浦日本武道館研修センター）での指導・講演・意見交換				
4. その他教育活動上特記すべき事項 (1) アシスタント研修による指導体験（学生）			香川大学「青少年剣道研修会」12年間担当 実技指導（中・高校生）親子（小学生）剣道教室も担当。毎年約400名 「長野県王滝村剣道講習会」13年間指導 対象 全国の指導者 老若男女 約80名 本学学生も毎年3名程度参加				
(2) Exp o 剣道フェスティバル出演（全日本剣道連盟）		平成17年8月	経験者1000名、未経験者1000名に対して剣道の紹介デモンストレーション。約2ヶ月程度の取組を要した。 24名の学生が参加				
(3) 権10周年記念シンポジウム（大学スポーツを考える）座長		平成17年1月23日					
(4) 南フランス「剣心昨来講習会」		平成10年～	主宰（9回に及ぶ）				
(5) イタリア「剣道セミナー」		平成17・18年	2回				
(6) 全日本剣道連盟主催講習会			2回／年				
(7) 日本武道館主催練成講習会			1回／年				
(8) 大阪府剣道連盟主催講習会			5回／年				

(9) その他			2～3回/年		
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
「快剣撥雲」 —豊穰の剣道—	単著	平成16年11月	体育とスポーツ出版社		
「Budo Perspectives」 —武道のあらゆる観点—	共著	平成17年	KW Publication(Kendo World) New Zealand	Alexander Bernnet	p. 185-192
「日本の教育に” 武道” を」 21世紀に心技体を鍛錬	共著	平成17年11月	明治図書出版株式会社	山田 奨治・アレクサンダー・ベネット	p. 261-268
「剣道を通して打たれ強さを育む」	単著	平成19年2月	児童心理2月号 第61巻第2号		p. 107-111
「長期構想企画会議報告 ＜剣道指導の心構え＞について —時代と国境、世代を越えて—	単著	平成19年4月	財団法人全日本剣道連盟 月刊 剣窓		p. 14-17
「型剣術と竹刀剣道 —斬突から打突その身体技法の系譜—」	単著	平成19年8月	日本武道会指導部会シンポジウム講演原 稿		p. 5
論文					
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成17年9月 ～		全日本剣道連盟 参与 長期構想企画会議 委員			
平成15年9月 ～		平成17年3月	全日本剣道連盟 参与 普及委員会 委員		
平成16年 ～		平成19年	全日本剣道連盟 参与 剣道研究会 委員		
平成14年4月 ～		平成18年3月	大阪府剣道連盟 理事		
平成18年4月 ～			大阪府剣道連盟 常任理事		
昭和49年4月 ～			大阪市立修道館 師範（講師）		
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	剣道 部		2. 役職	師範	3. 部員数 72 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 3 回		延べ日数： 30 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		

7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
	大阪学生選手権大会	4月下旬	大阪府内の大学体育館
	関西学生選手権大会	5月中旬	大阪市中央体育館
	西日本学生優勝大会	5月下旬	福岡市民体育館
	大阪学生新人大会	6月中旬	大阪府内の大学体育館
	全日本学生選手権大会	7月上旬	大阪府立体育館
	大阪学生優勝大会	9月上旬	大阪府内の大学体育館
	関西学生優勝大会	9月中旬	大阪市中央体育館
	全日本学生優勝大会	10月下旬	日本武道館
	関西学生新人大会	11月中旬	関西圏内の大学体育館
	全日本女子学生優勝大会	11月下旬	愛知県武道館
	全日本学生オープン大会	12月中旬 (2年に一度)	各地域連盟持ち回り
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
平成15年11月	全日本学生優勝大会	優勝	日本武道館
平成15年7月	全日本学生選手権大会	3位、ベスト8	大阪府立体育館
平成15年5月	西日本学生優勝大会	3位	福岡市民体育館
平成15年9月	関西学生優勝大会	準優勝	大阪市中央体育館
平成15年9月	関西女子学生優勝大会	3位	大阪市中央体育館
平成15年5月	関西学生選手権大会	2位、3位	大阪市中央体育館
平成16年5月	西日本学生優勝大会	優勝	福岡市民体育館
平成16年9月	関西学生優勝大会	優勝	大阪市中央体育館
平成16年5月	関西学生選手権大会	優勝、3位	大阪市中央体育館
平成16年11月	関西学生新人大会	3位	近畿大学
平成17年9月	関西学生優勝大会	3位	大阪市中央体育館
平成17年5月	関西学生選手権大会	2位	大阪市中央体育館
平成17年11月	関西学生新人大会	優勝	近畿大学

平成18年7月	全日本学生選手権大会	優勝	日本武道館
平成18年5月	西日本学生優勝大会	2位	福岡市民体育館
平成18年9月	関西学生優勝大会	3位	大阪市中央体育館
平成18年5月	関西学生選手権大会	3位	大阪市中央体育館
平成17年11月	関西学生新人大会	優勝	近畿大学
平成19年5月	西日本学生優勝大会	3位	福岡市民体育館
平成19年5月	関西学生選手権大会	3位	大阪市中央体育館
平成19年7月	全日本学生選手権大会	3位、ベスト8	大阪府立体育館

(表24)

2 2	所属	体育学部	職名	教授	氏名	宍倉 保雄	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無	
I 教育活動									
教育実践上の主な業績				年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ハンドボール I（授業評価）				平成15年7月 平成16年7月 平成17年12月 平成18年12月	学生による授業評価を行い設問内容に対する評価を次年度の授業に反映している。				
2. 作成した教科書、教材、参考書 ステップワークを中心としたオリジナルDVDを作成				平成17年3月	ハンドボールのステップワークを中心として1:1, 2:2, 3:3までのグループ戦術をまとめ、授業に活用している。				
6:5のパワープレー時におけるフォーメーションDVDを作成				平成19年4月	パワープレー時の各種フォーメーションをDVD化し、授業に活用している。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本ハンドボール協会主催 NTS近畿ブロック講習会 講師				平成15年8月 平成16年8月 平成17年8月 平成18年8月	近畿ブロック：小学生・中学生・高校生男女約120名を集め、ナショナルトレーニングシステムについて実技指導及び当該指導者に対して講習会を行っている。				
4. その他教育活動上特記すべき事項									
II 研究活動									
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別		発行または発表の 年月		発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称		編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

著書						
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成17年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	190～191頁	
論文						
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動						
期 間		内 容				
昭和48年4月	～	現在	日本体育学会 会員 日本体力医学会 会員			
昭和49年4月	～	現在	関西学生ハンドボール連盟 理事			
昭和56年4月	～	現在	全日本学生ハンドボール連盟 競技担当理事			
平成12年4月	～	現在	NTS (ナショナルトレーニングシステム) 近畿ブロック コーディネーター			
平成15年4月	～	現在	岡山県国体成年男子 アドバイザーコーチ			
平成16年4月	～	現在	兵庫県国体少年男子 アドバイザーコーチ			
Ⅳ クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	男子ハンドボール 部		2. 役職	監督	3. 部員数	45 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 3 回		延べ日数： 21 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間		場 所	
	関西学生ハンドボール春・秋リーグ戦		4月から5月・9月から10月		京阪神地区	
	関西学生ハンドボールトーナメント大会		6月		京阪神地区	
	西日本学生ハンドボール選手権大会		8月		西日本地区	
	全日本学生ハンドボール選手権大会		11月		日本各地	

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
平成15年4月～5月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成15年8月	西日本学生ハンドボール選手権大会	優勝	名古屋
平成15年9月～10月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成15年11月	全日本学生ハンドボール選手権大会	第8位	青森
平成16年4月～5月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成16年8月	西日本学生ハンドボール選手権大会	第3位	大阪
平成16年9月～10月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	第2位	京阪神地区
平成16年11月	全日本学生ハンドボール選手権大会	第8位	沖縄
平成17年4月～5月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成17年5月	西日本学生ハンドボール選手権大会	優勝	福岡
平成17年9月～10月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成17年11月	全日本学生ハンドボール選手権大会	第8位	横浜
平成18年4月～5月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成18年5月	西日本学生ハンドボール選手権大会	優勝	岡山
平成18年9月～10月	関西学生ハンドボール秋季リーグ戦	優勝	京阪神地区
平成18年11月	全日本学生ハンドボール選手権大会	第3位	名古屋
平成19年4月～5月	関西学生ハンドボール春季リーグ戦	優勝	京阪神地区

(表24)

23

所属	体育学部	職名	教授	氏名	杉本 政繁	大学院における研究指導担当資格の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) アメリカを中心とした世界体育・スポーツ年表と資料集作成				平成15年頃			
2. 作成した教科書、教材、参考書 基礎から学ぶ「体育・スポーツの科学」(編集・執筆)				平成18年1月	スポーツ文化を育む体育・スポーツの基礎の編集執筆および西洋と日本の学校体育史執筆。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							

4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ「体育・スポーツの科学」	共著	平成18年1月	大修館	淵本、上、藤本、伊藤 他	1～75頁、164～171頁
論文					
ヒギンソン.T.Wの「聖者と肉体。」	単著	平成16年3月	大阪体育学研究、No42		1～10頁
ミルトンの体育思想 -Of education(1644)に見るルネサンス期の体 育-	単著	平成17年4月	大阪体育大学紀要、第36巻		1～9頁
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成12年4月 ～ 平成20年3月		大阪体育学会理事			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	トライアスロン 部		2. 役職	部長	3. 部員数 12 人
4. 現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 回		延べ日数： 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					
開 催 期 間		大会名		成 績	場 所
平成16年9月7日		日本学生選手権		団体優勝・個人3位・5位	岐阜県海津町
平成16年10月17日		2004日本学生スプリント(チームTTの部)		女子2位	群馬
平成17年3月27日		日本デュアスロン選手権		個人(豊岡)6位	長良川

平成17年	日本学生スプリント選手権	女子団体6位	
平成17年12月26日	第1回日本学生デュアスロン	個人(豊岡)優勝	東京
平成17年12月26日	スーパースプリント	女子団体優勝	東京

(表24)

2.4

所属	体育学部	職名	教授	氏名	滝瀬 定文	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)							
1)健康指導管理論、衛生学でのレポート作成指導				平成15年度～	毎回の授業で、当日の講義内容に関する課題についてレポートを作成させている。授業内容に関する課題をまとめることにより理解度を高め、文章作成から論理的思考力の向上を図っている。		
2)視覚教材活用(プレゼンテーション形式)による理解度の向上				平成15年度～	ノートパソコンとプロジェクターを用いて、講義内容に関連する資料について映像や写真を豊富に活用し、講義内容をビジュアルな側面からも提示することにより、理解度の向上を図っている。		
3)学生による授業評価の実施				平成15年度～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて講義方法等の改善を行っている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
健康指導管理論テキスト(大同出版)				平成16年度～	シラバス計画に則したテキストを作成している。テキストには、研究データを豊富に活用し、健康管理及び運動指導について科学的根拠に基づいた最新資料をまとめている。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
大阪体育大学及び西安体育学院による交流協定20周年記念式典学術講演				平成18年6月	大学及び大学院教員、大学院生を対象に大阪体育大学におけるスポーツ医学研究に関する講演を行った。		
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月10日	株式会社 大修館書店	大阪体育大学体育学部編	322頁～325頁 346頁～349頁		

論文					
大学競泳チームにおける心理的サポートの実践	共著	平成15年	大阪体育大学紀要（第34巻）	土屋裕睦，川島康弘，滝瀬定文	83頁～94頁
インピーダンス法による高精度体成分分析装置を用いた体組成と健康評価に関する一考察	共著	平成15年	大阪体育学研究（第42巻）	土肥啓一郎，梅林薫，上勝也，滝瀬定文，豊岡示朗，松生香里，松村新也，吉田精二，増原光彦	81頁～91頁
Effect of postmenopausal exercise on the bone mineral density	共著	平成16年	Pre-Olympic congress 2004 Sport Science Through The Ages. Proceedings.	Takise S., Kawakami T., Gima D., and Iwata M.	381頁～382頁
Effect of decreases in mechanical stresses on disuse bone atrophy	共著	平成16年	Pre-Olympic congress 2004 Sport Science Through The Ages. Proceedings.	Kawakami T., Takise S., Gima D., and Iwata M.	382頁
Effect of Exercise on the bone mineral density and bone cells after unloading in rats	共著	平成16年	Pre-Olympic congress 2004 Sport Science Through The Ages. Proceedings.	Gima D., Takise S., Kawakami T., and Iwata M.	377頁
閉経後の水泳運動が骨密度に及ぼす影響	共著	平成17年	スポーツ整復療法学研究（第7巻 第1号）	河上俊和、滝瀬定文、大川得太郎、儀満大輔、岩田勝、廣橋賢次	1頁～8頁
講義式授業の授業方法の改善に関する研究-教養科目「生物学」の授業方法改善の研究-	共著	平成17年	大阪体育大学紀要（第36巻）	阪本孝志、滝瀬定文	24頁～37頁
脛骨骨折部の牽引が仮骨形成と骨折部骨密度に及ぼす影響	共著	平成18年	中部日本整形外科災害外科学会誌（第49巻 第5号）	河上俊和、滝瀬定文、儀満大輔、廣橋賢次、河田弘	859頁～860頁
廃用性骨萎縮後の運動が骨細胞に及ぼす影響	共著	平成18年	中部日本整形外科災害外科学会誌（第49巻 第6号）	儀満大輔、滝瀬定文、河上俊和、廣橋賢次、河田弘	1133頁～1134頁
本学 [大阪体育大学] 臨海水泳実習の実施状況とその教育効果について	共著	平成19年	大阪体育大学紀要（第38巻）	川島康弘、土屋裕睦、滝瀬定文、増原光彦根	113頁～123頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成15年 ～	財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動指導士養成講習会 講師（現在に至る）
平成15年 ～	日本学生水泳連盟関西支部運営委員（現在に至る）
平成15年 ～	滋賀県 水口スポーツセンター記念事業 講師
平成15年 ～	大阪府吹田市 指導者講習会 講師（現在に至る）
平成16年 ～ 平成19年	日本スポーツ整復療法学会 評議員
平成16年 ～ 平成19年	日本スポーツ整復療法学会 関西支部長
平成16年 ～	日本体力医学会 評議員（現在に至る）
平成17年3月 ～	滋賀県水口町 記念講演 シンポジスト
平成17年8月 ～	京都踏水会 健康フォーラム シンポジスト

平成17年10月	～	第8回日整学術実技研修会、第13回日整生涯学習研修会 シンポジスト
平成18年1月	～	和歌山県中柔道整復師会 研究会 シンポジスト
平成18年6月	～	交流協定20周年記念式典 学術講演（西安体育学院、中華人民共和国）
平成18年9月	～	(財)大阪スポーツ・みどり振興協会 OSPAスポーツ大学 講師
平成18年10月	～	日本スポーツ整復療法学会 理事就任（現在に至る）
平成18年11月	～	日本スイミング協会 中国四国支部水泳医科学情報交換会 シンポジスト
平成18年11月	～	九州水泳連盟 水泳医科学シンポジウム シンポジスト
平成18年12月	～	大阪府堺市教育委員会 教育研修会 講師
平成19年1月	～	近畿整骨師会 学術研修会 講師
平成19年2月	～	大阪市 水泳医科学シンポジウム シンポジスト
平成19年4月	～	西宮市 体育指導員採用試験 試験官
平成19年6月、10月	～	(財)大阪スポーツ・みどり振興協会 OSPAスポーツ大学 講師

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	水上競技 部		2. 役職	部長・監督	3. 部員数	71（男34、女37）人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	男女各3回	延べ日数：	30日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間		場 所	
	関西選手権水泳競技大会		平成19年2月17、18日		東大阪アリーナ	
	第48回 日本短水路選手権水泳競技大会		平成19年3月3、4日		東京辰巳国際水泳場	
	第83回 日本選手権水泳競技大会		平成19年4月5～8日		千葉県国際水泳場	
	第14回 関西学生春季短水路公認記録会		平成19年4月14日		奈良県営室内プール	
	2007年度 大阪学生選手権水泳競技大会		平成19年5月20日		東大阪アリーナ	
	第6回 関西学生夏季公認記録会		平成19年6月3日		高槻市民プール	
	第1回 天理チャレンジ水泳競技大会		平成19年6月23、24日		天理大学プール	
	第81回 関西学生選手権水泳競技大会		平成19年7月27～29日		大阪プール	
	平成19年度 大阪府選手権水泳競技大会		平成19年8月4、5日		なみはやドーム	
第83回 日本学生選手権水泳競技大会		平成19年9月7～9日		東京辰巳国際水泳場		

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
平成15年7月30日～8月1日	第77回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	第39回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第2位	大阪プール
平成15年9月5日～7日	第79回 日本学生選手権水泳競技大会	女子200mバタフライ 第4位	東京辰巳国際水泳場
平成16年7月30日～8月1日	第78回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	第40回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第6位	大阪プール
平成16年9月3日～5日	第80回 日本学生選手権水泳競技大会	女子800m自由形 第5位	相模原市立総合水泳場
平成17年7月29日～31日	第79回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 優勝	なみはやドーム
〃 〃	〃 〃	男子400m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m背泳ぎ 優勝	〃
平成17年7月29日～31日	第79回 関西学生選手権水泳競技大会	男子200m背泳ぎ 第3位	なみはやドーム
〃 〃	〃 〃	男子100m平泳ぎ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mリレー 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子1500m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mメドレーリレー 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m背泳ぎ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m平泳ぎ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子800mリレー 第2位	〃
平成17年7月29～31日	第41回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第4位	なみはやドーム
〃 〃	〃 〃	女子200mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子100m平泳ぎ 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子800m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子100m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子400m個人メドレー 第2位	〃

平成18年 2月18～19日	平成18年 関西選手権水泳競技大会	優秀選手証	東大阪アリーナ
平成18年 2月25～26日	第47回 日本短水路選手権水泳競技大会	男子100m自由形 第7位	東京辰巳国際水泳場
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 第7位	〃
平成18年 4月20～23日	第82回 日本選手権水泳競技大会	男子200mバタフライ 第6位	東京辰巳国際水泳場
平成18年 7月28～30日	第80回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	男子400m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子1500m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m個人メドレー 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mメドレー 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m平泳ぎ 第2位	〃
平成18年 7月28～30日	第42回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第4位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	女子200m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子400m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m平泳ぎ 第3位	〃
平成18年 9月1～3日	第82回 日本学生選手権水泳競技大会	男子200m自由形 第5位	東京辰巳国際水泳場
平成18年 9月1～3日	第82回 日本学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形 第5位	東京辰巳国際水泳場
平成19年 3月3～4日	第48回 日本短水路選手権水泳競技大会	男子200m自由形 第7位	東京辰巳国際水泳場
平成19年 7月27～29日	第81回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第2位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	男子200mバタフライ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子1500m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100mバタフライ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子100mバタフライ 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mメドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子400m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m背泳ぎ 第3位	〃
平成19年 7月27～29日	第43回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	女子200mリレー 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子800m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子400m個人メドレー 第3位	〃

25

所属	体育学部	職名	教授	氏名	豊岡 示朗	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
2. 作成した教科書、教材、参考書 体カトレーニング論ノート			平成元年に作成し、以後、毎年少しずつ修正、加筆してテキストとして用いている。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		10月 6月～12月	健康運動指導士講習会講師 アミノバリューホノルルマラソンクラブ主宰				
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
基礎から学ぶ体育・スポーツ科学	共著	平成17年3月	大修館	大阪体育大学	70～73頁、342～345頁		
論文							
大学女子中長距離選手の追跡研究—1年間のトレーニングによる記録と生理学的指標の変化	共著	平成16年3月	陸上競技紀要（第17巻）	◎石川敬史 松生香里 豊岡示朗	16頁～43頁		
運動強度と運動時館から見た脂質代謝特性	共著	平成16年3月	大阪体育大学紀要	◎豊岡示朗 荒松馨 松生香里	39頁～50頁		
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動							
期 間		内 容					
昭和58年 ～		大阪国際女子（TV）、名古屋国際女子（ラジオ）、マラソン解説者					
平成15年4月 ～		関西学生陸上競技連盟評議委員					
平成16年4月 ～		ランニング学会 理事長					
平成16年9月 ～		JOC企画情報委員					
平成19年4月 ～		大阪府体育協会スポーツ医科学委員会副委員長					
IV クラブ活動の指導業績							
1. 指導クラブ名	陸上競技	部	2. 役職	部長	3. 部員数	250 人	

4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	4	回	延べ日数：	40	日
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み		②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期間		場所	
	全日本大学陸上競技選手権大会				東京	
	全日本大学選抜女子駅伝				筑波	
	全日本大学女子駅伝				仙台	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						
開催期間		大会名		成績		場所
平成15年7月		全日本学生陸上選手権大会		女子10000m 第2位		横浜
平成15年8月		第22回ユニバーシアード2003		女子10000m 第5位		韓国
平成15年8月		第22回ユニバーシアード2003		女子5000m 第8位		韓国
平成16年5月		関西学生陸上競技選手権大会		女子800m、1500m 優勝		大阪
平成16年5月		関西学生陸上競技選手権大会		女子5000m、10000m 優勝		大阪
平成16年7月		全日本学生陸上選手権大会		女子10000m 優勝		東京
平成16年7月		全日本学生陸上選手権大会		女子5000m 優勝		東京
平成16年7月		全日本学生陸上選手権大会		女子800m 優勝		東京
平成18年3月		第3回全日本大学選抜女子駅伝		3位		横浜
平成18年6月		第75回全日本学生陸上		女子1500m 優勝		東京
平成18年10月		第24回全日本大学女子駅伝		6位		仙台
平成18年11月		関西学生駅伝 男子		2位		滋賀
平成19年1月		第4回全日本大学選抜女子駅伝		4位		筑波
平成19年5月		関西学生陸上競技選手権大会		女子800m, 1500m, 5000m 優勝		奈良
平成19年5月		関西学生陸上競技選手権大会		男子800m, 1500m 優勝		奈良
平成19年7月		日本陸上選手権大会		女子800m 3位		大阪

所属	体育学部	職名	教授	氏名	中大路 哲	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1) 特別活動指導論				平成15年～19年	毎時課題を与え小論文を作成させ、評価を与え返却した。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
(1) 兵庫県バスケットボール協会主催による講習会				平成15年～19年	指導者を対象に実技指導をした。		
(2) 大阪府バスケットボール協会主催による講習会				平成15, 17, 19年	指導者を対象に実技指導をした。		
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成18年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	118～121, 198～200頁		
論文							
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動							
期 間		内 容					
平成15年4月～		平成19年7月		日本体育学会会員			
平成15年4月～		平成19年7月		関西女子学生バスケットボール連盟副理事長			
平成15年4月～		平成19年7月		日本学生バスケットボール連盟理事			
IV クラブ活動の指導業績							
1. 指導クラブ名	バスケットボール 部			2. 役職	部長・監督	3. 部員数	60 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数： 4 回			延べ日数： 30 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				

7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所
	関西女子学生バスケットボールリーグ戦		9月～10月	大阪他
	全日本学生バスケットボール選手権大会		11月	東京
	全日本総合バスケットボール選手権大会		1月	東京
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				
開催期間		大会名	成績	場 所
平成17年12月12日～18日		全日本学生バスケットボール選手権大会	4位	東京他
平成18年4月29日～5月5日		関西女子学生バスケットボール選手権大会	優勝	大阪
平成18年9月3日～10月22日		関西女子学生バスケットボールリーグ戦	優勝	大阪他
平成19年4月29日～5月6日		関西女子学生バスケットボール選手権大会	優勝	大阪
平成19年5月30日～6月3日		西日本学生バスケットボール選手権大会	準優勝	大阪

(表24)

27

所属	体育学部	職名	教授	氏名	林 信恵	大学院における研究指導担当資格の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)		平成15年4月～7月	各自が設定した課題について8～10分の発表を行わせVTRに撮影。本人にフィードバックして、言語、非言語、資料作成について自己評価させる。				
・教養演習；課題発表における視聴覚的フィードバックの効果		平成15年～19年	練習内容のテキスト、DVD、ノート作成。作品発表のVTRに自己評価実施				
・ダンス；練習内容の視覚教材活用とグループ学習。作品発表の自己評価		平成15年～19年	プリントへ書き込みによる各自の講義ノート作成、視聴覚教材による具体的理解をさせる。				
・「身体表現論」「舞踊論」における視聴覚教材活用による理解度の向上、講義ノートのプリント配布							
2. 作成した教科書、教材、参考書		平成16年～18年	ダンスの基本から創作までの過程を分かりやすく解説。				
・「実践！踊るころ踊るからだ 創作ダンスの授業」(CDROM添付) レイシスソフトウェアサービス		平成19年	上著の改定判。				
・「踊る・創る・観る創作ダンスの授業」DVD添付レイシスソフトウェアサービス		平成15年～19年	講義ノートを毎年改定して配布、必要に応じて課題や説明を記入させ最終週に提出させる。				
・身体表現論講義ノート							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							

・日本ダンスセラピー協会第14回大会で発表	平成17年9月	「ダンス・パフォーマンス経験における自尊感情と不安傾向の関係」について発表
4. その他教育活動上特記すべき事項		
・第15～24回ダンス合同発表会(23回よりO U H S ダンスコンサートに改称) の開催	平成15年～18年12月	本学のダンス履修者による発表会。その企画・運営・作品指導
・大阪府高等学校保健体育研究会、ダンス部会講習会講師	平成15年7月	大阪府高校保健体育教員を対象としたダンスの指導
・全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)審査員	平成15年～18年8月	全日本高校・大学ダンスフェスティバルにおけるコンクール部門審査員
・創作ダンス部単独公演開催、指導、	平成15年～18年10月	学外ホールで行う創作ダンス部単独公演、企画実施、作品指導
・公開講座 ダンスセミナーの開催と指導	平成15年～18年3月	大阪府高校保健体育教員、ダンス部生徒を対象としたダンス指導
・兵庫県高校体育連盟主催ダンス発表会審査員、コメンテーター	平成17年～18年3月	兵庫県高校体育連盟主催のダンス発表会における審査員、コメンテーター

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成17年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	p. 8-11, p. 146-147 p. 354-357
論文					
創作ダンス授業を対象とした運動有能感について(その1) 高校生女子を対象として	共著	平成15年3月	大阪体育学研究 第41巻	伊藤美智子 ◎林信恵	p. 1 - 6
教師行動と生徒による授業評価からみた授業の検討	共著	平成15年7月	体育学研究 第47巻第4号	伊藤美智子 ◎林信恵	p. 333-346
リズムカルなダンスの練習が気分及びパフォーマンスに影響について一性差を中心に	単著	平成16年	ダンスセラピー研究Vol. 1 3, 4		p. 11-16
ボディートークの実践が心身に及ぼす効果について一息拍、心拍変動、不安傾向を中心に	共著	平成18年3月	大阪体育大学紀要第37巻	鎮目久美子 ◎林信恵、矢部京之助	p. 1-9

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
昭和48年4月 ～	現在に至る 日本体育学会会員
昭和53年4月 ～	現在に至る 日本舞踊学会会員
平成元年4月 ～	現在に至る 大阪女子体育連盟理事
平成12年4月 ～	現在に至る ダンスセラピー協会会員
平成14年4月 ～	現在に至る ダンスセラピー協会理事
平成15年8月 ～	平成18年 全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸) コンクール部門審査員
平成15年4月 ～	平成16年3月 大阪女子体育連盟副会長

平成16年4月	～	現在に至る	熊取町図書館協議会委員
平成16年	～	現在に至る	OSPAスポーツ大学〔大阪市スポーツ振興協会〕で市民を対象に講義、実技
平成17年4月	～	現在に至る	大阪女子体育連盟会長

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	創作ダンス 部		2. 役職	部長	3. 部員数	20 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	2 回	延べ日数：	6 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間		場 所	
	関西学生舞踊連盟主催 関西ダンス・フェスタ		4月下旬		大阪	
	全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)		8月上旬		神戸	
	アーティスティック・ムーブメント・イントヤマ		9月中旬		富山	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						
開催期間		大会名		成績		場 所
平成15年8月		全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)		特別賞受賞		神戸
平成15年9月		アーティスティック・ムーブメント・イントヤマ		松本千代栄賞受賞		富山
平成16年8月		全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)		入選		神戸
平成18年8月		全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)		入選		神戸
平成19年8月		全日本高校・大学ダンスフェスティバル(神戸)		入選		神戸

(表24)

28

所属	体育学部	職名	教授	氏名	廣岡 昌子	大学院における研究指導担当資格の有無	有 ・ (無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		

<p>1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）</p> <p>英語 I, IIを能力別クラスに分けた責任上、最下位のクラスを長年担当している。まず、学生の中学校、高等学校からの英語嫌いを取り除くため、基礎から分かりやすく、なおかつ歌などを取り入れ、楽しく授業を、するように心がけている。</p> <p>総合演習</p> <p>学生に思考力、洞察力、表現能力、発表能力、をつけさせる野が目標である。よって環境問題、時事問題等を課題に選びプリントをはいふしたり、ビデオを見せて説明しながら毎回、授業をし手いる。</p>	<p>平成18, 19年</p> <p>同上</p>	<p>教材は各クラスにより、学生の能力が違うため。その能力にあわせて自作し、プリントを配布して学力をつけている。</p> <p>環境問題では、Rachel Carson の The Silent Spring を取り上げ、教材を作り、ビデオなどを見ながら農業などについてはなしあっている。またThe Sense Of Wonderを読みながら日本人と、白人の自然への畏怖の違いを考え、その違いから異文化理解を図っている。また環境問題を自分で調べて発表させている。</p>
		<p>社会問題としては、ホテルなどのビデオを見、愛国心について書き討論させている。また愛国心の関連で戦争について討議し、杉原千畝、及びシンドラーのリストの映画を見て両者の違いを考えさせている。</p>
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>長年ナショナルトラスト運動に携わってきた。そして、日本とイギリスの取り組み方の違いを通して、両国の国民性も違いを総合演習等で教えている。また毎年日本ナショナルトラスト協会の理事を招き、学生に講義して頂いている。</p>		

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
伊藤孝治先生喜寿記念論集	共著	平成19年3月	大阪教育図書		
論文					
William Barnes(1801-1886) - ドーセットの多彩なる詩人					

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	軟式野球 部	2. 役職	部長	3. 部員数	44 人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回	延べ日数：	0 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				

9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
	西日本大学軟式野球選手権大会		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場所
平成18年8月	第23回西日本大学軟式野球選手権大会		

(表24)

29	所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
	体育学部	教授	福田 芳則		有
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
(1) パワーポイント活用による理解度の向上		16年度～	講義内容を写真・図表を多く取り入れたスライドでまとめ、提示・資料配付し、学生が講義の流れを具体的に理解しやすいように努めている。		
(2) Q&A形式小テストとグループワークを活用した授業展開		16年度～	講義内容についてあらかじめ質問をしてその後解説を加え、学生の理解度を高めるよう展開している。また、グループで意見をまとめさせたり、プレゼンテーションさせたりする中で考える機会を増やすよう努めている。		
(3) 「学生による授業評価」を実施		15年度～	野外教育論、スポーツプログラム開発論について、学期末に学生による授業評価を実施、授業内容の改善に努めている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書					
(1) 「基礎から学ぶ体育・スポーツの科学」大修館書店		17年度～	生涯スポーツ振興の現状と課題：野外教育、スポーツ種目の教育的意義：野外活動、生きがいづくりとレクリエーションの項を執筆		
(2) 「チャレンジ・ザ・ゲームの展開と審判法」大阪府レクリエーション協会		17年度～	レクリエーション実技の教材として、チャレンジ・ザ・ゲームの展開と審判法についてのDVDの編集・監修をした。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
(1) 日本体育学会シンポジウム パネリストとして発表		16年度9月	スポーツ振興 ～大学と地域との連携～ 学科規模で事業を行っている事例について発表した。		
(2) 高槻市・堺市教育委員会で 生涯スポーツ指導者養成講習会で講演		16年度～ 各年1回	スポーツ指導者を対象に、生涯スポーツの指導法・留意点などについて講演した。		
(3) 日本レクリエーション協会 指導者養成課程認定校研究集会で発表		平成16, 17, 18年	大阪体育大学におけるレクリエーション指導者養成システム、スポーツのレクリエーション化にかかわる教材について発表した。		

4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1)大阪体育大学スポーツキャンプを実行委員会委員長として実施	平成15年度, 17年度	地域の子どもを対象としたスポーツプログラムを学生の手で企画・運営させるプロジェクトを責任者として実施
(2)野外活動部・熊取町教育委員会共催のサマーキャンプの監修・指導	平成16年度～	地元の教育委員会と大学の部活の行事を連携事業として立ち上げ、プログラム監修、総括指導を行った。
(3)泉佐野市教育委員会より受託のサマーキャンプの監修・指導	平成16年度～	地元の教育委員会よりサマーキャンプの企画・運営を受託し、ゼミ学生を中心に作業、プログラム監修、総括指導を行った。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成17年3月	大修館書店	上勝也 他50名	106～109 p 159～160 p 300～303 p
レクリエーション・インストラクターテキスト	共著	平成19年12月 刊行予定	日本レクリエーション協会		
論文					
海洋性キャンプ参加者の海浜活動体験とプログラム満足度	共著	平成15年3月	日本キャンプ協会 キャンプ研究6号2巻	久保和之 谷健二 酒井哲雄 福田芳則	21～26 p
野外活動施設の選択要因に関する研究	共著	平成15年3月	大阪体育大学紀要（第34巻）	◎福田芳則 弘中陽子 福山正和 池島明子	41～54 p
続・これからの野外活動施設を考える	共著	平成15年3月	大阪府キャンプ協会 2003研究紀要	◎福田芳則 中村茂高	3～26 p
海洋スポーツキャンプ実習参加者の意識に関する研究Ⅱ	共著	平成16年3月	大阪体育大学紀要（第35巻）	山辺高大 福田芳則	117～126 p
野外活動施設の選択要因に関する研究Ⅱ	共著	平成16年3月	大阪体育大学紀要（第35巻）	◎福田芳則 山辺高大 浜田裕子 弘中陽子	25～38 p
水辺活動におけるウォーターワイズプログラムが児童の生きる力に及ぼす効果	共著	平成17年5月	野外教育研究（第8巻2号）	青木康太郎 福田芳則 谷健二 下地隆 小松由美	59～70 p
キャンプは生きる力を育むのか	共著	平成18年3月	大阪府キャンプ協会 2006研究紀要	◎福田芳則 青木康太郎 中村茂高	2～29 p

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成 6年4月～現在に至る	日本レクリエーション協会指導者養成課程認定校研究連絡会議全国幹事・監事 18年4月より全国幹事長
平成11年6月～現在に至る	野外教育学会理事
平成12年4月～現在に至る	大阪府レクリエーション協会課程認定校研究会 副会長 18年4月より会長
平成12年4月～現在に至る	大阪府キャンプ協会専門委員会委員 18年4月より理事

平成14年4月～現在に至る	大阪府レクリエーション協会 評議員					
平成15年4月～現在に至る	日本レクリエーション協会 人材開発委員会委員					
IV クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	野外活動 部		2. 役職	部長・監督	3. 部員数	12 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 4 回		延べ日数： 20 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない					
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	②		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所		
	熊取町教育委員会との共催サマーキャンプ 地域交流事業として小学生40名参加 プログラム企画・指導					
	大阪体育大学海洋スポーツキャンプ実習の運営スタッフ					
	大阪体育大学スキー実習の運営スタッフ					
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						

(表24)

30

所属	体育学部	職名	教授	氏名	淵本 隆文	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
(1) 「スポーツ情報処理実習」でのプレゼンテーション能力向上の指導				平成16年4月～	学生各自に作成させたスライドを用いて、全員に発表を行わせ、プレゼンテーション能力を養成している。		
(2) 「体力・動作分析法」での研究レポート作成指導				平成16年4月～	授業で行った動作分析のデータをもとに、統計処理や文献を参照しながら、研究レポートを作成させ、記述や報告書作成能力を養っている。		
(3) 「演習Ⅰ、Ⅱ」での研究論文作成指導				平成16年4月～	各自の研究テーマに沿った実験や文献研究を行わせ、本格的な研究論文の書き方を指導している。		
(4) 「バイオメカニクス」での視聴覚教材活用による理解度の向上				平成16年4月～	テキストにある図表や参考資料をカラースライドにして写すことによって、視覚的に説明し、理解を助ける工夫を行っている。		
(5) 「学生による授業評価」を実施				平成16年4月～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて授業方法の改善に取り組んでいる。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							

(1)「動作分析法」講義用プリントの作成	平成16年4月～	ビデオカメラの撮影、分析、グラフ作成、統計処理の方法をまとめたプリントを作成し、理解を容易にする工夫を行っている。
(2)「撮影による動作分析法」の講義用プリント作成	平成16年4月～	大学院生を対象にした動作分析法の理論を分かりやすくまとめたテキストを作成し、理解を容易にする工夫を行っている。
(3)「ビデオ映像を用いた動作分析ソフト」の作成	平成16年4月～	学生がどこのパソコンでも操作分析が行える様に、エクセルを用いた汎用型動作分析ソフトを開発し、学生が効率よく研究できる環境を整えている。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1)「大阪体育大学における動作分析教育～エクセルの活用事例～」、単著、大学教育と情報、Vol. 14, No. 2, pp. 22-24	平成17年11月30日	大阪体育大学における動作分析教育の経緯を示すと共に、旧システムから新システムに移行したことによる教育効果と今後の問題点などを論じた。
4. その他教育活動上特記すべき事項		
大阪体育大学における動作分析教育の経緯を示すと共に、旧システムから新システムに移行したことによる教育効果と今後の問題点などを論じた。	平成14年12月～ 平成17年3月	カリキュラム委員会委員およびカリキュラム作成部会長として、体育学部におけるカリキュラム改革案の作成を行った。
(2)新カリキュラム実施の準備	平成17年4月～ 平成18年3月	新カリキュラム実施特別委員会委員長代行として、新カリキュラムの実施準備をおこなった。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
バイオメカニクス～身体運動の科学的基礎～	共著	平成16年10月	杏林書院、東京	金子公有、福永哲夫編、	145頁-150頁 390頁-394頁 394頁-395頁
論文					
高齢者の歩行運動における振子モデルのエネルギー変換効率	共著	平成15年10月	体力科学（第52巻 第5号）	田中ひかる、淵本隆文、金子公有、木村みさか	621頁-630頁
自転車競技における短距離選手の走行速度とパワー	単著	平成16年3月	バイオメカニクス研究（第8巻 第1号）		52頁-55頁
女性パイロットによる人力飛行を目指した6年間の体力トレーニングの事例研究	共著	平成16年7月	トレーニング科学（第16巻 第2号）	◎堀琴乃、吉川俊明、坂本慎介、淵本隆文	135頁-148頁
ダブルレグホップのトレーニングにともなう下肢関節モーメントとパワーの変化	共著	平成17年1月	体育学研究（第50巻 第1号）	◎池田祐介、淵本隆文	1頁-11頁
自転車競技におけるバイオメカニクスのサポートトラック短距離種目について	共著	平成17年2月	バイオメカニクス研究（第8巻 第4号）	◎淵本隆文、田内健二、花井淑晃、高橋英幸	231頁-236頁
あん馬の両足旋回に関する力学的分析：モデルに作用する力について	共著	平成17年3月	大阪体育学研究（第43巻）	◎藤原敏行、淵本隆文	1頁-8頁
シャトル・スタミナテスト（3分間シャトル）評価基準案の作成	共著	平成17年6月	体育の科学（第55巻 第6号）	◎金子公有、中尾泰史、淵本隆文、藤田英和、田路秀樹、西垣利男、末井健作	473頁-478頁

大阪体育大学における動作分析教育－Excelの活用事例－	単著	平成17年11月	私情協ジャーナル（第14巻、第2号）		22頁-24頁
虚弱高齢者の体力・運動能力および筋量の実態と生活要因との関連（虚弱高齢者向け運動プログラム作成のための基礎的研究）	共著	平成18年3月	平成16年度・17年度科学研究費補助金（基盤研究C）研究成果報告書	代表者：木村みさか、分担者：岡山寧子、淵本隆文	
あん馬における両足旋回の構造と技術に関する力学的分析	共著	平成18年4月	バイオメカニクス研究（第10巻 第1号）	◎藤原敏行、淵本隆文	27頁-41頁
歩行における重心のエネルギー変換	単著	平成18年12月	バイオメカニクス研究（第10巻 第4号）		262頁-271頁
Relationship between side medicine-ball throw performance and physical ability for male and female athletes	共著	平成19年1月	European Journal of Applied Physiology (Vol. 99 No. 1)	◎Yusuke Ikeda, Kota Kijima, Koichi Kawabata, Takafumi Fuchimoto, Akira Ito	45頁-55頁
三段跳における助走の重要性と助走イメージに関する研究	共著	平成19年3月	大阪体育大学紀要（第38巻）	◎白市純也、淵本隆文	71頁-79頁
トランポリンの踏切動作	共著	平成19年7月	体育の科学（第57巻 第7号）	◎上山容弘、淵本隆文	516頁-520頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本体育学会会員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本体力医学会会員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本バイオメカニクス学会会員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	国際バイオメカニクス学会会員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本運動生理学会会員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本運動生理学会 評議員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本体力医学会 評議員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	大阪体育学会 理事
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本自転車競技連盟選手強化委員会医科学委員
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	日本オリンピック委員会強化スタッフ（医・科学スタッフ、自転車競技）
平成16年4月1日 ～ 平成18年3月31日	OSPAスポーツ大学（大阪市） 講師
平成16年8月4日 ～	日本競輪学校 特別講師
平成16年11月27日 ～	日本体育協会自転車競技B級コーチ養成専門科目講習会 講師
平成17年8月3日 ～	日本体育協会スポーツ指導者養成講習会（共通科目Ⅲ） 講師
平成17年8月9日 ～	日本競輪学校 特別講師

平成17年8月31日 ～		日本スポーツ科学センター・セミナー 講師			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	トランポリン 部		2. 役職	部長	3. 部員数 6 人
4. 現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 0 回		延べ日数： 0 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期間		場所
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間		大会名		成績	場所
平成15年6月		2003/2004ワールドカップシリーズ第1戦		男子 個人14位	フランス・ルヴァロア
平成15年8月		第38回全日本学生選手権		男子 個人優勝	秋田県田代町
平成15年8月		2003/2004ワールドカップシリーズ第2戦		男子 個人11位、シンクロ4位	ベルギー・オステンド
平成15年8月～9月		2003/2004ワールドカップシリーズ第3戦		男子 個人16位、シンクロ9位	チェコ・プラハ
平成15年10月		第23回世界選手権		男子 個人30位	ドイツ・ハノーバ
平成15年11月		第40回全日本選手権		男子 個人4位、シンクロ6位	山形県上山市
平成15年11月		第9回全日本トーナメント		男子 個人3位	能登島
平成15年11月		2003年度ランキング		男子 1位 (4年連続1位)	
平成15年12月		JOCジュニアオリンピックカップ		男子 個人優勝 (2年連続)	神奈川県厚木市
平成16年3月		2003/2004ワールドカップシリーズ第4戦		男子 個人5位、シンクロ3位	ドイツ・アーヘン
平成16年4月		第15回全日本年齢別選手権		男子 個人優勝、シンクロ優勝	福島市国立記念体育館
平成16年4月		2003/2004ワールドカップシリーズ第5戦		男子 個人3位	スウェーデン ウップラン ド・ヴェスビー
平成16年4月		2003/2004ワールドカップシリーズ第6戦		男子 個人13位、シンクロ3位	ロシア
平成16年8月		第39回全日本学生選手権		男子 個人2位	北海道北見市
平成16年10月		第41回全日本選手権		男子 個人2位、シンクロ優勝	静岡市・中央体育館
平成16年11月		第10回全日本トーナメント		男子 2-TRICK2位、オープン個人優勝	石川県能登島長
平成16年12月		2003年度ランキング		男子 2位	
平成16年12月		JOCジュニアオリンピックカップ		男子 個人優勝 (3年連続3回目)	神奈川県厚木市

平成17年6月	2005/2006ワールドカップシリーズ第1戦	男子 個人優勝、シンクロ優勝	ブルガリア・ソフィア		
平成17年6月	2005/2006ワールドカップシリーズ第2戦	男子 個人7位、シンクロ3位	フランス・ルヴァロ		
平成17年7月	2005/2006ワールドカップシリーズ第3戦	男子 個人4位、シンクロ3位	ロシア・クラスノダール		
平成17年8月	2005/2006ワールドカップシリーズ第4戦	男子 個人2位、シンクロ優勝	ベルギー・オステンド		
平成17年9月	第24回世界選手権	男子 個人2位、シンクロ3位、団体2位	オランダ・アイントホーフェン		
平成17年10月	第42回全日本選手権	男子 個人優勝、シンクロ優勝	さいたま市・浦和駒場体育館		
平成18年4月	2005/2006ワールドカップシリーズ第5戦	男子 個人優勝	ベルギー・ゲント		
平成18年5月	2005/2006ワールドカップシリーズ第6戦	男子 個人優勝	ロシア・クラスノダール		
平成18年8月	2005/2006ワールドカップシリーズ第7戦	男子 個人優勝	スイス・ザボンニ		
平成18年9月	2005/2006ワールドカップシリーズ第8戦	男子 個人優勝、シンクロ優勝	ドイツ・ザルツギッター		
平成18年9月	世界ランキング	男子 1位			
平成18年11月	2005/2006ワールドカップシリーズ・ファイナル	男子 個人優勝、シンクロ2位	イギリス・バーミンガム		
平成19年3月	2007/2008ワールドカップシリーズ第1戦	男子 個人11位、シンクロ優勝	アメリカ・レイクプラシッド		
平成19年4月	2007/2008ワールドカップシリーズ第2戦	男子 個人3位	カナダ・ケベック		
平成19年4月	2007/2008ワールドカップシリーズ第3戦	男子 シンクロ優勝	中国・昆山		
平成19年6月	2007/2008ワールドカップシリーズ第4戦	男子 個人4位、シンクロ優勝	ブルガリア・ソフィア		
平成19年6月	2007/2008ワールドカップシリーズ第5戦	男子 個人2位、シンクロ2位	ベルギー・オステンド		
平成19年6月	2007/2008ワールドカップシリーズ第6戦	男子 シンクロ5位	ロシア・サンクトペテルブルグ		
平成19年8月	2007/2008ワールドカップシリーズ第7戦	男子 個人3位、シンクロ2位	ポーランド・ジエロナゴラ		
1. 指導クラブ名	レスリング	2. 役職	部長	3. 部員数	10 人
4. 現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	0	回	延べ日数：	0 日
6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間	大会名	成績	場所		
平成14年7月	西日本学生選手権	グレコローマン 97kg2位	堺市金岡公園体育館		

3 1

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無		
体育学部	教授	前島 悦子	有・無		
I 教育活動					
教育実践上の主な業績	年月日	概要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
(1) 資料配布による講義	平成15年～	・ 当日行う講義内容の資料を配布し、講義によってより細かく解説する事で復習しやすくしている			
(2) 図による視覚的教材	平成15年～	・ 図でみせる事で具体的にイメージさせ、理解度を高めている			
2. 作成した教科書、教材、参考書					
(1) 親とコーチのためのスポーツ医学	平成16年	・ 健康スポーツ医学に関心を持つ人々が、知っておかなければならない情報を解りやすく解説している			
(2) エクササイズー 疾病予防のための運動ー	平成16年	・ 座位による生活習慣が慢性疾患を生み出す事を、疫学治療・生体機能の視点から述べている			
(3) 基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	平成17年	・ 体育・スポーツ科学の基礎的知識を解説している			
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
親とコーチのためのスポーツ医学	共著	平成16年	金芳堂		
エクササイズー 疾病予防のための運動ー	共著	平成16年	エルゼビア・ジャパン		
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学		平成17年			
医学から見たスポーツする身体、基礎から学ぶ体育・スポーツの科学、大阪体育大学体育学部編	共著	平成18年	大修館書店		62頁～65頁
スポーツと疾病予防、基礎から学ぶ体育・スポーツの科学、大阪体育大学体育学部編	共著	平成18年	大修館書店		334頁～337頁
論文					
A case of systemic lupus erythematosus with giant hepatic cavernous hemangioma	共著	平成16年	Lupus 2004; 13(7); 546-8		

Usefulness of a cube-copying test in outpatients with dementia	共著	平成16年	Brain Inj 2004 Sep; 18(9): 889-98		
Relationship between cognitive function and regional cerebral blood flow differenttypes of dementia	共著	平成16年	Disabil Rehabil 2004 June 17; 26(12) 739-45		
A case of systemic lupus erythematosus expressing intractable thrombocytopenia remedied effectively by intermittent and continuous administratons of a small amount of immune globulin	共著	平成18年	Mod Rheumatol 2006; 16: 239-42		
The efficacy of vitamin E against oxidative damage and autoantibody production in systemic lupus erythematosus	共著	平成19年	Clin Rheumatol 2007; 26: 401- 4		
Life -style activities in systemic lupus erthematosus	共著	平成19年	Clin Exp Rheumatol 2007; 25: 189- 94		
A case of polymyositis with a significantly high level of KL-6 associated with pancreatic cancer	共著	平成19年	Mod Rheumatol 2007; 17: 262-4		

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間		内 容
平成12年9月 ~	現在に至る	日本内科学会近畿地方会評議員
平成16年4月 ~	現在に至る	日本リウマチ学会評議員
平成18年4月23日 ~	平成18年4月26日	運動が自己免疫疾患の血圧、脈拍、皮膚温に及ぼす影響、第50回日本リウマチ学会総会・学術集会、長崎
平成18年3月6日 ~		膠原病の理解と日常生活の注意点について、平成18年度難病患者医療相談、和歌山
平成18年3月13日 ~		全身性エリテマトーデスについて、平成18年度難病患者医療相談、和歌山
平成18年7月8日 ~		上級スポーツ指導員養成講習会、健康管理、大阪市
平成18年8月31日 ~		関節リウマチの病態と治療、内科部会、和歌山市
平成18年10月21日 ~		リウマチを中心とした膠原病の診察と治療（2）、専門医に学ぶ会～MEET THE EXPERT～、和歌山
平成18年11月11日 ~		平成18年度高槻市生涯スポーツ指導者育成講座、高槻市
平成18年5月31日 ~		エーザイ（株）社内勉強会、関節リウマチの診断と治療、和歌山
平成18年8月7日 ~		（株）東京田辺社内勉強会、関節リウマチの診断と治療～MTXを中心に～、和歌山
平成19年6月10日 ~	平成19年6月14日	Effect of exercise on blood pressure, pulse rate, and skin temperature in autoimmune disease patients. 4 th World Congress of the International Society of Physical and Rehabilitation Medicine. 2007, Seoul, Korea
平成19年4月26日 ~	平成19年4月29日	膠原病患者の浮腫に対する γ -tocopherol の効果について、第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜
		γ グロブリン大量静注療法が有効であったステロイド抵抗性多発性筋炎（PM）の一例、第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜

		門脈血栓症（PVT）を合併した抗リン脂質抗体症候群（APS）の2例、第51回日本リウマチ学会総会・学術集会、横浜			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	競技スキー部		2. 役職	監督	3. 部員数 4 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 0 回		延べ日数： 0 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	④	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					
開催期間		大会名		成績	場 所
平成19年2月17日（土）～25日（日）		第80回全日本学生スキー選手権大会		男子総合1位（2部昇格）	青森県・大鰐町

(表24)

3 2

所属	体育学部	職名	教授	氏名	増原 光彦	大学院における研究指導担当資格の有無	○有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		

1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 講義科目：スポーツ生理学Ⅰ、生理学、生涯スポーツ学演習Ⅰ、生涯スポーツ学演習Ⅱを担当し、学生の出席状況を含めて最終的には記述試験により、総合的に評価する。	2002年4月より 今日に至る	スポーツ生理学及びスポーツ健康科学に関する基礎的な知識の教授を中心に講義及びデモンストレーションによって講義を進め、また演習においては、最終的に卒業論文としてまとめるように指導する。
2. 作成した教科書、教材、参考書 作成した教科書：運動生理学読本、参考書等：適宜スポーツ生理学、その他関連する書籍、資料を使用する。また、適宜追加のプリントを配布する。	2002年4月より 今日に至る	スポーツ生理学及びスポーツ健康科学に関する基礎的な知識の教授を中心に講義及びデモンストレーションによって講義を進め、また演習においては、最終的に卒業論文としてまとめるように指導する。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 スポーツ生理学、及び健康科学に関する講演、学会発表等多数行う。		スポーツ生理学及びスポーツ健康科学に関する基礎的な知識の教授を中心に講義及びデモンストレーションによって講義を進め、また演習においては、最終的に卒業論文としてまとめるように指導する。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎値ハンドブック（改定第2版）	共著	平成15年4月	株式会社 南江堂	巽 典之	510頁～514頁
動きを生み出すところからからだのしくみ	共著	平成16年10月	あいり出版	増原光彦監修、荒木雅信、上勝也編集	8頁～24頁
女の一生と臨床検査	共著	平成16年8月	臨床病理刊行会	渡辺清明、高木 康、巽 典之編集	70頁～77頁
コンパクト福祉系講義 医学一般	共著	平成19年3月	株式会社 金芳堂	巽 典之、星野政明	57頁～58頁
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部	50頁～53頁、90頁～92頁、 296頁～299頁
運動生理学読本（第19版）	単著	平成19年4月	不昧堂出版		
論文					
Effects of Periodic Physical Exercises on Body Fat and Aerobic Ability in Female College Students	共著	平成15年（2003）	Health Evaluation and Promotion（第30巻第2号）	Takanobu OKAMOTO and Mitsuhiko MASUHARA	222頁～226頁
Do Twice-a-week Periodic Physical Exercises Improve Obesity in Female College Students?	共著	平成15年（2003）	Health Evaluation and Promotion,（第30巻第6号）	Takanobu OKAMOTO and Mitsuhiko MASUHARA	557頁～561頁
インピーダンス法による高精度体成分分析装置を用いた体組成と健康評価法に関する一考察	共著	平成16年（2004）	大阪体育学研究（第42号）	土肥啓一郎、梅林 薫、上 勝也、滝瀬定文、豊岡示朗、松生香里、松村新也、吉田精二、増原光彦	81頁～91頁

間欠的掌握運動における活動肢の適度な血流制限が非活動肢の末梢循環に及ぼす影響	共著	平成16年 (2004)	日本スポーツ整復療法学研究 (第5巻3号)	岡本孝信、増原光彦	151頁～156頁
Localization of MyoD, myogenin and cell cycle regulatory factors in hypertrophying rat skeletal muscles	共著	平成16年 (2004)	Acta Physiol. Scand., (第180巻)	Minenori Ishido, Katsuya Kami, Mitsuhiro Masuhara	281頁～290頁
Interrelationship of physical fitness of female college students with hidden obesity	共著	平成16年 (2004)	Health Evaluation and Promotion (第31巻第4号)	Takanobu Okamoto, Mitsuhiro Masuhara, Komei Ikuta	572頁～576頁
Effects of periodic physical exercise on pulse wave velocity in female college students	共著	平成16年 (2004)	Health Evaluation and Promotion (第31巻第4号)	Takanobu Okamoto, Mitsuhiro Masuhara, Komei Ikuta	577頁～581頁
The effect of eccentric contraction velocity on quadriceps oxygen dynamics	共著	平成16年 (2004)	Isokinetics and Exercise Science (第12巻)	Takanobu Okamoto, Mitsuhiro Masuhara, Komei Ikuta	105頁～109頁
健診におけるスポーツ能力評価と健康管理	単著	平成17年(2005)	総合健診(第32巻第5号)	増原光彦	463頁～466頁
Effects of chronic treadmill running on neurogenesis in the dentate gyrus of the hippocampus of adult rat	共著	平成18年(2006)	Brain Research(第1104巻)	Munehiro Uda, Minenori Ishido, Katsuya Kami, Mitsuhiro Masuhara	64頁～72頁
Alterations of M-cadherin, neural cell adhesion molecule and β -catenin expression in satellite cells during overload-induced skeletal muscle hypertrophy	共著	平成18年(2006)	Acta Physiol. Scand. (第187巻)	Minenori Ishido, Munehiro Uda, Mitsuhiro Masuhara, Katsuya Kami	407頁～418頁
Effects of eccentric and concentric resistance training on arterial stiffness	共著	平成18年(2006)	J. Human Hypertension (第20巻)	Takanobu Okamoto, Mitsuhiro Masuhara, Komei Ikuta	348頁～354頁
Cardiovascular responses induced during high-intensity eccentric and concentric isokinetic muscle contraction in healthy young adults	共著	平成18年(2006)	Clin. Physiol. Funct Imaging(第26巻)	Takanobu Okamoto, Mitsuhiro Masuhara, Komei Ikuta	39頁～44頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
昭和40年4月 ～	現在に至る 日本生理学会、日本体力医学会、日本体育学会、日本人間工学会会員
昭和55年4月 ～	現在に至る 日本自動化健診医学会（日本総合健診医学会）会員
昭和51年4月 ～	昭和57年3月 日本体力医学会評議員として2期6年間勤める。
平成4年12月 ～	平成8年12月 日本運動生理学会理事
平成11年5月 ～	現在に至る 日本スポーツ整復療法学会理事

平成11年9月	～	現在に至る	日本体力医学会評議員
平成12年3月	～	平成16年3月	日本スポーツ整復療法学会関西支部支部長
平成14年1月	～	現在に至る	日本総合健診医学会評議員
平成14年4月	～	平成20年3月	大阪体育学会理事
平成16年4月	～	平成22年3月	日本スポーツ整復療法学会副会長

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	なぎなた		部	2. 役職	部長	3. 部員数	4 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数：		1	回	延べ日数：		1 日
6. クラブの競技力向上への取り組み			②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み			②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み			②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名			期 間		場 所	
	全日本学生選手権大会						
	西日本学生選手権大会						
	関西学生選手権大会						
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)							

(表24)

33	所属	体育学部	職名	教授	氏名	松坂 壽仁	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) プリント・視覚教材を補助的に使用				平成17-19年	ビデオ教材を活用して動機付けをし、プリントで理解力を高める。			
2. 作成した教科書、教材、参考書 総合演習・文化論の教材					講義内容を要約した教材作成			
ドイツ語問題集				平成15-19年	授業内容に即した問題や教材を集積作成			
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								

兵庫県北阿万小学校教員研修会		平成17年	スポーツ文化について講演		
4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成16年4月 ～ ～ 平成18年3月		日本独文学会会員			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	卓球 部		2. 役職	部長	3. 部員数 10 人
4. 現場指導の頻度	③	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 回		延べ日数： 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					

(表24)

3 4	所属	体育学部	職名	教授	氏名	松村 新也	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）								
プリントの配布				毎時間、授業の要点をまとめたプリントを配布				
2. 作成した教科書、教材、参考書								
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
4. その他教育活動上特記すべき事項								

II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
インピーダンス法による高精度大成分分析装置を用いた体組織と健康評価法に関する考察	共著	平成16年	大阪体育学研究	土肥啓一郎、梅林薫、上勝也、滝瀬定文・豊岡示朗、松生香里、松村新也、吉田精二、増原光彦	81頁～91頁
論文					
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	ソフトボール 部		2. 役職	部長	3. 部員数 30 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 6 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①/②		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	③		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					

(表24)

35	所属 体育学部	職名 教授	氏名 森北 育宏	大学院における研究 指導担当資格の有無	○有・無
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「スポーツ医学」「救急処置Ⅰ・Ⅱ」		H17年前期	手術のビデオやビデオ教材を用いて実際の現場を見てもらい飽きさせない様にした		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「スポーツ医学テキスト」		H19年前期	学生の理解力・能力にあわせたテキストの作成を行った		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上特記すべき事項					

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学 「アンチドーピング」 p270～273	共著	2006年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	p 270～273
ナショナルチームドクター・トレーナーが 書いた種目別スポーツ障害の診療	共著	2006年4月	南江堂	林光俊編	p 99～114
論文					
足趾把持力が姿勢制御能力に及ぼす影響 －足圧中心位置を前後方向へ移動させる能 力に着目して－	共著	H18年 4月	大阪体育大学研究紀要		p 41～49
体幹筋力が仙椎傾斜角に及ぼす影響	共著	H19年 6月	日本臨床スポーツ医学会誌		p 77～81
神経根症に対する経口副腎皮質ホルモン剤 の効果	単著	H19年 6月	中部整形災害外科学会誌		p 1057～58
Efficacy of Ankle Bracing in top-level volleyball players	共著	H19年 6月	バレーボール学会誌		p 1～4
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成19年7月	～	平成21年6月	大阪市障害者福祉・スポーツ協会理事		
平成18年6月	～	平成20年5月	日本体力医学会・近畿支部幹事		
平成19年4月	～	平成21年3月	日本バレーボール協会 医事部 副部長		
平成18年4月	～	平成21年3月	大阪バレーボール協会 医事部 副部長		
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	ラクロス 部		2. 役職	部長	3. 部員数
					34 人
4. 現場指導の頻度	4	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回		延べ日数： 7 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		3	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		3	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		3	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

(表24)

36

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無		
体育学部	教授	矢部 京之助	有	無	
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 体育学演習 (I、II) について2年一貫教育を施行した		平成15年4月1日	体育学演習 I では、身体機能の測定技術を習得する実験実習を主体とし、体育学演習 II では、各人の企画に基づく研究の遂行、論文作成の学習、学期末に発表会を開催した		
2. 作成した教科書、教材、参考書 「アダプテット・スポーツの科学 ～障害者・高齢者のスポーツ実践のための理論～」を出版した		平成16年10月	本書は、科学研究費報告書を基盤とするアダプテットスポーツに関する書である		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上特記すべき事項 ・フェイス トゥー ファイス教育 ・入力型学習から出力型学習		平成15年4月 平成16年4月	学生の創造性、積極性を育み、教員とのコミュニケーションを図る 講義を受講する受動的学習から、自発的な研究企画・実践・発表をする能動的学習を習得させる		
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
入門運動神経生理学 ーヒトの巧みさを探るー	共著	平成15年	市村出版	矢部京之助、大築立志、笠井達哉	
障害者スポーツ、指導の手引き	共著	平成16年2月	ぎょうせい	日本障害者スポーツ協会	22～30頁、155～209頁
バイオメカニクス ～身体運動の科学的基礎～	共著	平成16年10月	杏林書院	金子公宥、福永哲夫	77～89頁
アダプテット・スポーツの科学 ～障害者・高齢者のための理論～	共著	平成16年10月	市村出版	矢部京之助、草野勝彦、中田英雄	3～4頁
生活習慣病対策および健康維持・増進のための運動療法と運動処方	共著	平成17年	文光道	佐藤祐造	61～64頁

Proceedings of the 9th ASAPE 2006 Contribution of adapted sports to society	共著	平成18年	IN-TEX CO,LTD.	Tetusji kakiyama	59～62頁、75～80頁
論文					
Effects of physical activity on physical fitness and motor performance in persons with disabilities	単著	平成15年	Japanese Journal of Adapted Sport Science. 1		2～15頁
Age comparison of H-reflex modulatio with the Jendrassik maneuver and postural complexity	共著	平成15年	Clin. Neurophysiol. 114	Tsuruiki, M., D. M. Koceje, K. Yabe and N. shima	945～953頁
マラソンレースにおける視覚障害者ラン ナーの給水状況と脱水状態の調査	共著	平成15年	ランニング学会	福嶋利浩、松生香里、湯川静信、豊岡示 朗、矢部京之助	1～9頁
Gastric myoelectical activity increases after moderate-intensity exercise with no meals under suppressed vagal nerve activity	共著	平成16年	Jpn. J. Physill. 54	Kato, M., T. sakai, K. Yabe, M. Miyamura, and H. soya	221～228頁
障害のある人のスポーツと問題点ー障害者 スポーツのトレーニング上の問題点ー	単著	平成16年	リハビリテーション医学. 41		766～778頁
Effects of physical fitness level on postural sway in young children	共著	平成17年	Anthropological science. 113	Shintaku, Y., T. Ohkuwa, and K. Yabe	237～244頁
The effect of postactivation potentiation on the mechanomyogram	共著	平成17年	Eur. J. Appl. Physiol. 96	Shima, N., C. I. Rice, Y. Ota, and K. Yabe	17～23頁
Relationships of muscle strength and power with leisure-time physical activity and adolescent exercise in middle-aged and elderly Japanese women	共著	平成17年	Geriatrics and Gerontlogy International. 5	Kozakai, R., W. Doyo, S. Tsuzuku, K. Yabe, M . Miyamura, Y. Ikegami, N. Niino, F. Ando, and H. Shimokata	182～188頁
Implication for using H-max/M- maxration in H-reflex parameters for elderly subjects compared with young subjects	共著	平成18年	Electromyogr. clin. Neurophysiol. 46	Tsuruike, M., D. M. Koceja, C. T. Robertson , and K. Yabe	285～290頁
Influence of difference in buoyancy on physiological responses during treadmillwalking in water	共著	平成18年	Jpn. J. Fitness Sports. Med. 55suppl	Yoneyama, F., H. Watanabe, M. Araki, and K. Yabe	S85～S88
ジャパンパラリンピック出場チェアスキー におけるアウトリガーの重要性について	共著	平成18年	障害者スポーツ科学. 4	田中利明、矢部京之助	19～28頁
アダプテッド・スポーツとパラリンピック	単著	平成18年	学術の動向. 11		54～57頁
障害者のトレーナビリティ	共著	平成18年	保健の科学. 48	矢部京之助、福嶋利浩、三木由美子	570～574頁

自然学校における指導補助員の教育的効果について	共著	平成18年	野外教育研究. 10	田中利明、矢部京之助	49～58頁
Performance of dynamic motor tasks in 5-year-old children with different levels of static standing balance	共著	平成19年	I. J. Fitness. 3	Shintaku, Y., H. Fujinaga, and K. Yabe	61～67頁
Superimposed mechanomyographic response at different contraction intensity in medial gastrocnemius and soleus muscles	共著	平成19年	Int. J. Sport and Health Science. 5	Ota, Y., Shima, N, and K. Yabe	63～70頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容		
昭和38年4月 ～	現在に至る	日本体育学会会員	
昭和39年 ～	現在に至る	日本体力医学会評議委員、常務理事(平成元年～平成5年)、副会長(平成15年～平成17年)	
昭和41年4月 ～	現在に至る	日本生理学会会員	
昭和47年4月 ～	現在に至る	日本臨床神経生理(旧脳波・筋電図)学会会員	
昭和50年4月 ～	現在に至る	国際バイオメカにクス学会会員	
昭和54年4月 ～	現在に至る	日本バイオメカにクス学会理事(平成6年から)	
昭和60年4月 ～	現在に至る	日本障害者体育・スポーツ研究会会員	
昭和61年4月 ～	現在に至る	アジア障害者体育・スポーツ学会(ASAPE)会員、会長(昭和86年～平成6年)	
平成2年4月 ～	現在に至る	国際障害者ヘルスフィットネス連盟(IFAPA)会員、理事(平成3年～平成11年)	
平成3年11月 ～	現在に至る	日本障害者スポーツ学会理事(平成3年から)	
平成5年4月 ～	現在に至る	日本リハビリテーション医学会会員	
平成5年4月 ～	現在に至る	日本運動生理学学会(平成5年～平成17年)	
平成14年4月 ～	現在に至る	(財)日本障害者スポーツ協会科学委員長	

Ⅳ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	部	2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数:	回	延べ日数:	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			

9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			

(表24)

37

所属	体育学部	職名	教授	氏名	山崎 武	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
保健体育科教育法 I での教育方法				15~19年	授業態度及び授業内容の理解度を確保するため、毎時間終了時ミニツツノートを提出させて2件方で評価を続けている。知識・内容に関する評価をレポート提出、確認テストで行い絶対評価している。		
保健の教材研究での教育方法				15~19年	授業展開において最も重要であろう教材研究における教材論講義したのち、グループ編成を行いロールプレイ模擬授業を展開、授業評価(研究授業)を行っている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
「保健学習指導案(細案)」製本							
講義プリント・ミニツツノート(毎時間)							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
外国人研究員指導:雲南師範大学体育学院 教授 山西師範大学体育学院 准教授				16年9月~17年3月 17年12月~18年5月	日本における保健体育の教育法をベースに日本の教育文化と中国教育文化の比較について研究活動を行った。		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
論文							
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動							
期間		内容					
~		平成19年	関西学生ハンドボール連盟理事				
~		平成19年	大阪ハンドボール協会理事				
IV クラブ活動の指導業績							
1. 指導クラブ名	ハンドボール 部			2. 役職	部長・監督	3. 部員数	女子33人

4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	外部3	回	延べ日数： 約10日 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期間	場所	
	関西学生春季・秋季リーグ戦		4月、5月 9月、10月	大阪・京都・兵庫・神戸・和歌山	
	西日本学生選手権大会		18年(5月) 19年8月	大阪・福岡・岡山・名古屋・その他	
	全日本学生選手権大会		11月	沖縄・東京・名古屋・その他	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開催期間		大会名		成績	場所
平成18年5月		西日本学生ハンドボール選手権大会		3位	岡山
平成19年8月		西日本学生ハンドボール選手権大会		3位	名古屋
平成15年4月・9月～18年4月・9月		関西学生春季・秋季リーグ		3位	近畿地区
平成18年9月		関西学生秋季リーグ		2位	近畿地区

(表24)

38	所属	体育学部	職名	教授	氏名	吉田 精二	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) スポーツ測定評価			平成15年から平成19年まで	授業ごとの単元が終了したら・測定したデータを統計学的に分析した。				
2. 作成した教科書、教材、参考書 プリントを配布し理解力を求めた。			平成15年から平成19年まで	授業内容を明確にする為、学生の理解力の向上を計った。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 各学生に課題を与えて実践発表の実施			平成15年から平成19年まで	学生の理解力を確認するとともに、指導方法の改善に役立てた。				
4. その他教育活動上特記すべき事項 学生による授業評価			平成15年から平成19年まで	FD委員会から授業評価を受け・改善するところは改善し学生の意見を取り入れた。				
II 研究活動								

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
インピーダンス法による高精度体成分分析装置を用いた体組織と健康評価に対する一考	共著	平成16年3月	大阪体育学研究42	土肥啓一郎、梅林薫、上 勝也、瀧瀬定文、豊岡示朗、増原光彦、松生香里、松村新也、吉田精二	P 8 1 - 9 1
体育系大学における体力測定の方法と結果の考察	共著	平成18年9月	第61回日本体力医学会大会発表	梅林薫、鶴池政明、吉田精二	P 2 4 1
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
Ⅳ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	硬式野球 部		2. 役職	部長	3. 部員数 165 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 15 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	①		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間		場 所
	阪神大学野球連盟主催春、秋リーグ戦大会		4月から6月、9月から10月		近畿周辺
	全日本大学野球選手権大会		6月、11月		東京市内
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					
開 催 期 間		大 会 名		成 績	場 所
平成18年6月6日から11日		第55回全日本大学野球選手権大会		優勝	明治神宮野球場、東京ドーム

(表24)

39

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
体育学部	准教授	上谷 浩一	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
Ⅰ 教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概 要	
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 歴史学で、次のような工夫を行った ①高校と大学での学びの連続性を意識した指導を行った		18・19年度	①は、高等学校で獲得した知識を再吟味するという形で、より深い学びへとつながった	

②主体的な歴史認識の形成を支援する指導を行った		②は、史料批判と実証研究という歴史学の根本を体験させ、歴史認識形成の方法を獲得させた
2. 作成した教科書、教材、参考書 『大阪体育大学・教養基礎テキスト』（教科書） 『三国志概論』（教材） 『歴史学の発想と方法』（教材）	19年度 18・19年度 18・19年度	日本語技法部分の第二章を執筆 原典史料の読解と解説、考察をまとめた 参考資料の紹介と解説、考察をまとめた
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 日本社会科教育学会（全国大会での研究発表） 全国社会科教育学会（全国大会での研究発表）	18年度 18・19年度	科学的な社会認識能力の育成を目指した「オープンエンド理論」による歴史教育について、平成11年度より両学会の全国大会で研究発表を続けている
4. その他教育活動上特記すべき事項 総合演習・教職対策自主ゼミ（課外講座）	18・19年度	高等学校教員（進路指導部長・生徒指導部長）としての経験を活かし、教職志望の学生への支援を行っている

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
論文					
車胤の研究	単著	平成19年3月	大阪体育大学紀要（第38巻）		24頁～35頁
劉備玄德の青年時代	単著	平成19年3月	東洋史訪（第13号）		61頁～71頁
後漢政治史における鴻都門学	単著	平成16年9月	東洋史研究（第63巻第2号）		38頁～57頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動				
期 間		内 容		
平成19年8月 ~		中国水利史研究会 事務局長		
Ⅳ クラブ活動の指導業績				
1. 指導クラブ名	日本拳法 部	2. 役職	顧問	3. 部員数 8 人
4. 現場指導の頻度	④ ① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回	延べ日数： 8 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間	場 所
	西日本学生拳法選手権大会		4月15日	大阪府立体育館
	日本拳法全国大学選抜選手権大会		6月4日	早稲田大学
	全・日本拳法総合選手権大会		9月17日	大阪府立体育館
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				

(表24)

40	所属 体育学部	職名 准教授	氏名 梅垣 明美	大学院における研究指導担当資格の有無 有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概 要	
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
(1) 模擬授業の実施		平成16年4月 ～平成18年3月	体育教師及び幼稚園教諭・保育士の実践的指導力を身につけさせるため、模擬授業を取り入れた授業を行った。	
(2) スポーツ教育モデルの活用		平成16年4月 ～平成19年7月	実技の授業において、シーデントップのスポーツ教育モデルを活用している。そのことを通して、技術学習のみならず、コミュニケーション能力や役割遂行能力などの社会的行動学習をも意図した実技を行っている。	
(3) 講義ノートの作成		平成19年	授業のポイントを書いたノートを作成し、それに基づいた授業を行っている。	
(4) 小テストの実施		平成19年	毎時間、授業の最後に小テストを行い、学生の理解度を確認している。	
(5) 形成的評価の活用及び成績評価の迅速なフィードバック		平成19年	形成的評価のためのレポートを課している。その成績は一週間以内に返却し、理解不足の学生に対して別途対応している。	
(6) 「学生による授業評価」の実施		平成19年	学生による授業評価を実施し、授業改善に努めている。	

2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 教養としての体育原理	平成17年4月	体育原理に関する領域を初めて学ぶ人たちのための教科書を作成した。
(2) 全国 スポーツアスリート名鑑	平成17年5月	中学校の保健体育教授用の資料として、オリンピックやパラリンピックに出場した選手の苦労話や努力している秘話をまとめた。
(3) 生涯スポーツと運動の科学	平成18年4月	生涯スポーツの観点から、スポーツの生涯学習化について科学的に体系化して説明している。主に、「こどもと運動遊び」の授業用教科書として作成した。
(4) 「スポーツ教育学」の講義用ノートの作成	平成19年	毎時間授業の要点をまとめたプリントを学生に配布した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 学内研修にて、授業実践例を発表	平成18年7月	浅井学園大学短期大学部にて、こども学科で開講した「こどもと運動遊び」が学生から高い授業評価を受けた。その取り組みについて、FD委員会主催の研修会にて発表した。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
体育授業を観察評価するー授業改善のためのオーセンティック・アセスメントー	共著	平成15年10月	明和出版	◎友添秀則、梅垣明美	115頁～124頁
教養としての体育原理	共著	平成17年4月	大修館	友添秀則、樋口聡、岡出美則、出原泰明、梅垣明美他28名	100頁～103頁
名鑑スポーツアスリート 中学校保健体育科教授用資料	共著	平成17年5月	東京書籍	校閲：高橋健夫 監修：友添秀則、著者：梅垣明美他2名	12頁～22頁
生涯スポーツと運動の科学	共著	平成18年4月	市村出版	上杉尹宏、川初清典、小田史郎 梅垣明美他15名	66頁～72頁
からだ論への扉をひらく	共著	平成18年6月	叢文社	三井悦子、竹内敏晴 中村多仁子、梅垣明美他9名	117頁～121頁
論文					
スポーツ文化の創造能力を育てる体育授業	共著	平成15年7月	体育授業研究（第6巻）	◎梅垣明美、長町裕子 友添秀則	45頁～53頁
人間関係とソーシャルスキルを育む実践	共著	平成16年1月	体育科教育創刊50周年記念増刊号	◎梅垣明美、長町裕子	142頁～144頁
総合型地域スポーツクラブのあり方に関する研究 ー公共圏の創出をめざしてー	共著	平成17年3月	北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要（第43号）	◎梅垣明美、永谷稔	31頁～41頁

大学を拠点とした総合型地域スポーツクラブ化への模索について	共著	平成17年3月	北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要(第43号)	◎永谷稔、梁瀬歩、梅垣明美	43頁～52頁
体育における保育者養成プログラムの検討	共著	平成18年3月	浅井学園大学短期大学部研究紀要(第44号)	◎梅垣明美、晴山紫恵子	55頁～64頁
筋骨たくましいキリスト教徒のスポーツに対する態度について	単著	平成18年3月	浅井学園大学生涯学習システム学部研究紀要(第6部)		185頁～196頁
運動部の事件簿	単著	平成18年5月	現代スポーツ評論(14)		158頁～165頁
体育における人格形成プログラムの有効性に関する研究	共著	平成18年8月	体育科教育学研究(第22巻第2号)	◎梅垣明美、友添秀則 小坂美保	11頁～22頁
体育における人間形成論の課題	共著	平成19年3月	体育科教育学研究(第23巻第1号)	◎友添秀則、梅垣明美	1頁～10頁
保育者養成プログラムにおける模擬授業の効果について	単著	平成19年3月	浅井学園大学短期大学部研究紀要(第45号)		15頁～24頁
いま、体育で人格形成を行う意義とは	単著	平成19年4月	体育科教育(第55巻第4号)		22頁～25頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

Ⅳ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	女子ソフトボール 部		2. 役職	副部長	3. 部員数	30 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 回		延べ日数： 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間		場 所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						

(表24)

4 1

所属	体育学部	職名	准教授	氏名	川島 康弘	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				平成15年～	授業内容の理解度を高めるとを目的に課題を与え、数回のレポート作成させ、提出させている。		
(1) レポート提出							

(2) 視聴覚教材の活用	平成15年～	PCのプレゼンテーションソフトを活用し授業内容の理解度を高めている。
(3) 「学生による授業評価」の実施	平成16年～	FD委員会による「学生による授業評価」を受け、授業展開について検討した。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 体育方法実習 水泳 I	平成13年4月～	安全で有効に行う水泳指導法について、実技授業と併せて、水泳の理論をより理解しやすくするための教材として作成した。
(2) 水泳実習テキスト	平成15年7月～	遠泳・救助法を内容とした実習のプログラムスケジュールや、それを安全に実施するための計画、方法・理論を纏め、将来、企画運営ができるように配慮して作成している。
(3) 櫛 (創刊号～第10号)	平成8年11月～	1996年より本学コーチング系研究グループが中心となって、運動部の指導や問題点、スポーツパフォーマンス向上に役立つ理論などを纏めて作成している。コーチングコース専攻学生の副読本として使用している。
(4) 基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学 (大修館書店)	平成17年4月1日	1年次に専門基礎としてスポーツ科学の基礎を理解させるため、本学体育学部の教員で分担執筆し作成した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 大阪市スポーツ振興協会による「スポーツ大学」の講師	平成16年7月2日	同協会と本学の共催で行われている事業で、大阪市民でスポーツ指導者や興味を持つ人を対象としている。体力トレーニング論の1コマを担当。
(2) 大阪市スポーツ振興協会による「スポーツ大学」の講師	平成16年9月17日	同協会と本学の共催で行われている事業で、大阪市民でスポーツ指導者や興味を持つ人を対象としている。コーチング指導論の1コマを担当。
(3) 大阪府体育協会による「B級スポーツ指導員養成講習会」の講師	平成16年11月27日	日本体育協会の指導員養成事業で、スポーツ指導者を対象としている。「体力トレーニングの実際」について講義。
(4) 大阪市スポーツ振興協会による「スポーツ大学」の講師	平成18年6月23日	同協会と本学の共催で行われている事業で、大阪市民でスポーツ指導者や興味を持つ人を対象としている。体力トレーニング論の1コマを担当。
(5) 大阪府体育協会による「上級スポーツ指導員養成講習会」の講師	平成18年10月22日	日本体育協会の指導員養成事業で、スポーツ指導者を対象としている。「対象者にあわせたスポーツ指導」について講義。
4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 水泳実習の主任	平成15年～	本学の野外活動実習は全学をあげて行うこととしている。遠泳におけるプログラム立案から運営に至る授業の遂行を主任として行った。
(2) 「櫛」発刊10周年記念シンポジウム「大学スポーツを考える」の実施	平成17年1月23日	本学コーチング系編纂の「櫛」誌10周年を記念し、毎日新聞社と合同開催でシンポジウムを実施し、企画・運営を担当した。コーチ教育の学生を参加させ、大学スポーツのあり方について考えさせた。

II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
権第8号	編集	平成16年2月	大阪体育大学	コーチング系	
スポーツ種目別 ワンポイントトレーニング	共著	平成16年4月	大阪体育大学		30～32頁
OSP Aスポーツ大学 生涯スポーツ学科 I	共著	平成16年5月	(財) 大阪市スポーツ振興協会	(財) 大阪市スポーツ振興協会 大阪体育大学	75-81頁
OSP Aスポーツ大学 生涯スポーツ学科 II	共著	平成16年5月	(財) 大阪市スポーツ振興協会	(財) 大阪市スポーツ振興協会 大阪体育大学	107-110頁
権第9号	編集	平成17年2月	大阪体育大学	コーチング系	
権第10号	編集	平成18年3月	大阪体育大学	コーチング系	
OSP Aスポーツ大学 スポーツ科学学科	共著	平成18年5月	(財) 大阪市スポーツ振興協会	(財) 大阪市スポーツ振興協会 大阪体育大学	47-56頁
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	152-153頁
論文					
大学競泳チームにおける心理的サポートの 実践	共著	平成15年3月	大阪体育大学紀要第34巻	◎土屋裕睦、川島康弘他	83～94頁
本学臨海水泳実習の実施状況とその教育効果 について	共著	平成19年3月	大阪体育大学紀要第38巻	◎川島康弘、土屋裕睦他	113～123頁
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	水上競技 部		2. 役職	コーチ	3. 部員数 71 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	3 回	延べ日数：	30 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		

9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所
	関西選手権水泳競技大会	平成19年2月17, 18日	東大阪アリーナ
	第48回 日本短水路選手権水泳競技大会	平成19年3月3, 4日	東京辰巳国際水泳場
	第83回 日本選手権水泳競技大会	平成19年4月5～8日	千葉県国際水泳場
	第14回 関西学生春季短水路公認記録会	平成19年4月14日	奈良県営室内プール
	2007年度 大阪学生選手権水泳競技大会	平成19年5月20日	東大阪アリーナ
	第6回 関西学生夏季公認記録会	平成19年6月3日	高槻市民プール
	第1回 天理チャレンジ水泳競技大会	平成19年6月23, 24日	天理大学プール
	第81回 関西学生選手権水泳競技大会	平成19年7月27～29日	大阪プール
	平成19年度 大阪府選手権水泳競技大会	平成19年8月4, 5日	なみはやドーム
	第83回 日本学生選手権水泳競技大会	平成19年9月7～9日	東京辰巳国際水泳場

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開催期間	大会名	成績	場 所
平成15年7月30日～8月1日	第77回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	第39回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第2位	大阪プール
平成15年9月5～7日	第79回 日本学生選手権水泳競技大会	女子200mバタフライ 第4位	東京辰巳国際水泳場
平成16年7月30日～8月1日	第78回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	第40回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第6位	大阪プール
平成16年9月3～5日	第80回 日本学生選手権水泳競技大会	女子800m自由形 第5位	相模原市立総合水泳場
平成17年7月29～31日	第79回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 優勝	なみはやドーム
〃 〃	〃 〃	男子400m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m背泳ぎ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m背泳ぎ 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m平泳ぎ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mリレー 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子1500m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mメドレーリレー 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m背泳ぎ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m平泳ぎ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子800mリレー 第2位	〃

平成17年 7月29～31日	第41回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第4位	なみはやドーム
〃 〃	〃 〃	女子200mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子100m平泳ぎ 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子800m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	女子100m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子400m個人メドレー 第2位	〃
平成18年 2月18～19日	平成18年 関西選手権水泳競技大会	優秀選手証	東大阪アリーナ
平成18年 2月25～26日	第47回 日本短水路選手権水泳競技大会	男子100m自由形 第7位	東京辰巳国際水泳場
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 第7位	〃
平成18年 4月20～23日	第82回 日本選手権水泳競技大会	男子200mバタフライ 第6位	東京辰巳国際水泳場
平成18年 7月28～30日	第80回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第3位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	男子400m自由形 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子1500m自由形 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m個人メドレー 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100mバタフライ 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子400mメドレーリレー 第3位	〃
〃 〃	〃 〃	男子100m自由形 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200m平泳ぎ 第2位	〃
平成18年 7月28～30日	第42回 関西女子学生選手権水泳競技大会	(総合) 第4位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	女子200m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子400m個人メドレー 第2位	〃
〃 〃	〃 〃	女子200m平泳ぎ 第3位	〃
平成18年 9月1～3日	第82回 日本学生選手権水泳競技大会	男子200m自由形 第5位	東京辰巳国際水泳場
平成18年 9月1～3日	第82回 日本学生選手権水泳競技大会	男子1500m自由形 第5位	東京辰巳国際水泳場
平成19年 3月3～4日	第48回 日本短水路選手権水泳競技大会	男子200m自由形 第7位	東京辰巳国際水泳場
平成19年 7月27～29日	第81回 関西学生選手権水泳競技大会	(総合) 第2位	大阪プール
〃 〃	〃 〃	男子200mバタフライ 優勝	〃
〃 〃	〃 〃	男子200mバタフライ 第2位	〃

〃	〃	〃	〃	男子1500m自由形 第3位	〃
〃	〃	〃	〃	男子100mバタフライ 優勝	〃
〃	〃	〃	〃	男子100mバタフライ 第3位	〃
〃	〃	〃	〃	男子400mメドレー 第2位	〃
〃	〃	〃	〃	男子400m個人メドレー 第2位	〃
〃	〃	〃	〃	男子100m背泳ぎ 第3位	〃
平成19年 7月27～29日		第43回 関西女子学生選手権水泳競技大会		(総合) 第3位	大阪プール
〃	〃	〃	〃	女子200mリレー 第3位	〃
〃	〃	〃	〃	女子800m自由形 第2位	〃
〃	〃	〃	〃	女子200m自由形 第3位	〃
〃	〃	〃	〃	女子400m個人メドレー 第3位	〃

(表24)

4 2

所属	体育学部	職名	准教授	氏名	木村 準	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		平成15年～19年	「スポーツ基本運動」においては、基本的運動をテーマとして取り上げ学生のパフォーマンス測定と運動観察（VTR）をさせ、各種の運動（歩く・走る・跳ぶ・投げる）を理解できるよう配慮した。				
(1) 授業評価を実施し教育内容等を吟味した。		平成15年～19年	「スポーツ基本運動」においては、各種の運動毎の授業時にデーター・表・グラフを配布し各種の運動レポートの課題の教材として作成している。				
(2) データー及びグラフ							
2. 作成した教科書、教材、参考書		平成17年	Ⅲスポーツ種目別のトレーニングの例「10. バスケットボール」P55-60				
(1) スポーツ種目別ワンポイントトレーニング							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		平成17年10月21日	コーチング論Ⅱとして、人を育てるチーム作り（チーム種目）をテーマとして講義				
(1) OSPAスポーツ大学（主催（財）大阪市スポーツ振興協会）講義							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	大修館書店	編者 大阪体育大学体育学部	153頁～154頁		

論文						
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動						
期 間		内 容				
平成15年4月	～	平成19年7月	関西学生バスケットボール連盟 常任理事（総務部 副部長）			
平成15年4月	～	平成19年3月	大阪バスケットボール協会 理事			
平成19年4月	～	平成19年7月	大阪バスケットボール協会 副理事長			
Ⅳ クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	男子バスケットボール 部		2. 役職	監督	3. 部員数	82 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 3 回		延べ日数： 15 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間	場 所		
	関西学生バスケットボール選手権大会		4月下旬～5月上旬	大阪市立東淀川体育館他		
	西日本学生バスケットボール選手権大会		6月上旬	大阪府立体育館他		
	関西学生バスケットボールリーグ戦（1部リーグ）		9月上旬～10月下旬	なみはやドーム他		
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）						
開 催 期 間		大 会 名		成 績	場 所	
平成17年4月下旬～5月上旬		関西学生バスケットボール選手権大会		4位	大阪市立東淀川体育館他	
平成18年9月上旬～10月下旬		関西学生バスケットボールリーグ戦（1部リーグ）		4位	なみはやドーム他	
平成19年4月下旬～5月上旬		関西学生バスケットボール選手権大会		4位	大阪市立東淀川体育館他	

(表24)

43

所属	体育学部	職名	准教授	氏名	工藤 俊郎	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							

(1) 「教養演習Ⅰ」での小論文個別添削指導	H15～H18年度	賛否の間える具体的論点に関して序論・本論・結論の3部構成で根拠を挙げて説得的に論じる文章を書く練習をさせ、添削した答案をもとに個別に質疑して議論を整理させた。このことにより物事を筋道立てて考える経験を積むことを企図した。
(2) 「日本語技法Ⅰ」での作文指導	H19年度	日本語作文に関する初歩的約束事から解説した作文指導用共通テキストを作成した。そして、そのテキストに従い、毎時間各重点事項に留意した作文指導を行った。この授業は、新入生全員の必修科目である。この科目を通して、レポート、論文の基本作法が本学学生全員の共通了解事項となるよう配慮し、この先、大学の各授業で課せられるレポート作成が充実したものとなることを期待している。
(3) 「英語Ⅰ」でのe-learningの導入	H19年度	新入生全員履修の英語Ⅰにおいて、学内LANを利用したe-Learningシステム(アルク教育社ネットアカデミー)を導入し、学生がヒアリング面も含めた英語学力を実質的に向上させることを目指した。学生の積極的な利用を促すため、このシステムの利用進捗度合いを英語Ⅰの成績評価に一定割合組み込んだ。また、基礎学力不足の学生には、本システムの入門用コースを別途学習することを課した。そして、その成果が一定水準に達することを必修単位である英語Ⅰの単位認定の要件とした。
(4) 指定テキスト内容を抜き出し作成した空所補充のワークシートを配布し、学生に予習と復習をさせた。		教員免許に必要な科目として、比較的広い範囲を内容を限られた時間内で講義しなければならないので、テキストの活用が必要である。そのため空所補充ワークシートを配布し予習・復習をさせて授業進行の円滑化を図った。
(5) 「心理学」での視聴覚教材による内容の具体化	H15～H19年度	映像等視覚教材をプロジェクターで呈示し、講義内容が具体的に理解できるよう努めた。また、簡単に体験できる実験を呈示して体験的に学べる機会を捻出する。
(6) 「心理学」および「教育心理学」での確認テスト実施	H16～H17	内容のまとまりごとに、復習のための確認テストを配布して、理解の確認と理解した内容の定着がなされるように努めた。
(7) 全科目で質問票と出席票を毎回配布・回収した。	H16～H18	出席票を兼ねた質問票を配布し、出席管理に利用すると同時に、講義内容の要約と質問を記させ学生の積極的関与を促した。そして、次回講義で質問にできるだけ答えるよう努めた。
(8) 「授業評価」を受けた。	H16～H19	F D委員会による授業評価を受け、授業の改善に取り組んだ。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 「基礎から学ぶ教育心理学」八千代出版(2004)を出版し、講義テキストとした。	H16～H19	限られた時間内で教員の資質として必要な一定範囲の基礎知識を伝えるためには、自学できるテキストが必要である。基礎知識を自学できるためのテキストとして作成した。
(2) 講義時にスクリーン呈示する教材を印刷して配布した。	H16～H19	講義を効率よく進めるため、授業時にスクリーン呈示する内容を印刷して配布した。このことにより学生がノートをとることに気を取られて内容の理解が疎かにならないことを企図した。
(3) 日本語技法Ⅰのために「教養基礎テキスト」を作成した。	H19年度	第1部で、大学での高等教育と高等学校までの中等教育での勉学の違いを述べ、大学で求められる文章とは何かを説明した。そして、第2部で具体的に日本語表現に関する約束事および大学で求められる文章の書き方を順序立てて述べた。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					

基礎から学ぶ教育心理学	共著	平成16年3月	八千代出版	◎工藤俊郎, 高井直美, 上田恵津子, 菅原康二	1頁～12頁および69頁～134頁
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
Ⅳ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	部		2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数:	回	延べ日数:	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期間	場所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					

(表24)

4 4

所属	体育学部	職名	准教授	氏名	土屋 裕睦	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				1999. 4. 1～現在	授業にあたっては、①視聴覚機材の活用、②対話のある授業の推進、③オフィスアワーと教員連絡先(メールアドレス)の明示に努めている。本学FD委員会の「学生による授業評価」の実施以前より、20人以上の授業では「学生による授業ならびに教員の授業態度に関する評価」を実施し、授業方法の改善に努めてきた。		
スポーツ心理学、スポーツカウンセリング、スポーツとメンタルヘルス、メンタルトレーニング論、健康スポーツ指導論・同実習、剣道、健康科学実験実習(メンタルヘルス)、教養演習、メンタルヘルス特論、メンタルヘルス特演							
2. 作成した教科書、教材、参考書				1999. 4. 1～現在	健康スポーツ指導論・同実習のテキストとして、「インターンシップ実習マニュアル」(全132頁)を作成している。		
インターンシップ実習マニュアル							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
高槻市生涯スポーツ指導員養成講座				2005. 6. 4	現場で生かせるスポーツ心理学について講義		
OSPAスポーツ大学				2005. 6. 17・6. 24	スポーツカウンセリングの理論と実際について講義		
箕面市教育委員会主催カウンセリング講座講師				2005. 7. 25	教職員を対象に育てるカウンセリングの理論と実際を講義		
日本体育協会上級指導員養成講習会				2005. 10. 30	メンタルトレーニングの実践法等、スポーツ心理学について講義		
秋田県中学校体育連盟指導者講習会				2005. 11. 11	学研主催の指導者講習会にてメンタルトレーニング指導法を解説。		

高石市教育委員会主催カウンセリング講座講師	2006. 2. 28	教職員を対象に育てるカウンセリングの理論と実際を講義
高槻市生涯スポーツ指導員養成講座	2006. 7. 22	現場で生かせるスポーツ心理学について講義
高石市教育委員会主催カウンセリング講座講師	2006. 8. 15	2学期からすぐに使える構成的グループエンカウンター、ストレスマネジメント教育
OSPAスポーツ大学	2006. 9. 1・9. 8・ 12. 1・12. 15	スポーツカウンセリングの理論と実際について講義
日本体育協会スポーツドクター養成講習会	2006. 9. 23	スポーツ心理学（メンタルトレーニング、スポーツ障害の心理、他）
平成18年度日本体育協会上級指導員養成講習会	2006. 10. 22	スポーツの心理
京都府体育協会主催平成18年度京都府スポーツセンター指導者研修講座	2007. 2. 25	現場で生かせるスポーツ心理学について講義
大阪体育学会研究方法セミナー	2007. 3. 10	メンタルトレーニングの実際：「模擬面接によるこころの変化」
財団法人大阪市勤労福祉文化協会主催、第34回中高年齢者教養講座	2007. 3. 13	体とこころのバランスを保つ方法
平成19年度障害者スポーツコーチ要請講習会B	2007. 6. 30	チームマネジメントについて講義
4. その他教育活動上特記すべき事項		
学生相談およびカウンセリング業務	1999. 4. 1～ 2000. 3. 31	学生相談室・スポーツカウンセリングルームにて世話人。
	2000. 4. 1～現在	学生相談室・スポーツカウンセリングルームにて心理カウンセラー（週2日、10時より17時まで）を担当。

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
カウンセリングとソーシャルサポートつ ながり支えあう心理学	共著	平成19年	ナカニシヤ出版	水野治久・谷口弘一・福岡欣治・古宮昇 （編）	110-119
体育教師のための心理学	共著	平成18年	大修館書店	スポーツ社会心理学研究会（訳）	145-155
基礎から学ぶ 体育スポーツの科学	共著	平成18年	大修館書店	大阪体育大学体育学部（編）	194-197, 258-261. 338-341
最新スポーツ科学事典	共著	平成18年	平凡社	日本体育学会（編）	741-743
スポーツメンタルトレーニング教本-改訂 増補版	共著	平成17年	大修館書店	日本スポーツ心理学会（編）	50-53, 111-115, 157-162
教養としてのスポーツ心理学	共著	平成17年	大修館書店	徳永幹雄（編）	66-68, 68-70.
最新スポーツ心理学—その軌跡と展望	共著	平成16年	大修館書店	日本スポーツ心理学会（編）	219-230
論文					

心理的サポートを取り入れたコーチングの実践—シーズンを通じてメンタルトレーニングに取り組んだ事例—	共著	平成18年	大阪体育学研究 (44巻)	松本和典・土屋裕睦	47-57
大学体育授業を通じてかかわった新入生の事例—構成的グループ・エンカウンターを实践して—	共著	平成18年	カウンセリング研究 (第38巻4号)	松岡有希・土屋裕睦	41-47
メンタルトレーニングの理論と実際.	単著	平成18年	トレーニングジャーナル (317号)		44-47
スポーツカウンセリングとは何か?—スポーツカウンセリングの現状と将来性.	単著	平成17年	コーチングクリニック (2005-9)		125-130
競技者のソーシャルサポートとライフスキル.	単著	平成17年	体育の科学 (第55巻2号)		6-10
体験エクササイズで乗り越える—ミーティングを活用したチームビルディング.	単著	平成17年	コーチングクリニック (2005-5)		16-21
我が国におけるメンタルトレーニング指導の現状と課題—関連和書を対象とした文献研究—	共著	平成16年	スポーツ心理学研究 (第31巻1号)	西野明・土屋裕睦	9-21
こころの成長・発達と身体活動：これからの体育の課題.	単著	平成16年	体育科教育 (第12巻)		57
こころのコンディショニング.	単著	平成16年	剣道時代 (第381巻)		70-73
チームワーク向上のためのメンタルトレーニング.	単著	平成15年	体育科教育 (第9巻)		62-63
その他の論文 (紀要等)					
本学臨海水泳実習の実施状況とその教育効果について.	共著	平成19年	大阪体育大学紀要 (第38巻)	川島康弘・土屋裕睦・滝瀬定文・増原光彦	113-123
2005年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共著	平成19年	大阪体育大学紀要 (第38巻)	土屋裕睦, 高橋幸治, 今堀美樹, 荒屋昌弘, 前林清和, 石原端子	95-112
大阪市中央体育館トレーニング室におけるメンタルサポート：平成18年度開室準備段階を中心に.	共著	平成19年	大阪体育大学紀要 (第38巻)	松本和典, 石原端子, 中尾泰史, 菅生貴之, 土屋裕睦	36-43
スポーツカウンセリングとライフスキル	単著	平成18年	権 (第10号)		77-83
2004年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告	共著	平成18年	大阪体育大学紀要 (第37巻)	土屋裕睦, 高橋幸治, 今堀美樹, 古谷学, 西村理晃, 松本和典	96-110
スポーツカウンセリングとバーンアウト.	単著	平成17年	権 (第9号)		57-65
2003年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告.	共著	平成16年	大阪体育大学紀要 (第36巻)	土屋裕睦, 山本昌輝, 廣瀬幸市, 高橋幸治, 今堀美樹	129-144
2002年度学生相談室・スポーツカウンセリングルーム活動報告.	共著	平成15年	大阪体育大学紀要 (第35巻)	土屋裕睦, 山本昌輝, 廣瀬幸市, 高橋幸治, 樋口幸代	157-172

大学競泳チームにおける心理的サポートの 実践.	共著	平成15年	大阪体育大学紀要（第35巻）	土屋裕睦，川島康弘，滝瀬定文	83-94
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間			内 容		
平成14年4月	～	現在	日本スポーツ心理学会理事		
平成15年4月	～	現在	日本体育学会体育心理分科会理事		
Ⅳ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	部		2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：		回	延べ日数：	日
6. クラブの競技力向上への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績（全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）					

(表24)

45	所属	体育学部	職名	准教授	氏名	鶴池 政明	大学院における研究 指導担当資格の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無
Ⅰ 教育活動								
教育実践上の主な業績				年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）								
シラバスによる成績の明確さ				平成15年～	レポート、中間試験、宿題および出席率などを割合（％）で明確にし、課題を与えるごとにあるいは返却するごとにそれらを確認した			
レポート作成の重視				平成15年～	レポート作成の規定を設け、学生に規定内で課題を説明させた			
中間試験の実施				平成15年～	中間試験を実施し、解答と問題の解説を行った。このことで、学期末試験の取り組み方を高めた			
口頭試験の実施				平成15年～	実習の授業では、関連する知識、技術を口頭による実践試験を実施した			
実技試験の実施				平成15年～	テーピングに関連する知識、技術について検定資格試験の環境を模擬し実施した			
アスレティックトレーニングルームの整備と管理				平成15年～	アスレティックトレーニングルームで学生がトレーナー実習できる環境を構築した			
2. 作成した教科書、教材、参考書								
学生トレーナーハンドブック				平成15年～	実習マニュアルを作成。ハンドブックには、口頭評価試験、日誌、SOAPノートの作成、実習の内容と注意点などを記載した			

テキスト アスレティックリハビリテーション	平成16年～	講義内容、講義のスライド、各章の練習問題と解答と解説、各章の専門用語などを記載した
テキスト アスレティックトレーニング概論	平成19年～	講義内容、講義のスライド、各章の練習問題と解答と解説、各章の専門用語などを記載した
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (財)日本体育協会公認B級スポーツ指導員養成講習会講師 高槻市教育委員会スポーツ振興課生涯スポーツ指導者育 (財)大阪市スポーツ振興協会主催OSPAスポーツ大学講師 B&G海洋レクリエーション指導員養成研修指導講師 阪南市体育協会スポーツ指導者のための研修指導講師	平成15年 平成15年～ 平成15年～ 平成16年 平成17年	スポーツに関わる指導者を対象にスポーツ科学に関する講演と実技指導を行った スポーツに関わる指導者を対象にテーピングの理論と実際に関する講演と実技指導を行った スポーツに関心ある一般市民を対象にスポーツ医学に関する講演と実技指導を行った スポーツに関わる指導者を対象にスポーツ科学に関する講演と実技指導を行った スポーツに関心ある一般市民を対象にスポーツ医学に関する講演と実技指導を行った
4. その他教育活動上特記すべき事項 (財)日本体育協会認定アスレティックトレーナー検定資格試験適応コース	平成15年～	承認カリキュラムを構築

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
スポーツ指導者のためのスポーツ医学	分担	校正中	南江堂		
柔軟性の科学	訳分担	校正中	(株)大修館書店		
基礎から学ぶ体育・スポーツ科学	分担	平成19年4月	(株)大修館書店		
アスレティックテーピングとリハビリテーションエクササイズ	訳分担	平成18年6月	(有)ナップ	梶谷, 鶴池	B5・144
スポーツ外傷・障害評価ハンドブック	訳分担	平成17年5月	(有)ナップ	中里(監訳) 鶴池, 梶谷(訳)	A5・421
論文					
Implications for using H-max/M-max ratio in H-reflex parameters for elderly subjects compared with young subjects	共著	平成17年10月	Electromyography and Clinical Neurophysiology, 46	Tsuruike, Kocejka, Robertson, Yabe	285-290
Age comparison of H-reflex modulation with the Jednassik maneuver and postural complexity	共著	平成15年5月	Clinical Neurophysiology, 114	Tsuruike, Kocejka, Yabe, Shima	945-953
学会研究発表抄録					
膝屈曲の筋力発揮特性とVM0の活動における性別比較	共著	平成18年12月	体力科学55(6)	鶴池, 矢部	612

体育系大学における体力測定の方法と結果の考察	共著	平成18年12月	体力科学55(6)	梅林、鶴池、吉田	777
Investigation of H-Reflex Modulation with Two Experimental Techniques and Active Movement on the Balance Board	共著	平成18年6月	Med Sci Sports Exerc 38(5S)	Tsuruike, Kitano, Robertoson, Koceja	442
Depression and Recovery of Spinal Synaptic Efficacy Following a Balance Task	共著	平成18年6月	Med Sci Sports Exerc 38(5S)	Kitano, Tsuruike, Robertoson, Koceja	442
Presynaptic Inhibition of the H-reflex Relative to Test Reflex Size: Effects of a Voluntary Contraction	共著	平成18年6月	Med Sci Sports Exerc 38(5S)	Robertoson, Kitano, Tsuruike, Koceja	441
Effects of Balance Training on Two Spinal Modulatory Mechanisms	共著	平成17年9月	体力科学 54(1)	Kitano, Tsuruike, Koceja	19
バランストレーニングにおける2つの条件反射の変動性の考察	共著	平成17年12月	体力科学 54(6)	鶴池、矢部	440
Effects of Down-Training Upon Spinal Plasticity During Balance Task	共著	平成17年6月	Med Sci Sports Exerc 37(5S)	Kitano, Robertson, Tsuruike, Koceja	866-67
Age Comparison Of H-max And M-max Modulation With Different Muscle Length In The Prone Position	共著	平成17年6月	Med Sci Sports Exerc 37(5S)	Tsuruike, Koceja	399
Binocular and monocular visual signals: dependent effects of limb vision in online reaching control	共著	平成17年5月	Journal of Sport & Exercise Psychology 27	Heath, Tsuruike, Neely	75
Force-length-velocity comparison of hamstring and quadriceps in isometric and isokinetic contractions with young subjects	共著	平成16年6月	Journal of Athletic Training Supplement 39	Tsuruike, Hoffman	109
異なる関節角度におけるM-max値の変化－伏臥位	共著	平成15年9月	体力科学52(6)	鶴池、矢部	832
Force-length-velocity Changes in the amplitude of M-max with different joint angles in the prone position	共著	平成15年6月	Medicine and Science in Sports and Exercise Supplement 35	Tsuruike, Hoffman	280

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成10年5月 ～ 平成16年11月	Journal of Athletic Training 編集委員
平成14年4月 ～ 平成17年3月	ジャパン・アスレティックトレーナーズ協会理事
平成17年4月 ～ 平成18年3月	なみはやスポーツ医・科学サポート機能調査研究会議委員
平成17年10月 ～	ジャパン・アスレティックトレーナーズ協会ニュースレタープロジェクトジャーナル オブ アスレティックトレーニング部会部会長

平成18年11月	～	スポーツ科学研究編集委員				
平成19年1月	～	(財)日本体育協会検定試験検討ワーキンググループ担当班員				
IV クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	アメリカンフットボール 部		2. 役職	部長	3. 部員数	26 人
4. 現場指導の頻度	③	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回		延べ日数： 4 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間		場 所	
	西日本学生大会		4月～5月		京阪神	
	関西学生リーグ戦		9月～11月		京阪神	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						

所属	体育学部	職名	准教授	氏名	富山 浩三	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） パソコンプレゼンテーションの活用				19年4月より	授業での板書をすべてパソコンによるパワーポイントプレゼンテーションを活用して行っている。写真に加えて動画などもパソコンに取り込んで見せることによって、学生の興味を引くように工夫している。また、授業に関わるクイズなども行うことで、集中力が持続するように工夫している。		
2. 作成した教科書、教材、参考書 基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学				平成19年4月1日	生涯スポーツ振興、スポーツ組織等について担当		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
キャンプ指導者入門	共著	平成18年3月	日本キャンプ協会	(社) 日本キャンプ協会			
キャンプディレクター必携	共著	平成18年4月	日本キャンプ協会	(社) 日本キャンプ協会			
スポーツ白書	共著	平成18年	SSF笹川スポーツ財団	SSF笹川スポーツ財団			
基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学	共著	平成18年	大修館	大阪体育大学体育学部			
スポーツ産業論	共著	平成19年4月	杏林書院	原田宗彦			
論文							
スポーツを通じた大学の地域貢献プログラムの開発 — 「教員」「学生」「地域住民」のネットワークシステムの構築	単著		体育・スポーツ教育研究第4巻第1号				
Sports Club Reputation	単著	平成17年（投稿中）	Proceeding EASS 2007 Conference				
Public Sports Facility Operation	共著	平成17年（投稿中）	Proceeding EASS 2007 Conference	Hitomi Sukesue			

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成16年4月 ~		日本キャンプ協会指導者養成委員会委員			
平成17年8月 ~		伊丹市スポーツ振興審議会委員			
平成17年4月 ~		大阪府立豊島高等学校学校協議委員			
Ⅳ クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	体育実技研究 部		2. 役職	部長	3. 部員数
		約40 人			
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 5 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み			①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み	②		①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					

(表24)

47	所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
	体育学部	准教授	長尾 佳代子	有	無
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
(1) 「国語表現法」「教養演習I」での作文添削		平成16年度前期～平成17年度後期	毎時間(教養演習Iでは隔週)400字～800字程度の作文の添削指導を行った。具体的な採点基準に基づいて各5点満点で評価し、期末レポート(2000字)の点数とあわせて成績評価とした。採点基準は学生に公表した。		
(2) 「(日本)文学」の小レポート作成指導		平成16年度前期～	講義内容の理解を確認する小レポート(200字～400字程度)を毎回書かせ、あわせて基本的な作文指導を行った。		
(3) 「教養演習I」「教養演習II」「総合演習」での調査・発表訓練		平成16年度前期～平成17年度後期	テーマを選び、それについて調査し、発表する、という演習を行った。資料調査の基本的なルールや情報機器の操作の指導もあわせて行った。		
(4) 視覚、聴覚教材活用による理解度の向上		平成16年度前期～	映像・写真・録音等の教材を使い、講義内容を具体的にイメージできるようにして理解度を高めた。		
(5) 情報機器による成績評価の合理化		平成16年度前期～	小レポートや作文をイメージスキャナで読み取り、画像で保存すると同時に、点数をOCRでデータ化して成績評価を行った。作業を合理化すると同時に、結果を常時学生に公表することができた。		
(6) 「学生による授業評価」を実施		平成16年度前期～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて改善を行っている。		

(7) 習熟度別クラス編成・少人数演習方式での「日本語技法Ⅰ」の実施	平成18年度～	習熟度別・少人数のクラス編成で作文演習を行う授業を設定し、大学教育を受けるために必要な基礎的な日本語能力を養成するための授業を初年度教育として設置した。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 「国語表現法」ハンドアウト	平成16年度 前期後期～	毎時間B4版1枚に講義の要点と資料をまとめ、学生に配布した。22ページ。
(2) 「日本文学」ハンドアウト	平成16年度 前期後期～	講義の要点と関連するテキストをB4版に記載した資料を配布した。50ページ。
(3) 「国語表現法」「日本文学」パワーポイントスライド	平成16年度前期～	「物語の誕生」「日本語の表記について」等テーマごとのスライドを複数作成した。
(4) 『大阪体育大学・教養基礎テキスト（暫定版第一版）』	平成19年4月1日	第Ⅱ部「日本語技法」担当。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 推薦入学予定者に対する入学前指導の企画と実行	平成17年度後期～	推薦入学予定者を対象とした入学前指導を企画し、約300人の対象者に作文指導を行った。

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
原始仏典第7巻（中部経典Ⅳ）	共著（翻訳）	平成17年10月	春秋社	森粗道 編集	271頁～461頁
論文					
仏の放光と蜘蛛の糸 — ポール・ケイラスの原作に日本の絵師が重ねたイメージ —	単著	平成18年3月	大阪体育大学紀要（第37号）		17頁～32頁
南イリノイ大学カーボンデイル校特別文庫中の日本関連資料	単著	平成19年3月	大阪体育大学紀要（第38号）		61頁～70頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
～	パーリ学仏教文化学会会員
～	仏教文学学会会員
～	説話伝承学会会員
～	早稲田大学東洋哲学会会員
～	日本仏教総合研究会会員

Ⅳ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	新体操 部	2. 役職	部長	3. 部員数	8 人
4. 現場指導の頻度	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	③	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					

(表24)

48

所属	体育学部	職名	准教授	氏名	平野 亮策	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			平成16・17年担当教科目の授業評価を実施 (柔道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)				
2. 作成した教科書、教材、参考書							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項			柔道指導者として昭和46年渡仏、平成2年までフランス柔道連盟の傘下にあつて、マルセイユ(フランス)を中心にスイス、イタリア、レユニオン島等で指導、その間にオリンピックメダリスト、世界選手権優勝者を出す。平成2年帰国後は、授業と柔道部の指導を努める。国際柔道夏期講習会(フランス)に毎年講師として参加				
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
柔道とJUDO-その6	単著	平成16年2月	権9号 大阪体育大学		P.13-P.17		
柔道とJUDO-その7	単著	平成17年2月	権9号 大阪体育大学		P.45-P.47		
第60回国民体育大会柔道競技	単著	平成18年3月	大阪の柔道 第29号		P.7-P.8		

大阪体育大学生の体力を測る	共著	平成18年3月	大阪体育大学紀要 第36号	岡村浩嗣 平野亮策 中井俊行 豊岡示朗	P. 137-P. 144
武道	単著	平成18年4月	基礎から学ぶ体育・スポーツの科学大阪 体育大学体育学部編		P. 155-P. 156
論文					

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成14年4月 ~ 平成18年4月	関西学生柔道連盟常任理事 強化委員 審判員
平成14年4月 ~ 平成18年4月	大阪府柔道連盟 審議 評議員 強化委員
平成16年 ~ 平成18年	日本武道学会大阪支部 文化論部
平成4年3月 ~	全日本学生柔道連盟海外研修遠征カナダ (コーチ)
平成8年3月 ~	全日本学生柔道連盟海外研修遠征フランス・スペイン (コーチ)
平成9年8月 ~	大阪学生柔道連盟海外研修遠征韓国 (監督)
平成10年3月 ~	全日本学生柔道連盟海外研修遠征フランス (監督)
平成12年3月 ~	全日本学生柔道連盟海外研修遠征フランス・ドイツ (監督)
平成14年3月 ~	全日本学生柔道連盟海外研修遠征フランス・モナコ (監督)

Ⅳ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	柔道 部	2. 役職	監督	3. 部員数	52 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数 :	2 回	延べ日数 :	14 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			

9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
	全日本学生柔道優勝大会		
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会		
	全日本学生柔道体重別選手権大会		

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開催期間	大会名	成績	場所
平成13年7月15日	第4回全日本ジュニア女子柔道体重別選手権近畿予選会	準優勝 48kg級	吹田武道館
平成13年5月20日	第9回関西学生女子柔道優勝大会	第3位	グリーンアリーナ神戸
平成13年9月2日	第20回関西学生柔道体重別選手権大会	準優勝 60kg級 第3位66kg級	尼崎記念公園総合体育館
平成13年9月2日	第13回関西学生女子柔道体重別選手権大会	優勝63kg級 準優勝78kg級 第3位70kg級	尼崎記念公園総合体育館
平成13年10月6・7日	平成13年度正力松太郎杯全日本学生女子柔道体重別選手権大会	第3位70kg級 ベスト863kg級	日本武道館
平成14年5月19日	第13回関西学生女子柔道体重別選手権大会	準優勝57kg級 第3位48kg・70kg級	グリーンアリーナ神戸
平成15年5月25日	第11回関西学生女子柔道優勝大会	準優勝	尼崎記念公園総合体育館
平成15年6月28・29日	第12回全日本学生女子柔道優勝大会	ベスト8	日本武道館
平成15年8月30・31日	第15回関西学生女子柔道体重別選手権大会	優勝70kg級 第3位57・70・+78kg級	グリーンアリーナ神戸
平成15年10月4・5日	第19回全日本学生女子柔道体重別選手権大会	第3位 70kg級	日本武道館
平成16年5月23日	第12回関西学生女子柔道優勝大会	第3位	尼崎記念公園総合体育館
平成16年8月28・29日	第16回関西学生女子柔道体重別選手権大会	優勝48kg級 準優勝70kg級 第3位52kg級	グリーンアリーナ神戸

(表24)

49

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
体育学部	准教授	藤本 淳也		有・無
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) (1) 研究発表やフィールドワークの重視		平成13年度～	特に、演習では、学生個人がテーマを決めて発表する研究報告を課し、課題の発見、情報収集、分析、まとめ、プレゼンテーションの一連のプロセスの習得を目指した。フィールドワークは、「Jリーグ観客調査(実施、集計、報告書作成)」「bjリーグ観戦者調査(実施、集計、報告書作成)」を毎年、「プロ野球観客調査(実施、集計、報告書作成)」を隔年程度の頻度で実施した。また、平成14年度には、韓国のヨンセイ大学と交流プログラムを実施した。	

(2) 情報提供とディスカッションの重視	平成13年度～	スポーツマーケティングと演習では、一般新聞、日経流通新聞、Sport Business Journalなどを中心に、スポーツビジネスやマーケティング能力を高めるために有効な情報を収集し、毎週提供すると共に解説を加えた。また、これらの情報を基にスポーツビジネスに対する問題を提起し、学生の意見を中心にディスカッションを展開した。
(3) リサーチ能力向上の重視	平成13年度～	スポーツ行動分析法では、リサーチプラン作成能力を養うため、二次的データの収集と分析、現状の把握、問題点の把握、リサーチの必要性の確認、目的と仮説の設定、リサーチ方法の検討、調査用紙の作成という一連のプロセスをレポートにまとめ提出を求めた。さらに、演習では、これらの能力を実践を通して高めるために、調査、分析、報告書作成を体験学習した。
(4) 実技におけるマネジメント能力と指導能力の向上の重視	平成14年度～	レクリエーションIIでは、グループ単位でレクリエーション・プログラムを立案し、授業内で実施するとともに、受講者からの量的・質的評価をまとめるというプロセスを体験的に学習させた。また、演習ではインターンシップを重視し、就業体験を基にマネジメント能力の向上を図る取り組みを実践した。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 「スポーツマーケティング」大修館書店	平成16年4月	スポーツマーケティングの理論を体系的にまとめた。著者：原田宗彦、藤本淳也、松岡広高
(2) 「基礎から学ぶ体育・スポーツの科学」大修館書店	平成19年4月	体育・スポーツの理論を体系的にまとめるとともに、指導現場に則した理論を展開した。著者：大阪体育大学体育学部教員
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツマーケティング	共著	平成16年4月	大修館書店	◎原田宗彦編著、藤本淳也・松岡広高著	47頁～64頁、83頁～128頁
スポーツ白書	分担執筆	平成18年3月	S S F 笹川スポーツ財団	執筆者多数	96頁～98頁
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	分担執筆	平成19年4月	大修館書店	執筆者多数	
論文					
Jリーグチームのマネジメントに関する研究：プレスリリースを用いた事業分析	共著	平成16年4月	大阪体育大学紀要（第35巻）	◎永富慎也、藤本淳也、古屋孝生	149頁～156頁
大学運動部の広告価値評価に関する研究	共著	平成16年4月	大阪体育大学紀要（第35巻）	◎古屋孝生、藤本淳也 他4名	139頁～148頁
大阪体育大学のブランド認知とブランドイメージに関する研究－保健体育教諭の出身大学間比較分析－	単著	平成17年4月	大阪体育大学紀要（第36巻）		102頁～110頁

女性のスポーツ参与阻害要因に関する研究 Ⅰ－6歳以下の子供を持つ母親のスポーツ参加について－	共著	平成17年4月	大阪体育大学紀要（第36巻）	◎松永敬子、藤本淳也 他2名	71頁～83頁
女性のスポーツ参与阻害要因に関する研究 Ⅱ－12歳以下の子供を持つ母親のスポーツ観戦行動について－	共著	平成17年4月	大阪体育大学紀要（第36巻）	◎藤本淳也、松永敬子 他3名	84頁～94頁
プロスポーツチームのチームブランド連想に影響を及ぼす要因に関する研究－Jリーグチームの責任企業交代の影響に注目して－	共著	平成18年3月	大阪体育大学紀要（第37巻）	◎藤本淳也、井戸未知子	50頁～56頁
プロスポーツ・ファンの態度変容に関する研究－大阪近鉄バファローズ・ファンへの縦断的インタビュー調査－	単著	平成18年3月	大阪体育大学紀要（第37巻）		57頁～72頁
スポーツ・スポンサーシップ効果に関する研究－プロスポーツチーム・スポンサーのブランド認知に注目して－	単著	平成19年3月	大阪体育大学紀要（第38巻）		1頁～10頁
オリックス・バファローズのスタジアム観戦者の特性に関する研究－元大阪近鉄バファローズファンと元オリックス・ブルーウェーブファンに注目して－	共著	平成19年3月	大阪体育大学紀要（第38巻）	◎永田順也、藤本淳也、松岡宏高	44頁～51頁
プロ野球球団のエリアマーケティングに関する研究－スカイマークスタジアムと大阪ドームのオリックス・バファローズの試合観戦者比較から－	共著	平成19年3月	大阪体育大学紀要（第38巻）	◎石田慎也、藤本淳也、松岡宏高	52頁～60頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成13年8月 ～ 平成15年3月	JOC選手強化本部情報・戦略専門委員会企業とスポーツ特別プロジェクト委員
平成15年4月 ～ 平成16年3月	大阪府指導者活用システム検討会委員
平成16年4月 ～ 現在	大阪府広域スポーツセンターアドバイザー
平成17年4月 ～ 平成19年3月	日本体育・スポーツ経営学会理事
平成17年7月 ～ 現在	堺市スポーツ審議会委員
平成17年12月 ～ 現在	NPO法人障害者スポーツ支援センター（ASSC）監事
平成19年7月 ～ 現在	日本スポーツ産業学会運営委員

IV クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	アルティメット 部		2. 役職	監督	3. 部員数	65 人
4. 現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数：	4 回	延べ日数：	12 日		
6. クラブの競技力向上への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間		場 所	
	全日本学生選手権大会西日本予選		8月上旬		愛知県	
	全日本学生選手権大会本戦・決勝		8月下旬		静岡県・東京都	
	全日本選手権大会		10月上旬		東京都	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						
開催期間		大会名		成績		場 所
平成19年8月22日～15日		全日本学生アルティメット選手権大会オープンの部		準優勝		東京駒沢競技場
平成19年8月22日～16日		全日本学生アルティメット選手権大会レディースの部		優勝		東京駒沢競技場

(表24)

50	所属	体育学部	職名	准教授	氏名	古澤 光一	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)								
(1) 視聴覚教材による理解度の向上			平成15年～	毎回の授業で配布プリントにあわせたPPTによるプレゼンテーション				
(2) 「学生による授業評価」を実施			平成15年～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を活かした改善の実施				
(3) 「学生による企画立案から実施」による実務能力の向上			平成15年～	学生自身によるイベントの企画書作成から実施報告書の作成による実務能力の向上				
2. 作成した教科書、教材、参考書								
大阪体育大学テキスト「スポーツの科学」・フィットネス産業・民間スポーツクラブ・生涯スポーツ指導者養成担当			平成18年3月					
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								

4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		
著書							
大阪体育大学テキスト「スポーツの科学」・フィットネス産業・民間スポーツクラブ・生涯スポーツ指導者養成担当	共著	平成18年3月	大修館書店				
「スポーツ白書」2章 スポーツ施設の項執筆担当	共著	平成18年4月	笹川スポーツ財団				
クラブマネージャー養成印刷教材「スポーツクラブ経営の戦略」執筆担当	共著	平成18年9月	日本体育協会				
論文							
民間フィットネスクラブの地域スポーツ貢献	単著	平成15年	体育の科学、第53巻（第9号）：p 671-675				
フィットネスクラブ従業員の教育研修に関する研究	共著	平成17年3月	大阪体育大学紀要				
18th TAFISA World Congress 報告書	単著	平成16年12月	Trim Japan 2004 Winter				
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動							
期 間				内 容			
平成15年4月 ～				日本スポーツ産業学会 会員			
平成16年4月 ～				日本体育スポーツ産業学会 会員			
IV クラブ活動の指導業績							
1. 指導クラブ名	アルティメット 部			2. 役職	部長	3. 部員数	61 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない					
5. 合宿指導	年間合宿回数： 0 回			延べ日数： 0 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み		①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み		③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				

9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所
	全日本大学選手権	8月	静岡県富士川緑地、駒沢運動公園
	全日本アルティメット選手権大会	10月	茨城県ひたちなか市
	全日本大学選手権 新人戦	11月	静岡県富士川緑地公園

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開催期間	大会名	成績	場所
平成14年8月	全日本大学選手権男子	優勝	駒沢公園
平成16年8月	全日本大学選手権男子	優勝	駒沢公園
平成17年8月	全日本大学選手権男子	優勝	駒沢公園
平成17年10月	全日本アルティメット選手権大会 男子	3位	ひたちなか運動公園
平成14年8月	全日本大学選手権女子	3位	富士川緑地公園
平成15年8月	全日本大学選手権女子	3位	富士川緑地公園
平成19年8月	全日本大学選手権女子	優勝	駒沢公園
平成19年9月	全日本大学選手権男子	2位	駒沢公園

(表24)

51

所属	職名	氏名	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
体育学部	准教授	松永 敬子		有・無
I 教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)				
視聴覚教材の活用		平成15年4月～	すべての講義でパワーポイントによるパソコンプレゼンテーションを導入し、ビデオDVDなどの補助によって学生の理解度を深めている。	
グループワークによる授業展開		平成15年4月～	半期に2回程度、事前にフィールドワークを兼ねた課題を与え、その素材をもとに授業の中でグループワークを展開している。	
小レポートの作成		平成15年4月～	授業終了時に、授業内容の理解度を測る小レポートを毎時間作成させ、理解度を把握し、質問内容には次回の授業で回答し、理解度アップに努めている。	
2. 作成した教科書、教材、参考書				
スポーツ産業論入門 (杏林書院) 第3版		平成15年4月	スポーツ産業に関わる諸テーマをわかりやすく解説、スポーツ産業におけるシニアマーケットの章担当 原田宗彦編著	

<p>インターンシップ・プログラム実習マニュアル「生涯スポーツ指導論・同実習」「健康スポーツ指導論・同実習」改訂第5版</p> <p>DVD：チャレンジ・ザ・ゲームの指導と展開（大阪府レクリエーション協会）</p> <p>スポーツ産業論（杏林書院）第4版</p>	<p>平成17年4月</p> <p>平成18年3月</p> <p>平成19年5月</p>	<p>インターンシップ・プログラム実習マニュアルを作成 共著：土屋裕睦・松永敬子</p> <p>レクリエーションⅠの授業でも教材として活用している、チャレンジ・ザ・ゲームの指導法について詳しく解説したビデオの作成に当たり、指導を行った。</p> <p>スポーツ産業に関わる諸テーマをわかりやすく解説、スポーツ産業における地域活性化の章を担当 原田宗彦編著</p>
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p> <p>（財）日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議 平成16年度全国集会事例・研究発表 「地域と連携したレクリエーションイベント・マネジメントの実践授業事例」</p> <p>（財）日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議 平成18年度全国集会事例・研究発表 「地域と連携したスポーツ・レクリエーション活動のマネジメントの実践～体育系大学スポーツマネジメント専攻のゼミナール活動事例～」</p> <p>（財）日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議 平成19年度全国集会事例・研究発表 「授業を通じた地域貢献プログラムのマネジメントの実践～スポーツマネジメントを学ぶ学生の実践活動～」</p> <p>The 15th World Conference on Cooperative Education Internship Program for sporting professions: Cooperative education of Osaka University of Health and Sport Sciences</p>	<p>平成16年10月</p> <p>平成18年12月</p> <p>平成19年5月</p> <p>平成19年6月</p>	<p>日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議の平成16年度全国集会事例・研究発表として、松永ゼミ生の取り組みを「地域と連携したレクリエーションイベント・マネジメントの実践授業事例」と題し発表した。</p> <p>日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議の平成18年度全国集会事例・研究発表として、松永ゼミ生の取り組みを「授業を通じた地域貢献プログラムのマネジメントの実践～スポーツマネジメントを学ぶ学生の実践活動～」と題し発表した。</p> <p>日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会議の平成19年度全国集会事例・研究発表として、松永ゼミ生の取り組みを「地域貢献プログラムのマネジメントの実践活動事例」と題し発表した。</p> <p>The 15th World Conference on Cooperative Educationにて、Internship Program for sporting professions: Cooperative education of Osaka University of Health and Sport Sciencesと題し、本学生涯スポーツ学科のインターンシップの取り組みを発表した。</p>
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p> <p>財団法人日本体育協会指導者育成部マネジメント作成部会委員</p>	<p>平成16年4月</p>	<p>本学健康・スポーツマネジメント学科スポーツマネジメントコースに関わる（財）日本体育協会公認クラブマネージャー資格の体育系大学免除適応コースについて検討を行い、テキスト作成にも参画した。本学においても制度初年度の平成18年度からアシスタントマネージャーの受講免除適応コースを導入した。</p>
<p>（財）日本体育協会公認アシスタントマネージャー養成テキスト</p> <p>総合型地域スポーツクラブマネージャー養成講習会テキスト改訂版</p>	<p>平成18年3月</p> <p>平成15年8月</p>	<p>（財）日本体育協会公認クラブマネージャー資格の基礎となる、文部科学省スポーツ・青少年局生涯スポーツ課作成のテキストにも執筆した。</p>

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
スポーツ産業論入門第3版	共著	平成15年4月	杏林書院	◎原田宗彦編著 松永敬子他	274頁-289頁

国民福祉辞典	共著	平成15年12月	金芳堂	◎硯川真旬 監修 松永敬子他	188頁
テキスト総合型地域スポーツクラブ 増補版	共著	平成16年 5月	大修館書店	◎日本体育・スポーツ経営学会監修、松永敬子他	125頁-133頁
スポーツ白書～スポーツの新たな価値の発見～	共著	平成18年 3月	SSF笹川スポーツ財団	◎SSF笹川スポーツ財団 松永敬子他	70頁-72頁
最新スポーツ科学事典	共著	平成18年 9月	平凡社	◎（社）日本体育体育学会監修 松永敬子他	593頁-596頁
国民福祉辞典 第2版	共著	平成18年12月	金芳堂	◎硯川真旬 監修 松永敬子他	
スポーツの百科事典	共著	平成19年1月	丸善	◎田口貞善編集長 松永敬子他	427頁-428頁
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年 4月	大修館書店	◎大阪体育大学体育学部編 松永敬子他	94頁-97頁, 114頁-117頁, 161頁-162頁
スポーツ産業論 第4版	共著	平成19年 5月	杏林書院	◎原田宗彦編著松永敬子他	266頁-276頁
論文					
総合型地域スポーツクラブ育成をめぐる受益者負担の問題：会費設定における金額の意味解釈	共著	平成15年12月	徳島大学総合科学部人間科学研究	◎長積 仁 松永敬子 富山浩三	11頁～22頁
地域スポーツ振興を規定する政策の一貫性と行政組織の遂行力の検討～総合型地域スポーツクラブ育成をめぐる方針と支援体制における自治体間格差～	共著	平成17年 2月	徳島大学総合科学部人間科学研究	◎長積 仁、松永敬子、富山浩三、佐藤充宏	11頁～23頁
女性のスポーツ参与阻害要因に関する研究Ⅰ－6歳以下の子どもを持つ母親のスポーツ参加について－	共著	平成17年 3月	大阪体育大学紀要第36巻	◎松永敬子、藤本淳也、松岡宏高、小笠原悦子	71頁～83頁
女性のスポーツ参与阻害要因に関する研究Ⅱ－12歳以下の子どもを持つ母親のスポーツ観戦者行動について	共著	平成17年 3月	大阪体育大学紀要第36巻	◎藤本淳也、松永敬子、松岡宏高、小笠原悦子	84頁～94頁
総合型地域スポーツクラブの認知と公共性を高めるための経営課題 ～会員と非会員の比較検討から導き出したクラブ発展の鍵～	単著	平成17年 3月	大阪体育大学紀要第36巻	◎松永敬子	111頁～120頁
全国スポーツ・レクリエーション祭の開催地住民の実態に関する研究～スポレク香川2003の事例～	単著	平成17年 3月	Leisure&Recreation 『自由時間研究』（財）日本レクリエーション協会 余暇生活開発・レクリエーション研究所	◎松永敬子	3頁～12頁
Jリーグに所属するクラブが進めるホームタウン推進事業のプログラム評価Ⅰ～ヴィッセル神戸サッカースクールの保護者の満足度に注目して～	共著	平成18年 3月	大阪体育大学紀要第37巻	◎井澤悠樹、松永敬子、永吉宏英、長積仁	73頁～78頁

Jリーグに所属するクラブが進めるホームタウン推進事業のプログラム評価Ⅱ～ヴィッセル神戸サッカースクールの新規生徒と継続生徒の比較～	共著	平成18年3月	大阪体育大学紀要第37巻	◎松永敬子、井澤悠樹、永吉宏英、長積仁	84頁～95頁
地域のスポーツボランティア参加者の特性と動機に関する研究	共著	平成19年3月	Leisure&Recreation 『自由時間研究』(財)日本レクリエーション協会 余暇生活開発・レクリエーション研究所	◎松永敬子、松尾尚美	46頁～51頁
Jリーグのホームタウン推進事業の参加者特性と地域への効果に関する一研究～ヴィッセル神戸サッカースクール事業のスクール生に注目して～	共著	平成19年3月	Leisure&Recreation 『自由時間研究』(財)日本レクリエーション協会 余暇生活開発・レクリエーション研究所	◎松永敬子、鈴木祐志	84頁～93頁
Jリーグに所属するクラブのホームタウン推進事業における満足度と事業戦略に関する研究～ヴィッセル神戸サッカースクール事業における保護者の満足度に注目して～	共著	平成19年3月	大阪体育大学紀要第38巻	◎鈴木祐志、松永敬子、長積仁	80頁～94頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

Ⅳ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	女子サッカー部	2. 役職	コーチ	3. 部員数	33人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：2回	延べ日数：7日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所		
	全国大学女子サッカー大会	平成19年10月～平成20年1月	神戸・東京など		
	全日本女子サッカー選手権大会	平成19年10月～12月	大阪・東京など		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					

(表24)

52

所属	体育学部	職名	講師	氏名	菅生 貴之	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
パワーポイントによる資料の作成と配布							
演習における学生プレゼンテーションの実施							

2. 作成した教科書、教材、参考書 特になし 配布資料のみ					
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
臨床スポーツ医学臨時増刊号 スポーツ医学測定ハンドブック	共著	平成16年12月	文光堂		
スポーツメンタルトレーニング教本 改訂増補版	共著	平成17年4月	大修館書店		
論文					
重感暗示呈示中の受動的注意集中および積極的イメージ想起による自律神経機能変化傾向の比較	共著	平成16年5月	催眠学研究 第48巻1号	◎菅生貴之、立谷泰久、三村 覚、長田一臣、楠本恭久	10-19
女子柔道選手のコンディショニング評価に関する研究 —Head-up Tilt試験の有効性の基礎的検討—	共著	平成17年8月	桜文論叢 第63巻	◎田邊陽子、加藤史夫、菅生貴之	135-145
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成8年4月 ~		日本体育学会会員(現在に至る)			
平成9年4月 ~		日本スポーツ心理学会会員(現在に至る) (資格認定委員 平成17年4月~)			
平成15年4月 ~		日本大学ゴルフ指導者研究会会員(現在に至る) (理事)			
平成15年4月 ~		日本スポーツ精神医学会会員(現在に至る) (評議員)			
平成18年9月 ~		全日本スキー連盟 競技本部 情報・医・科学委員			
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名		部	2. 役職	3. 部員数	人
4. 現場指導の頻度		① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			

7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
8. 部員の就職指導への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない		
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所	
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)				

(表24)

53

所属	体育学部	職名	講師	氏名	曾根 純也	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) ①演習 I				平成19年～	コーチング技術の教材を毎時間読ませ、理解力向上と文章作成能力向上のために講義で解説している。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ①教育における国際協力について (シリアでの活動を中心に)				平成18年	(財)日本サッカー協会とJICA海外青年協力隊の共同派遣事業ではじまった「シリアサッカープロジェクト」を、その活動の骨子から実績について発表し、今後の教育活動にJICAと大学とが事業提携を結ぶ構想を提案するなどの展望を明らかにした。		
4. その他教育活動上特記すべき事項							
1 O U H S スポーツキャンプ				平成19年～	少年サッカーの実技指導		
2 大阪体育大学サッカーフェスティバル				平成19年～	部員による小・中・高校の各部門別大会の企画・運営・審判の指導		
II 研究活動							
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書							
JFA NEWS	共著	平成18年8月	日刊スポーツ出版社	日本サッカー協会	43頁		
論文							

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動		
期 間	内 容	
平成15年4月 ~ 平成17年3月	関西・大阪クラブユースサッカー連盟 理事	
平成19年4月 ~ 現在	関西学生サッカー連盟 技術委員	

IV クラブ活動の指導業績			
1. 指導クラブ名	サッカー（男・女）部	2. 役職	部長・総監督
3. 部員数	200 人		
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない	
5. 合宿指導	年間合宿回数： 3 回	延べ日数： 20 日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない	
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所
	関西春季リーグ・関西選手権・新人戦・関西秋季リーグ	4月～11月	関西各地
	総理大臣杯・全日本大学サッカートーナメント	7月	関西各地
	大学選手権 (全日本選手権)	12～1月 9～1月	関西各地・東京 (日本各地)
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			
開催期間	大会名	成績	場 所
男子部 平成19年	関西学生選手権	優勝 (総理大臣杯出場)	関西
平成19年	関西学生春季リーグ	準優勝	関西
平成19年	関西学生新人戦	3位	関西
女子部 平成19年	関西学生女子春季リーグ	優勝	関西

(表24)

5 4	所属 体育学部	職名 講師	氏名 高本 恵美	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)					
2. 作成した教科書、教材、参考書					

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) OUHSスポーツキャンプ2006における実技指導	平成18年3月	熊取周辺地域の中学生への陸上競技(跳躍)指導			
4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
新・中学校保健体育 朱書き編	共著	平成18年	学習研究社	森昭三, 他多数	
中学保健体育の研究 授業発展編	共著	平成18年	学習研究社	尾縣貢, 加藤健一, 嵯峨寿, 高本恵美, 藤堂良明, 中川昭, 長谷川聖修, 眞鍋芳 明, 渡辺良夫	
中学保健体育の研究 教科書・授業解説編	共著	平成18年	学習研究社	尾縣貢, 加藤健一, 嵯峨寿, 高本恵美, 藤堂良明, 中川昭, 長谷川聖修, 眞鍋芳 明, 渡辺良夫	
デジタル版新しい小学校体育授業の展開 理論編2	共著	平成18年5月	株式会社ニチブン	小学校体育科教育実践講座	106頁~110頁
最新スポーツ科学辞典	共著	平成18年8月	日本体育学会		
競技力向上のトレーニング戦略ピリオダイ ゼーションの理論と実際	共著	平成18年7月	株式会社大修館書店		240頁~159, 276~288頁
USATrack&Fieldコーチングマニュアル	共著	平成16年3月	株式会社陸上競技社		232頁~241頁
基礎から学ぶ体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	株式会社大修館書店	大阪体育大学体育学部	148頁~149頁, 182頁
論文					
小学校児童における走, 跳および投動作の 発達: 全学年を対象として	共著	平成15年5月	スポーツ教育学研究(第23巻)	高本恵美, 出井雄二, 尾縣貢	1頁~15頁
400m走中の下肢関節トルク持続能力と下 肢の筋持久性との関係.	共著	平成15年8月	体力科学(第52巻).	尾縣貢, 眞鍋芳明, 高本恵美, 木越清信	455頁~464頁
小学校児童の模倣能力と走・跳・投能力お よび動作との関係	共著	平成15年9月	いばらき健康・スポーツ科学(21)	高本恵美, 出井雄二, 尾縣貢	11頁-21頁
上肢の無氣的作業能が400m走タイムおよび 走速度遞減に及ぼす影響	共著	平成15年10月	体育学研究(第48巻 号)	尾縣貢, 高本恵美, 伊藤新太郎	473頁~583頁
児童の投運動学習効果に影響を及ぼす要因	共著	平成16年7月	体育学研究(第49巻4号)	高本恵美, 出井雄二, 尾縣貢	321頁~333頁
国内一流女子スプリンターにおけるトレ ーニング経過にともなう形態的・体力的要因 と疾走動作の変化	共著	平成16年7月	体育学研究(第49巻4号)	新井宏昌, 渡邊信晃, 高本恵美, 眞鍋芳 明, 前村公彦, 岩井浩一, 宮下憲, 尾縣 貢	335頁~346頁
国内一流女子七種競技者の形態的・体力的 特徴に関する事例的研究	共著	平成17年3月	大阪体育大学紀要(第36巻)	高本恵美, 尾縣貢	95頁~101頁

児童における投運動学習効果の男女差	共著	平成17年3月	陸上競技研究 (第60号)	高本恵美, 出井雄二, 尾縣貢	44頁～50頁
筋力トレーニングと持久性トレーニングの組み合わせによって生じる生体反応の差異	共著	平成17年6月	陸上競技研究 (第61号)	尾縣貢, 征矢英昭, 楯岡卓, 福田聡子, 高本恵美, 真鍋芳明	22頁～28頁
Relationship between physical fitness factors and the ability to maintain joint lower limb torques during the latter half of a 400 meter running event	共著	平成17年6月	Journal of Human Movement Studies 48	M. Ogata, Y. Manabe, M. Takamoto	379頁～391頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成18年4月 ～ 平成20年3月	大阪体育学会理事
平成19年4月 ～ 平成20年3月	日本陸上競技学会学会大会実行委員

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	陸上競技部	2. 役職	コーチ	3. 部員数	250人
4. 現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数:	0	回	延べ日数:	0
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所	
	日本学生対校陸上競技選手権大会		6月8日～10日	国立競技場	
	関西学生対校陸上競技選手権大会		4月29日・5月14日・5月18日～20日	鴻ノ池陸上競技場	
	日本陸上競技選手権大会		6月29日～7月1日	長居競技場	

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開 催 期 間	大 会 名	成 績	場 所
平成19年4月29日・5月14日・5月18日～20日	関西学生対校陸上競技選手権大会	男女総合優勝	鴻ノ池陸上競技場
		男子走幅跳優勝	
		男子走高跳4位(2名)	
		男子三段跳4位	

(表24)

55

所属	体育学部	職名	講師	氏名	堤 裕之	大学院における研究指導担当資格の有無	有・無
----	------	----	----	----	------	--------------------	-----

I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）					
(1) 「教養演習Ⅰ」での作文添削		平成17年度前期～平成17年度後期	学生の文章力の向上を狙い、隔週の頻度で作文の添削指導を行った。各個人に対してなるべく詳しいコメントを付けるよう配慮した。		
(2) 「スポーツ情報処理実習」で狙う目標の提示		平成17年度前期～平成17年度後期	「実習の狙いがどこにあるのか」について、毎回の実習で解説した。最後にワープロ検定4級の試験問題に取り組みせ、学生自身が実習の効果を認識できるようにした。		
(3) 「教養演習Ⅱ」での発表訓練		平成17年度前期～平成17年度後期	学生自身に選ばせたテーマについて、実際に発表を行わせた。発表の仕方・内容についてコメントを出し、そのコメントを取り入れた形の発表を同じテーマで行わせることで、学習効果を定着させるようにした。		
(4) 「自然科学基礎Ⅰ」での教育内容の整理		平成18年度前期～	自然科学基礎Ⅰを、体育大学の専門教育を受ける為の最低限必要な知識を確保する場として明確に位置づけ、学生が大学レベルの授業に円滑に移行できるよう授業内容を調整した。		
(5) 「情報処理実習」における教育内容の整理		平成18年度前期～	単なるパソコンの使い方教室で終わるのではなく、ITの本質やネットワーク化による危険を学生に認識させる形での実習を目指した。		
(6) 「自然科学基礎Ⅱ」の教育内容の整理		平成18年度前期～	自然科学基礎Ⅱの教育内容を整理し、学生の将来の就職に役立つ内容を基礎にすえる形とし、学生の興味を持続させるよう工夫した。		
2. 作成した教科書、教材、参考書					
大阪体育大学・教養基礎テキスト（暫定第1版）		平成19年度前期～	「第3部 統計学の基礎」の執筆を全面的に担当した（pp77-113）。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
論文					
Modular differential equations of second order with regular singular points at elliptic points for $SL_2(Z)$	単著	2004	Proceeding of American Mathematical Society Volume 134, Number 4		931項～941項
Modular differential equations of second order with regular singular points for $SL_2(Z)$ (Without proof version)	単著	2004	Proceeding of Japan-Korea Joint Seminar on Number Theory, October 2006		187項～192項
The Atkin orthogonal polynomials for congruence subgroups of low levels	単著	2007	The Ramanujan Journal		to appear
幾つかの低いレベルの合同群に関する判別式関数 $\Delta(\tau)$ のある類似とその性質	単著	2007	大阪体育大学紀要 第38巻(2007)		11項～23項
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					

IV クラブ活動の指導業績						
1. 指導クラブ名	フィールドホッケー 部		2. 役職	部長	3. 部員数	41 人
4. 現場指導の頻度	⑤	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 6 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	④	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大会名		期 間	場 所		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)						
開催期間		大会名	成績	場 所		
平成18年10月13日～15日		関西学生ホッケー秋季リーグ	3位	奈良県親里ホッケー場		

(表24)

56	所属	体育学部	職名	講師	氏名	手塚 洋介	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績			年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)								
(1) 講義授業における教材の呈示方法			平成19年度前期～	視覚教材 (パワーポイント) 及び配布資料 (講義ノート, 図表資料) を用いて授業を実施し, 講義内容について自ら考える時間を持てるよう配慮した。				
(2) 講義授業の前後に小レポートの作成			平成19年度前期～	授業の最初に当日扱う内容に関連したテーマを与え, 最後には同内容に関する発展テーマをそれぞれ呈示しまとめさせることで, 単なる知識の詰め込みだけでなく当該問題に対する学生本人の考えを構築できるよう試みた。				
(3) 演習授業における発表及び質疑応答				事前の準備, 発表, 質疑応答を繰り返すことで, 自らの考えを洗練していく過程を体験させた。				
2. 作成した教科書, 教材, 参考書								
(1) 視覚教材, 資料の作成と配布			平成19年度前期～	視覚教材 (パワーポイント), 配布資料 (講義ノート, 図表資料) の作成, 配布。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表, 講演等								
4. その他教育活動上特記すべき事項								
II 研究活動								
著書・論文等の 名 称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所, 発表雑誌 (及び巻・号数) 等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)		該当頁数	
著書								

ストレススケールガイドブック	共著	平成16年2月	実務教育出版	財団法人パブリックヘルスリサーチセンター（編）	54頁～57頁
心理学概論	共著	平成18年6月	ナカニシヤ出版	山内弘継・橋本幸（監）	198頁～199頁
論文					
中学生のストレス反応とストレスラーとしての部活動との関係	共著	平成15年12月	健康心理学研究（第16巻）	手塚洋介・上地広昭・児玉昌久	77頁～85頁
認知的評価のネガティブ感情喚起に及ぼす影響の検討—分泌型免疫グロブリンAを指標として	共著	平成16年3月	ストレス科学研究（第19巻）	手塚洋介・城佳子・長野祐一郎・鈴木直人・児玉昌久	50頁～57頁
生活習慣病リスクとストレス反応の関連について～総合健康診断（人間ドック）受診者の疾病経験とストレス：第二次分析結果～	共著	平成16年3月	ストレス科学研究（第19巻）	久賀佐和子・大田由己子・馬淵原吾・矢川裕一・小幡裕・平田麗・手塚洋介・児玉昌久	25頁～32頁
認知的評価に関する精神生理学的研究—最近40年の関連研究の動向—	共著	平成17年3月	ストレス科学研究（第20巻）	手塚洋介・鈴木直人・児玉昌久	49頁～56頁
認知的評価がネガティブ感情体験および心臓血管反応の持続に及ぼす影響	共著	平成19年4月	心理学研究（第78巻）	手塚洋介・敦賀麻理子・村瀬裕子・鈴木直人	42頁～50頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成12年1月1月 ～	日本心理学会 会員
平成13年4月 ～	日本健康心理学会 会員
平成14年5月 ～	関西心理学会 会員
平成15年1月 ～	日本生理心理学会 会員
平成15年1月 ～	日本感情心理学会 会員

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	ライフセービング 部	2. 役職	副部長	3. 部員数	33 人
4. 現場指導の頻度	④	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数： 1 回	延べ日数： 3 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	③	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期 間	場 所		
	全日本種目別ライフセービング選手権大会				

	全日本学生ライフセービング選手権大会		
	全日本ライフセービング選手権大会		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)			

(表24)

5.7	所属	体育学部	職名	講師	氏名	中井 俊行	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績					年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)								
授業評価						毎年度学生による授業評価を行っている。		
2. 作成した教科書、教材、参考書					平成17年	種目別に特異的なトレーニング方法を持ち寄りまとめたものであり、そのラグビーの部分を担当した。		
スポーツ種目別ワンポイントトレーニング					平成18年3月	本学教員による教科書で、測定評価および子供の発育とコーチングの二カ所を担当した。		
基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学								
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
4. その他教育活動上特記すべき事項								
II 研究活動								
著書・論文等の 名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数		
著書								
スポーツ種目別ワンポイントトレーニング		共著	平成17年	大阪体育大学プロジェクト研究		52頁～54頁		
基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学		共著	平成18年3月	大阪体育大学		187頁～188頁		
基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学		共著	平成18年3月	大阪体育大学		212頁～215頁		

論文				
大阪体育大学学生の体力を測るー平成15年度体力測定の学年別・運動クラブ別集計結果ー	共著	平成16年3月	大阪体育大学紀要35巻	173頁～179頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容		
平成元年 ～	現在に至る	日本体育学会員	
平成7年4月 ～	現在に至る	関西ラグビーフットボール協会コーチ委員	
平成15年4月 ～	現在に至る	関西ラグビーフットボール協会レフリーコーチ	

Ⅳ クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	ラグビー 部		2. 役職	コーチ	3. 部員数	88 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない				
5. 合宿指導	年間合宿回数： 2 回		延べ日数： 17 日			
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない				
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名		期 間		場 所	
	関西大学ラグビーAリーグ		10月～12月		花園ラグビー場他	
	全国大学ラグビー選手権大会		12月～1月		国立競技場他	

10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)

開 催 期 間	大 会 名	成 績	場 所
平成18年10月～12月	関西大学ラグビーAリーグ	優勝	花園ラグビー場他
平成18年12月～平成19年1月	全国大学ラグビー選手権大会	ベスト4	国立競技場他

(表24)

58

所属	体育学部	職名	助教	氏名	田原 宏晃	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							

(1)マット、とび箱、鉄棒の技の習得	平成15年4月～	教科体育で行われている器械運動（マット、とび箱、鉄棒）の技を系統性に沿って授業を展開
(2)「学生による授業評価」を実施	平成16年～	F D委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて改善を行っている
2. 作成した教科書、教材、参考書 スポーツ種目別ワンポイントトレーニング	平成17年	各スポーツ種目を指導している大阪体育大学の教員が、種目に特異的なトレーニング方法を持ち寄りまとめたもの。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 教育実習・教員採用試験前、個別に対応		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
基礎から学ぶ 体育・スポーツの科学	共著	平成19年4月	大修館書店	大阪体育大学体育学部編	150頁～151頁
論文					
鉄棒の後方宙返りおり系の指導について－ 「あふり」の変化に着目して－	単著	平成17年3月	体操競技・器械運動研究会誌13 2005		41頁～55頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成15年4月 ～	体操競技男子1種審判資格
平成18年 ～	2006～2008年 体操競技男子A種審判資格
毎年 ～	審判員活動（関西、西日本、大阪府など）
平成19年 ～	体操競技 大阪府成年男子監督

IV クラブ活動の指導業績

1. 指導クラブ名	体操競技 部	2. 役職	H15～コーチ H19～ 監督	3. 部員数	40～50 人
4. 現場指導の頻度	①	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	0 回	延べ日数：	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み	①	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	②	①積極的に取組んでいる ②ある程度取組んでいる ③あまり取組んでいない ④全く取組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大 会 名	期 間	場 所		

関西学生体操選手権大会 体操競技の部	4月	関西（毎年開催場所が変わる）
西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	5月	西日本（毎年開催場所が変わる）
全日本学生体操競技選手権大会	8月～8月	全国（毎年開催場所が変わる）
関西学生体操新人選手権大会 体操競技の部	10月～11月	関西（毎年開催場所が変わる）

1 0. クラブ戦績（全日本選手権 8 位以上、関西選手権 4 位以上、関西 1 部リーグ 3 位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。）

開催期間	大会名	成績	場所
2003. 04. 19-20	第45回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体2位・個人優勝 女子；団体4位	姫路市立中央体育館（兵庫）
2003. 05. 24-25	第53回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体7位 女子；団体5位	北九州立総合体育館（福岡）
2003. 08. 06-08	第57回全日本学生体操競技選手権大会	男子；2部 団体3位・個人5位、女子；2部 団体6位	酒田市国体記念体育館（山形）
2004. 04. 17-18	第46回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝・個人優勝 女子；団体・	なみはやドーム（大阪）
2004. 05. 28-30	第54回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体6位 女子；団体3位・個人2位	小牧市総合運動公園パークアリーナ小牧（愛知）
2004. 09. 01-04	第58回全日本学生体操競技選手権大会	男子；2部 団体4位・個人2位 女子；2部 団体2位・個人7位	町田市立総合体育館（東京）
2004. 04. 15-17	2004環太平洋体操競技選手権大会	女子；個人11位 日本団体；7位	アメリカ・ハワイ
2004. 05. 02-03	第43回NHK杯兼第28回オリンピック・アテネ大会体操競技日本代表決定競技会	女子；個人12位	代々木第一体育館（東京）
2004. 11. 12-14	第58回全日本体操競技選手権大会	女子；個人18位、平均台4位	代々木第一体育館（東京）
2005. 04. 15-17	第47回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体2位・個人2位 女子；団体優勝・個人2位	舞洲アリーナ（大阪）
2005. 05. 20-21	第55回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体6位 女子；団体3位・個人優勝	広島県立総合体育館
2005. 09. 01-03	第59回全日本学生体操競技選手権大会	男子；2部 団体5位、女子；2部 団体3位・個人3位	小牧市総合運動公園パークアリーナ小牧（愛知）
2005. 07. 08-09	第44回NHK杯兼第38回世界体操競技選手権大会日本代表決定競技会兼第4回東アジア競技大会日本代表決定競技会	女子；個人15位	サンドーム福井（福井）
2005. 10. 14-16	第59回全日本体操競技選手権大会	女子；個人12位、平均台4位	尼崎市記念総合公園体育館（兵庫）
2006. 04. 14-15	第48回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝・個人優勝 女子；団体2位・個人優勝	桃太郎アリーナ（岡山）
2006. 05. 16-21	第56回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体5位 女子；団体3位・個人優勝	熊本県立総合体育館
2006. 08. 09-11	第60回全日本学生体操競技選手権大会	男子；2部 団体3位 女子；2部 団体優勝（1部昇格）・個人2位	町田市立総合体育館（東京）

2006. 07. 15-16	第45回NHK杯兼第39回世界体操競技選手権大会日本代表決定競技会兼第15回アジア競技大会日本代表決定競技会	女子；個人10位	幕張メッセ(千葉)
2006. 11. 10-13	第60回全日本体操競技選手権大会	女子；個人7位、跳馬3位、平均台5位	代々木第一体育館(東京)
2007. 04. 13-14	第49回 関西学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体優勝・個人優勝 女子 団体；優勝・個人優勝	桃太郎アリーナ(岡山)
2007. 05. 11-13	第57回西日本学生体操選手権大会 体操競技の部	男子；団体5位・個人優勝 女子；団体2位・個人優勝	三重県営サンアリーナ
2007. 09. 15-17	第61回全日本学生体操競技選手権大会	男子；2部 団体2位(1部昇格) 女子；1部 団体6位・個人優勝	北九州立総合体育館(福岡)
2007. 03. 31-04. 01	ウクライナ国際(ザ・ハロウカップ) 団体・個人(女子)	女子；個人優勝 日本団体；3位	ウクライナ・キエフ
2007. 06. 09-10	第24回ユニバーシアード大会日本代表決定競技会兼第46回NHK杯・第40回世界体操競技選手権大会日本代表決定競技会(女子)	女子；個人3位	千葉ポートアリーナ
2007. 09. 01-09	第40回世界体操競技選手権大会	女子；個人36位 日本団体；12位	ドイツ・シュツットガルト

所属	健康福祉学部	職名	学部長・教授	氏名	大塚 保信	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1) 理解度、習熟度を高めるための講義ノートの工夫				成15～19年	授業内容を、体系的且つ詳細にかなりの分量を板書し、毎回の講義内容の骨子を把握させ、その後教科書でbrush upし理解度、習熟度の効果的な向上を目指している。適宜ノートの添削に努める。		
(2) 「学生による授業評価」の実施				平成15～19年	FD委員会が企画する授業評価を実施し、授業内容に反映している。		
(3) 外部講師の等の招聘				平成15～19年	社会福祉の認識、理解を深めるため、現場の専門職及び関係者を授業のテーマに沿って適宜招聘した。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
(1) 講義レジュメ				平成15～19年	各種の研修会、講演会等で使用したレジュメのうち、加筆して実践現場の現状と課題の理解を深めるレジュメに修正し適宜配布した。		
(2) 社会福祉概論（教科書）				平成18年10月	社会福祉の歴史、理論、法制等に関する基礎知識から現状と課題、さらに最新の制度改革を学ばせる概論書		
(3) 介護予防実践論（参考書）				平成18年12月	介護保険制度の改正で重点課題となった介護予防の理念、視点、介護予防の知識、さらに介護予防の実を学ぶうえでの副読本（参考書）として作成した。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
(1) 日本ソーシャルワーカー協会主催のシンポジウム				平成16年1月10日 平成18年9月2日	「ソーシャルワーカーの専門性と役割」及び「障害者自立支援法の現状と課題」について、専門職を対象としたシンポジウムでコーディネーターとして指導・啓発した。		
(2) 和歌山県社会福祉協議会主催による講習会				平成15～17年			
4. その他教育活動上特記すべき事項							
(1) 厚生労働省委託事業の「介護教員講習会」での研修指導				平成15～19年			
(2) 岸和田市ボランティアセンター運営委員長				平成15～19年			
(3) 泉佐野市次世代育成計画策定審議会会長				平成15～19年			
II 研究活動							
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数		

著書					
社会福祉概論	共著	平成18年10月	溪草書房	小田兼三他	97頁～111頁
介護予防実践論	共著	平成18年12月	中央法規出版	大塚保信他	99頁～109頁
論文					
介護福祉士教育の課題と展望～高等教育の将来によせて	単著	平成17年3月	大阪体育大学短期大学部研究紀要		1頁～8頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容	
平成15年4月1日 ～	現在	日本ソーシャルワーカー協会常任理事及び副会長
平成15年4月1日 ～	現在	大阪ソーシャルワーカー協会会長
平成15年4月1日 ～	平成17年3月31日	関西社会福祉学会理事（事務局長）
平成15年4月1日 ～	現在	岸和田市・貝塚市・泉佐野市介護保険事業運営協議会会長
平成17年4月1日 ～	現在	社団法人日本社会福祉士養成校協会近畿ブロック運営委員長

(表24)

60

所属	健康福祉学部	職名	教授	氏名	浅野 紀和	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
Ⅰ 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1) 学習者の認知特性を考慮した指導法の確立（英語I）				平成15年4月～平成19年3月	前期は学習動機と興味を高めるため、後期は学習効果の向上を目指した新しい指導法の導入を試み、年毎に改善を加えた。		
(2) 福祉に関連する英語教材の精選と使用（英語III）				平成16年4月～平成19年3月	環境・医療・福祉など関する映像・言語教材を使用して専門領域との接点を求めた。		
(3) 多面的な授業効果の測定（英語I及III）				平成15年4月～平成19年3月	(1)の指導内容に対応する言語・非言語的なテストを使用し、また、学生による授業評価も含めて学習効果を様々な角度から測定した。		
(4) 再履修者への個別指導（再履修英語I及II）				平成16年4月～平成19年3月	英語学習の不得手な学生に対して、個別指導を通年にわたり行った。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
英語I及III用スクリプト作成と付随する視聴覚教材の作成				平成15年4月～平成19年3月	各年毎に、ビデオテープから音声テープとスクリプトを作成し、さらに関連する視覚教具と教材を作成して授業に使用した。		

3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 第26回大学教育学会発表 英語学習困難にみられる認知的要因	平成16年6月	異なった刺激態様からなる数種の英語テストの成績と不安感との関係を検証した。
第27回大学教育学会発表 学習障害にみられる認知機能の個人内格差	平成17年6月	LD診断のための現行の差異モデルの矛盾点を克服するために、神経心理学の知見と心理測定学に基づいた検査法について発表した。
健康福祉学部、国際・地域交流委員会主催による「中学校英語教員のためのワークショップ・セミナー」を開催	平成18年3月	平成19年度から始まる特別支援教育の一環として、英語学習困難に対応する指導法研修会を主宰した。
2006年度大学教育学会関東支部研究会 大学生に見られる言語・認知機能と学習困難/学習障害(LD)との関係	平成18年9月	現在日本でのLDの診断基準とは異なる、米国LD学会の「問題学習の解決能力」モデルに沿って、新たな学習困難・LDの検査法を具体的な例で提示した。
4. その他教育活動上特記すべき事項 TOEIC BridgeとTOEICの実施	平成15年4月～ 平成19年3月	左記テストを年度初めと年度末に実施して、指導法の成果の検証を行い、授業改善に利用した。

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
Factors Underlining Foreign Language Learning Difficulties	単著	平成16年3月	大阪体育大学健康福祉学部 紀要創刊号		23頁～47頁
An Integrative Approach to Testing and Teaching to Enhance Verbal and Cognitive Functions for a Child with Down Syndrome*		平成19年3月	大阪体育大学健康福祉学部 紀要第4号	浅野紀和、浅野幸子	
その他					
Assessment of Cognitive Abilities of A Child With Down Syndrome Aiming at Cognitive Malleability		平成18年3月	Paper presented at the International Summit for the Alliance on Social Inclusion, Montreal, Canada, 2006		

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成15年4月 ～ 現在	大学教育学会会員
平成16年4月 ～ 現在	全国語学教育学会会員
2005年 ～ 現在	The Learning Disabilities Association of America会員
2006年 ～ 現在	American Association of Mental Retardation会員

(表24)

6 1

所属	健康福祉学部	職名	教授	氏名	天羽 薫	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1) 専門演習1・2、講義内でのレポート作成指導				平成15年4月～	精神障害への理解を深めるために、年間数回の施設見学や自助グループへの参加などの機会を設けその際事前・事後にレポートを提出させ、文章の添削行っている。		
(2) 視聴覚教材活用により理解度の向上を計る。				平成15年4月～	障害の症状を具体的に理解するために、ビデオ、映画、DVD, などを、教材として用いている。		
(3) 精神障害者を講師として招くことにより、さらに障害への理解を深める。				平成15年4月～	実際に障害を持つ当事者に授業の中で体験談を語っていただき、学生に質疑応答させる。その度に必ずレポートを提出させて学生の理解度を確認している。授業の終了時にミニテストを行い、学生の理解度を確認すると同時に、指導方法の改善にも役立っている。ZD委員会による授業評価を30人以上のクラスに関して受け、学生の意見を取り入れて、改善を行っている。		
(4) ミニテストによる授業評価の実施							
(5) 学生による授業評価を実施（医学一般、精神保健学、精神医学）							
2. 作成した教科書、教材、参考書							
「依存症の理解一病から回復へ新生へ」アカデミア出版会				平成15年4月15日	初心者が依存症を理解するためにまとめられた参考図書で専門用語も解説されている。著者：天羽 薫、滝口直子ほか8名		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
(1) freedom主催、大阪DARC、朝日新聞厚生文化事業団共催講演会「フリーダムHow toセミナー」				平成15年9月21日	大阪npoプラザ 「摂食障害と薬物・アルコール依存ー精神科医の立場からー」自助グループの意義について、教育的講演を行った。		
(2) 平成15年度健康相談活動支援体制整備事業「専門医派遣制度」教員研修会での講演				平成15年10月	大阪府柴島高等学校 対象は、担当の教職員と養護教諭で公立高校における処遇困難な生徒について専門医の立場から事例を元に講演を行った。		
(3) 関西アルコール関連問題学会京都大会シンポジウム				平成15年12月	ばるるプラザ京都 「女性のアルコール関連障害と摂食障害の合併例について」で、精神科医の立場から調査報告を行い発表した。		
(4) 平成15年度健康相談活動支援体制整備事業「専門医派遣制度」PTA専門委員会共催講演会				平成16年1月	大阪府柴島高等学校 「生徒の心と身体の健康を考えるー思春期の子供と向き合うにはー」で思春期の子供に向き合うための心得と子育てのスキルアップにつながる目的で講演を行った。		
(5) 平成15年度健康相談活動支援体制整備事業「専門医派遣制度」健康相談活動公開教職員研修会				平成16年2月	大阪府柴島高等学校 「専門職員向け精神科医療の実際」で対象は近隣を含む公立高校の健康相談担当者であり共通理解の下で交流を深める目的で講演を行った。		
(6) 平成15年度全国大学保健管理協会近畿地方京滋地区保健師看護師研修会				平成16年2月	華頂短期大学 「耽る若者たちー摂食障害と依存症について」で、大学の保健センターにおいて学生たちの心身衛生を管理する際、処遇困難な事例に遭遇するため、医学的見地から教育的講演を行った。		
(7) 大阪市都市協会共催ころ・ネットkansaiフェスタシンポジウム				平成16年10月30日	精華小学校跡小劇場 「しずかなごはん」で心身に問題を抱える人たちと、それに向き合う援助者と一般市民の交流と情報交換を目的とするシンポジウムのシンポジストを務めた。		

(8) 大阪市立十三市民病院市民公開講座の講師	平成16年12月11日	大阪市淀川区民センター 「身近な存在、更年期」で、一般市民を対象に教育的講演を行った。			
(9) 社団法人大阪精神保健福祉協議会大阪府大阪市後援第48 回精神保健福祉講習会	平成17年2月17日	大阪府こころの健康総合センター研修室 「いま再び家庭を考える」に関する一連の講習会の中で「一耽る現代、依存症あれこれ」という演題で講演を行った。			
(10) 大阪府教育委員会社団法人大阪精神科診療所協会主催、専門医派遣制度の講演	平成17年3月3日	大阪府北淀高等学校 「思春期と精神障害」で、対象は高校全教職員に対し、事例を元に教育的講演を行った。			
(11) 淀川区医師会共催淀川区医師会看護専門学校講師会の講演	平成17年6月11日	新大阪ワシントンホテルプラザ 「依存症閑話」で対象は医師会理事、医師会看護学校の講師で、依存症の趨勢、考え方について講演を行った。			
(12) 平成17年度養護教諭学校相談研修の講演	平成17年8月25日	大阪府教育センター 「子供と依存症」で精神保健上配慮の必要な子供に対し、小・中・高等学校の養護教諭に援助の方法について実践的な内容の研修講演を行った。			
(13) 社団法人全国保育士養成セミナー全国保育士養成協議会第44回研究大会のシンポジウム	平成17年9月29日	都ホテル大阪 「子育ての変容と保育士養成一変わりゆくことと変わらないこと」でシンポジストとして隣接領域から見た若者像と社会の変容について話した。			
(14) 熊取町教育委員会主催、平成17年度熊取ゆうゆう大学教養学部現代的課題学習コースの講師	平成17年10月20日	熊取町公民館 暮らしと健康セミナー心と身体が豊かに自分らしい生き方を作る講座において、「ストレスと依存症」について講義した。またこの講演にゼミ学生を全員参加させた。			
(15) 平成18年度精神保健福祉関係職員現任研修における講師	平成18年10月16日	大阪府こころの健康センター研修室 「摂食障害の事例を通して学ぶ」で対象は精神保健福祉相談員であり、事例の解釈と治療について講演した。			
(16) 第14回関西アルコール関連問題学会大阪大会の基礎講座およびポスター発表	平成18年12月1日 ～2日	チサンホテル新大阪 基礎講座では「女性アルコール依存症の基礎講座」について講演した。またポスター発表では、「大阪マックの歩みー当事者の当事者による当事者のための25年間」を学生に発表させ、2日ともゼミ学生全員を参加させた。			
(17) 大阪府教育委員会、社団法人大阪精神科診療所協会主催による精神科専門医師派遣制度による講演会	平成18年2月15日	大阪府北淀高等学校 「心のサポーター3年間を振り返って」であり、教職員全員に講演を行った。また、教員を志望するゼミ学生2名を聴講させた。			
(18) 大阪府医師会主催第36回シルバー大学の講師	平成19年2月24日	大阪府医師会館2回ホール 「高齢者のための心の健康づくり」で、一般市民を対象に加齢現象について精神医学的な講演を行った。			
4. その他教育活動上特記すべき事項					
(1) 大阪府貝塚高校におけるホームヘルパー2級養成講座の講師	平成17年8月1日	大阪府貝塚高等学校福祉学科2年生を対象に「医学の基礎知識1」を講義した。			
(2) 介護福祉国家試験対策夏期講習の講師	平成17年8月18日	私立淀の水高校福祉科3年生を対象に介護福祉国家試験対策講習で「医学一般」の講義を行った。			
(3) 大阪府教育委員会、社団法人大阪精神科診療所協会主催による精神科専門医師派遣制度による訪問指導	平成17年10月28日～ 平成18年3月	大阪府教育委員会の要請で、年間4～6回高校へ赴き事例検討会、教育講演を行い学校精神保健のための指導にあたった。			
II 研究活動					
著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数

著書					
「依存症の理解ー病から回復へ新生へー」	共著	平成15年4月	アカデミア出版会	◎滝口直子、今道博之他 8 名	198頁～216頁
論文					
女性のアルコール関連障害と摂食障害の合併例について	単著	平成15年8月	日本アルコール精神医学雑誌（第10巻第11号）		11頁～17頁
精神科医の教育研究ノート	単著	平成16年3月	華頂社会福祉学（第2号）		42頁～47頁
重度の摂食障害を合併したアスペルガー障害の一例	共著	平成16年12月	藍野学院紀要（第18巻）	◎天羽 薫、足利 学、堺 俊明他 3 名	43頁～48頁
A case report of Asperger's syndrome with severe eating disorder	共著	平成17年12月	Aino Journal (vol. 14)	◎Kaoru Amoh, Hiromi Muraoka, Toshiaki Sakai 他 3 名	81頁～84頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

		内 容
平成15年4月1日～	平成19年現在	日本心身医学会代議員
平成15年4月1日～	平成19年現在	大阪診療所協会賛助会員学術委員
平成15年4月1日～	平成19年現在	医療法人天翔会天羽医院理事
平成15年4月1日～	平成19年現在	NPO法人大阪マック副理事長
平成15年4月1日～	平成19年現在	大阪府麻薬中毒審査会委員

(表24)

6.2

所属	健康福祉学部	職名	教授	氏名	駒井 博志	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				平成15年度～	授業終了時に、当日の講義内容に関する質問やさらに説明がほしい部分、授業の進め方等に関してミニレポートを作成させ、次回講義時にそれらを基に、補足説明を行っている。講義内容に関する誤解の訂正等を図り、講義内容の理解を正しく確実なものにするのと同時に、文書作成能力を高めることを目的として実施している。		
(1) 「科目名」講義でのミニレポート作成指導							
(2) 視聴覚教材の使用による学習意欲や理解度の向上							
(3) 精神保健福祉現場での当事者理解の深化、施設運営の体験的学習				平成15年度～	教材用に編集されたものではなく、主にTV録画したビデオ（ビデオライブラリを開設）を使用し、講義内容に関して多角的な理解を図るとともに授業に興味や関心を持たせ、いま行っている学習の意味や意義を理解させるようにしている。 理事長として運営している精神障害者社会復帰施設を演習場所として活用し、学生と当事者がコミュニケーションを図る中で当事者理解を深めまた施設運営のノウハウを体験的に学習し、実践的な力を身につけるための授業を展開している。		

(4) 「学生による授業評価」を実施	平成15年度～	FD委員会による授業評価を受けるとともに、最終講義時に学生に授業の進め方に関するレポートを提出させ、それらの記述内容を踏まえ、授業内容や進め方の改善を行っている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 授業レジュメの作成 資料作成・配付		授業開始時に当日の講義内容及び教科書該当ページを記入したレジュメを作成し、当日の学習内容や目的を明確にすることを心がけている。 新聞等の記事を資料として編集配布し、講義内容に関して多角的な理解を図るとともに授業に興味や関心を持たせ、いま行っている学習の意味や意義を理解させ、学習への動機づけを高めるようにしている。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 (1) NPO法人ウエルビーング主催による講演及び演習	平成15年～17年 (計20回)	ホームヘルパー二級免許所有者を対象に、精神障害者ホームヘルプに関する講演及び演習を行った。
4. その他教育活動上特記すべき事項		大学ホールにおいて、福祉の店ハートショップを設置・運営し、障害者が働くことや学生とのコミュニケーションを通じて社会生活を回復するための支援を行っている。 また、学生の体験学習の場として活用し、実践活動を通じて障害者理解を深め、学校で学習すべき内容や学習の意義の体験的理解が進むよう努めている。

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
介護・医療・福祉小辞典	共著	2004年3月	法律文化社	橋本篤孝	148, 149, 150
論文					
精神障害者地域生活支援センターの現状と課題－障害者自立支援法時代の新たな展開を目指して		2006年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要第3号		

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成13年4月～現在に至る	日本社会福祉学会会員
平成13年7月～平成16年3月	社会福祉法人かけはし 理事、評議員
平成13年8月～現在に至る	社会福祉法人びびるす 評議員
平成14年4月～現在に至る	日本社会精神医学会会員
平成14年4月～現在に至る	NPO法人ふきのとう 理事長、精神障害者小規模通所授産施設ふきのとう 施設長
平成15年4月～平成17年3月	社会福祉法人息吹 理事、評議員

平成16年4月～平成17年3月	社会福祉法人つばき会 評議員
平成17年4月～現在に至る	精神障害者小規模通所授産施設なずな 施設長
平成17年7月～現在に至る	池田市人権擁護推進委員会委員
平成18年4月～現在に至る	泉佐野市障害者施策推進協議会委員
平成18年4月～現在に至る	精神保健福祉士国家資格試験委員

(表24)

6 3

所属	健康福祉学部	職名	教授	氏名	間 哲朗	大学院における研究 指導担当資格の有無	有 ・ (無)
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）				平成15年度～	15・16・17・18年度とも担当科目について、学生の授業評価を受けてきている。 100人を超える受講生の場合には、バズセッションによるグループ討議を実施。 KJ法を使つてのワークショップの実施 ビデオフォーラムの実施		
(1) 「学生による授業評価」を実施				平成16年度			
(2) バズセッションやワークショップの実施				平成16年度			
(3) 視聴覚機材の活用				平成17年度～			
2. 作成した教科書、教材、参考書				平成16年度	「地域福祉論」の教科書として共著の「地域福祉概説」（明石書店）を使用。		
(1) テキスト使用				平成15年度～	教材は新聞記事や参考資料をコピーして学生に配布。		
(2) 教材の作成・配布							
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
(1) 福祉教育研修への参加				平成16年7月31日	毎年夏に行われる、「福祉教育を考える会」（村上尚三郎氏主宰）に参加。 平成16年度は第11回目でコメンテーターを務めた。		
				平成18年8月26日、 27日	「第25回地域福祉問題研究全国交流集会」（実行委員会主催、於・大谷大学）で特別講義「地域福祉と社会福祉協議会—歴史的展開から」を担当。		
(2) 研修会講師（下記を含め数十回）				平成17年1月8,9日	2004年度福祉教育研修講座（(社)日本社会福祉教育学校連盟主催）に参加、終了証を受けた。		
京都市市町村社会福祉協議会連合会、(福)京都府社会福祉協議会 京都府福祉人材・研修センター共催「平成18年度市町村社会福祉協議会法人役員セミナー」において講義「求められる社会福祉協議会の事業・活動の展開」の講師並びに連続報告「府内の実践から学ぶ市町村社協事業・活動の展開」におけるコーディネーター及び分散会の総括・まとめを担当。				平成18年10月13日	地域福祉の推進と社会福祉協議会の役割について講義するとともに綾部市、城陽市社会福祉協議会の小地域福祉活動の報告を聞いた後、分散会討議が行われた。		
II 研究活動							

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
国民福祉辞典		平成15年12月	株式会社 金芳堂	硯川 眞旬 監修	381頁(1項目)
論文					
公益法人制度と民間福祉活動活性化の課題		平成16年3月	大阪体育大学健康福祉学部「研究紀要」 創刊号		113頁～122頁
民間人の地域における福祉活動の特徴～京 都府方面委員（共同委員）の活動にみる～		平成17年3月	大阪体育大学健康福祉学部「研究紀要」 第2号		9頁～22頁
戦後わが国の社会福祉の歩み		平成18年3月	京都府社会福祉協議会福祉人材・研修セ ンター発行「福祉の仕事ガイドブック」 所収		2頁～4頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成13年4月～現在	社会福祉法人 三福福祉会監事
平成14年5月～現在	社会福祉法人 光彩会評議員（現在・理事も兼務）
平成14年5月～現在	社団法人 京都ボランティア協会理事（現在・介護サービス第三者評価事業、認知症高齢者グループホーム外部評価事業、介護サービス情報公表調査事業実施責任者）
平成14年7月～現在	社会福祉法人 京都社会福祉協会理事・評議員
平成15年10月～現在	特定非営利活動法人 京都NPOセンター理事
平成16年4月～現在	奈良市社会福祉審議会委員、同高齢者保健福祉推進協議会会長
平成16年7月～現在	社会福祉法人 宇治病院監事
平成16年7月～18年	社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会ボランティアセンター検討委員会委員長
平成16年12月～現在	社会福祉法人 京都府社会福祉協議会・京都ボランティアバンク運営委員会委員
平成17年4月～現在	社会福祉法人 泉佐野市社会福祉協議会評議員
平成17年11月～現在	奈良市地域包括支援センター運営協議会会長
平成18年2月～現在	奈良市地域密着型サービス運営委員会委員長

(表24)

6 4

所属	健康福祉学部	職名	教授	氏名	山本 啓太郎	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 児童福祉論 I	平成19年4月－7月	児童福祉論 I の講義テキストを用いて講義を行った。、毎月末にミニテストを出題し、レポートを2回課すなどにより、学生の受講意欲を高めることとした。
(2) 児童福祉論	平成18年度後期	児童福祉論の講義テキストを用いて講義を行った。、毎月末にミニテストを出題し、レポートを課すなどにより、学生の受講意欲を高めることとした。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 改訂版 児童福祉論	平成19年4月	児童福祉論のテキストを2004年以後の法改正に沿って改訂した。
(2) 児童福祉論	平成18年4月	児童福祉論のテキストを誤植等を全面的に改正するとともに、2004年以後の法改正に沿って改訂した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項		

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
改訂版 児童福祉論	共著	平成19年4月	晃洋書房	西尾祐吾	23頁－36頁
児童福祉論	共著	平成19年3月	近畿大学豊岡短期大学	河崎洋充	
大阪における社会福祉の歴史 I	共著	平成19年3月	大阪市社会福祉協議会	大阪社会福祉史研究会	35頁－47頁
人物で読む近代日本社会福祉のあゆみ	共著	平成18年5月	ミネルヴァ書房	室田保夫	85頁－91頁
新・高齢者福祉概論	共著	平成18年5月	学文社	小国英夫	
児童福祉論	共著	平成18年3月	近畿大学豊岡短期大学	守本友美・山本啓太郎	
近代日本の慈善事業	共著	平成18年3月	富山房	池本美和子	
近代日本の慈善事業の特質とその現代的变化に関する研究	共著	平成18年3月	文部科学省科学研究費報告書	池本美和子	
論文					
兵庫県における慈恵救済資金	単著	平成16年12月	近畿大学豊岡短期大学論集第1号		

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成18年4月 ～	文部科学省科学研究費研究（代表 元村智明金城大学講師）における研究発表（9月16日）および研究討議に参加
平成16年4月 ～	平成18年3月 文部科学省科学研究費研究（代表 池本美和子仏教大学助教授）における研究発表・討議に参加および報告書執筆
平成16年6月 ～	大阪社会福祉史研究会による「社会福祉史の市民講座」で「寄る辺なき老人の杖として－岩田民次郎」を講演

65	所属	健康福祉学部	職名	教授	氏名	和田 隆夫	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績					年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）								
2. 作成した教科書、教材、参考書								
法学入門—法学的なものの考え方を学ぶ					平成15年4月20日	本書は、「身近な事例」の説明に重点を置かず、「法というものの考え方」の基本を学生に追体験してもらおう中で、「法学的思考方法」の初歩を学べるような内容とすることに重点を置いている。法学部以外の学生にも、それぞれが学ぼうとする学問の発想や方法の共通性と相違を感じ取り、学生が一人の人間として生き方を発見し、再確立することに役立つことを目指す。 (担当部分：「自己決定」20頁) (吉川 仁(編著)、長尾良子、川中達治、和田隆夫、田口昌樹、酒井誠、松倉耕作(編著)、鈴木晃、田中裕明、鳥野猛、中野進)(共著、嵯峨野書院)		
介護・医療・福祉小辞典					平成16年3月15日	本書は、介護および福祉、医学の基本用語を初学者にも理解しやすいように、平易な表現で記述されている。(12項目)(橋本篤孝(代編)、古橋エツ子(代編)、和田隆夫(編)他77名)(編共著、法律文化社)		
福祉社会と法 第2版					平成16年9月25日	少子高齢社会を迎えた日本の社会福祉制度は、1990年代に入り、社会福祉基礎構造改革などを経て大きく変化している。本書は、こうした変化を踏まえて、行政を主体にした福祉国家的発想ではなく、多様な福祉サービス提供機関を認める福祉社会を前提に考えた社会福祉システムの解明を旨としている。また大学における社会福祉法制論の教科書として利用できるように平易な表現と教養的な内容を含めることに留意している。(総頁数222頁)(単著、三学出版)		
社会保障・社会福祉大事典					平成16年10月20日	本書は、構造改革以後大きく変動している社会福祉、社会保険の過去・現在・未来を事典形式で記述されたものである。学生にとり、講義の予習および復習として読むには最適である。(担当部分：「行政参加と社会保障・社会福祉」751頁～753頁)(一番ヶ瀬康子、井上英夫、和田隆夫他170名)(共著、旬報社)		
高齢者施設用語事典					平成19年4月20日	高齢者福祉を勉強することの難しさは、法律、医学、介護、建築、社会学、心理学と多岐にわたっていることがある。本書は、多様な高齢者福祉を学問領域ごとに向けて解説していて、学生の理解をたすけるものである。(担当部分：92頁から95頁、585頁～587頁)(小室豊充(代編)、和田隆夫(編)他112名)		
市民社会と社会保障法 新版					平成19年7月10日	本書は、最近の社会保障法を取り巻く状況の変化と社会保障法自体の改正などを踏まえて、国民の誰もが知っておくべき社会保障法の最新内容の概説書である。担当する「年金」部分では、年金の仕組みを図表を交えてわかりやすく解説する。さらに国民の年金不安やこれに対する年金改革についての最新情報を網羅する。 (担当部分：「年金」(P.81-130)45頁) (良永彌太郎、水島郁子、和田隆夫、石橋敏郎、阿部和光、石田道彦、山田 晋)(共著、嵯峨野書院)		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
4. その他教育活動上特記すべき事項								

大阪地方裁判所で裁判傍聴を年2, 3回実施		
福祉マネジメントコースで基礎演習（2年生）の一環として毎年福祉施設一泊研修実施		
専門演習Ⅰで、ハンセン病学習のまとめとして、岡山にある長島愛生園を見学		

Ⅱ 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
法学入門－法学的なものの考え方を学ぶ	共著	平成15年4月	嵯峨野書院	吉川 仁（編著），長尾良子，川中達治，和田隆夫，田口昌樹，酒井誠，松倉耕作（編著），鈴木晃，田中裕明，鳥野猛，中野進	70頁～92頁（担当部分：「自己決定」）
福祉社会と法 第2版	単著	平成16年9月	三学出版		全222頁
市民社会と社会保障法	共著	平成19年7月	嵯峨野書院	阿部和光（編著）、石橋敏郎（編著）、高倉統一、西田和弘、和田隆夫、石田道彦、山田晋	81頁～120頁
論文					
ドイツにおける無償介護者と介護事故	単著	平成15年 1月	『古橋エツ子先生還暦記念論集 21世紀における社会保障とその周辺領域』（法律文化社）		101頁～114頁
福祉マネジメントと教育	単著	平成16年 3月	『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』創刊号（大阪体育大学健康福祉学部）		17頁～22頁
介護サービス提供契約における情報提供義務と助言義務	単著	平成16年3月	『政教研紀要』第26号（国士舘大学政教研究所）		55頁～70頁
Modern japanische Gesellschaft und Recht	単著	平成17年 3月	『大阪体育大学健康福祉学部研究紀要』第2号（大阪体育大学健康福祉学部）		39頁～48頁
要介護認定基準時間の法的問題について	単著	平成18年 3月	『現代法律学の課題：日本法政学会五十周年記念』（日本法政学会創立50周年紀年論文編集委員会編）		425頁～436頁
その他					
介護・医療・福祉小辞典	編著	平成16年3月	法律文化社	橋本篤孝（代編）、古橋エツ子（代編）、和田隆夫（編）他77名	担当項目数：12項目
社会保障・社会大事典	単著	平成16年10月	旬報社	一番ヶ瀬康子、井上英夫、和田隆夫他170名	751頁～753頁（担当項目：「行政参加と社会保障・社会福祉」）

高齢者用語事典	編著	平成19年4月	中央法規	小室豊充（代編）、和田隆夫（編）他 112名	92頁から95頁、585頁～587 頁：（担当項目「障害年 金」、「介護予防給付」）
---------	----	---------	------	---------------------------	--

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容		
平成14年4月 ～	現在に至る	関西憲法研究会監事	
平成15年4月 ～	現在に至る	ベネッセ本山保育園（神戸市）運営委員会委員長	
平成17年4月 ～	現在に至る	日本法政学会企画委員会委員	
平成18年6月 ～	現在に至る	泉佐野市バリアフリー基本構想策定協議会副会長	

(表24)

6 6

所属	健康福祉学部	職名	准教授	氏名	礒部 美也子	大学院における研究 指導担当資格の有無	有 ・ 無
----	--------	----	-----	----	--------	------------------------	-------

I 教育活動

教育実践上の主な業績	年月日	概 要
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		
(1) 視覚教材活用による理解度の向上	平成17年～	ビデオ等視覚教材を使い、講義内容を具体的にイメージできるようにして理解度を高めた。 ビデオ等視覚教材を視聴する際、単に視聴するだけにならないよう、レジメを配布した。その際、空白を設けて自ら視聴したことを記入することで集中を促し、重要なポイントが理解できるようにした。また、講義においても記入式レジメを配布し、集中・理解を高めた。
(2) 記入式レジメによる集中促進と理解度の向上	平成17年～	
(3) 「カウンセリング」講義での小レポート作成指導	平成17年～	
(4) 「学生による授業評価」を実施	平成17年～	FD委員会による授業評価を受け、学生の意見を取り入れて改善を行っている。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 熊取町教育委員会主催による講演	平成16年9月	軽度発達障害について教職員を対象に行った。
(2) 日本臨床発達心理士会関西支部主催による研修会講師	平成15年8月	発達障害とマカトン法について講演を行った。
(3) 日本コミュニケーション学会第 回総会	平成17年5月	軽度発達障害のグループ指導についての実践を発表した。
(4) 京都府立障害児書学校研究会主催による研究会講師	平成18年8月	初期のコミュニケーション・言語指導について講演した。
4. その他教育活動上特記すべき事項		

(1) 「臨床心理士」認定運営機構主催による講習会講師	平成16年8月	言語発達支援について臨床発達心理士取得希望者を対象に行った。
(2) 滋賀県総合教育センター主催による研修会講師	平成15年8月	児童生徒理解と教育相談の進め方について
(3) 滋賀県看護協会主催による助産師職能集會講師	平成15年11月	乳幼児の発達について
(4) 京都国際社会福祉センター主催による「治療教育講座」講師	平成17年6月	言語発達とその障害について

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
よくわかる臨床発達心理学	共著	平成17年4月	ミネルヴァ書房	◎麻生武・浜田寿美男編	90頁－93頁
論文					
対人関係が取りにくい幼児の発達相談事例を通して	単著	平成16年7月	「発達」25巻99号、ミネルヴァ書房		74頁－81頁
その他					
人との関係に問題をもつ子どもたち・コメント		平成19年1月	「発達」28巻109号、ミネルヴァ書房		104頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成15年4月1日 ～	児童養護施設京都聖嬰会苦情解決第三者委員
平成15年4月1日 ～ 平成17年3月31日	滋賀県東近江「福祉の地域づくり」推進協議会 「児童福祉部会」委員
平成15年4月1日 ～	滋賀県犯罪被害者支援連絡協議会 DV問題分科会委員
平成17年6月9日 ～	長浜市就学指導委員会委員
平成17年4月1日 ～	滋賀県東近江地域振興局地域福祉部子ども家庭相談ケースマネジメントアドバイザー

(表24)

6 7	所属 健康福祉学部	職名 准教授	氏名 今井 小の実	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動					
教育実践上の主な業績		年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）		平成16年前期～	「女性福祉論」「家族福祉論」では最新のデータと研究成果を使い男女共同参画社会の担い手としての意識形成につとめている。また価値観を伴う講義なので一方的な押し付けにならないよう学生自らが問題意識をもつ授業展開を心がけている。		

		「福祉の歴史」では教会が救済の中心であった中・近世ヨーロッパのイメージが学生に伝わるように現地撮影した映像をもとにオリジナル視聴覚教材を作成、好評を得ている。 FD委員会により実施されている学生のアンケートの評価を受け、意見を取り入れた授業の改善につとめている。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 『日本社会福祉の歴史』 ミネルヴァ書房	平成15年1月	「福祉の歴史」のテキスト。年表を担当。共編著は菊池正治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫。その他の分担執筆者は岩見恭子・今井小の実。福祉の発達の過程を年代順に詳しく追っていくことで学生の理解が深まるようにした。
(2) 『女性福祉とは何か』 ミネルヴァ書房	平成15年11月	「女性福祉論」のテキスト。第1部第2章「社会福祉と女性史」の執筆担当。編著者は林千代、分担執筆は今井小の実・湯澤直美・加納恵子・堀千鶴子・沈潔ほか4名。現在の女性問題が歴史過程により形成されたことを明らかにした。
(3) 『家族支援論』 相川書房	平成17年3月	「家族福祉論」のテキスト。「家族支援と家族政策」を執筆担当。編著者は得津慎子、分担執筆者は、廣井亮一・鶴野隆浩・今井小の実・横山登志子・小崎恭弘・藤原正範・日下部菜穂子・小高真美ほか5名。家族政策の沿革をたどり、今日的な支援が展開されるまでの過程を明らかに
(4) 『基礎からはじめる社会福祉論』 ミネルヴァ書房	平成19年3月	「社会福祉原論」あるいは「社会福祉概論」のテキスト。第3章「社会福祉の歴史」を担当(39-59p) 編者は菊池正治・清水教恵。そのほかの分担執筆者は加藤博史、池田和彦、柿本誠、亀田尚、杉山博昭。社会福祉の導入教育のテキストになるように、また制度と技術を統合的にとらえることをねらいとして作成している。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(1) 和泉市男女共同参画センター主催講座講師	平成17年9月7日 ・14日	和泉市の市民を対象とした講座の講師。テーマは「女性福祉」「女性福祉」で市民の男女共同参画社会への意識形成につとめた。
4. その他教育活動上特記すべき事項		
(1) 泉佐野市地域福祉計画策定審議会委員	平成16年7月 ～18年3月	
(2) 泉佐野市次世代育成支援行動計画策定審議会副会長	平成16年7月 ～18年3月	

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
『日本社会福祉の歴史』	共著	平成15年1月	ミネルヴァ書房（再掲）	◎共編著：菊池正治・清水教恵・田中和男・永岡正己・室田保夫。分担執筆者：室田保夫・清水教恵・菊池正治・永岡正己・岩見恭子・田中和男・今井小の実。	307頁～326頁
『介護福祉学習事典』	共著	平成15年2月	医歯薬出版	◎監修：吉田宏岳、執筆幹事として高垣節子・橋本祥恵・喜多祐荘・藤井伸夫・森扶由彦。分担執筆者：多数のため省略。	819頁～827頁

『新版社会福祉実践基本用語辞典』	共著	平成16年10月	川島書店	◎編者：日本社会福祉実践理論学会（岡本民夫氏会長）。執筆者は多数のため掲載を省略。	103頁、150頁
『女性福祉とは何か』	共著	平成16年11月	ミネルヴァ書房（再掲）	◎編者：林千代。分担執筆：林千代・今井小の実・中山忠政・湯澤直美・加納恵子・堀千鶴子・松島紀子・沈潔・三鬼和子・清水美枝。	24頁～42頁
『家族支援論』	共著	平成17年3月	相川書房（再掲）	◎編者：得津慎子。分担執筆：鈴木富美子・牧田満智子・廣井亮一・鶴野隆浩・今井小の実・得津慎子・横山登志子・小崎恭弘・中島弘美・藤原正範・日下部菜穂子・小高真美・福岡ともみ・永井富美。	55頁～70頁
『児童福祉論』	共著	平成17年4月	晃洋書房（再掲）	◎編者：西尾祐吾。分担執筆：今井小の実・川出朋子・山本啓太郎・牧田満知子・西村重希・農野寛治・吉井珠代・中典子・前田佳代子・波田埜英治・河崎洋充・小崎恭弘・岩崎久志・桐野由美子・西尾祐吾。	1頁～12頁
『社会福祉思想としての母子保護論争ー“差異”をめぐる運動史ー』	単著	平成17年7月	ドメス出版		1頁～422頁
『近代日本の慈善事業』	共著	平成18年3月	社会福祉形成史研究会	◎編者：池本美和子。分担執筆：池田敬正・島中暁子・池本美和子・菊池正治・細井勇・杉山博昭・水上妙子・小池桂・元村智明・山本啓太郎・藤原正範・今井小の実・田中和男。今井は第12章「母子保護の社会化」担当。本書は平成16年～17年度の科学研究費補助をうけた「近代日本の慈善事業の特質とその現代的变化に関する研究ー公共性の変化を中心にー」（基盤研究(B)）の一環として、その実績報告にもとづき、若干の編集作業を経てまとめたものである。	277頁～304頁
『人物でよむ近代日本社会福祉のあゆみ』	共著	平成18年5月	ミネルヴァ書房	◎編者：室田保夫。編集協力者：今井小の実・倉持史朗。分担執筆者はほか21名。30人の社会福祉にかかわった人物を通して社会福祉の歩みをたどることができる著。今井は（第Ⅱ部6章「山田わか」（163-169p）/第10章「奥むめお」（192-198p）第Ⅱ部（時代的背景）（122-126p）/コラム「社会福祉とジェンダー」（148p担当）。	122頁～126頁、163頁～169頁、148頁、192頁～198頁。

『現代社会保障・福祉小事典』	共著	平成19年2月	法律文化社	◎監修者名：佐藤進・小倉襄二。編者名：加藤博史・山路克文。分担執筆者は多数のため省略。今井は2Ⅲ5. 「ドメスティック・バイオレンス」担当(36p) / 7V2. 「保育所と女性労働問題」担当(155p))する。	
『基礎からはじめる社会福祉論』	共著	平成19年3月	ミネルヴァ書房(再掲)	「社会福祉原論」あるいは「社会福祉概論」のテキスト。第3章「社会福祉の歴史」を担当(39-59p))編者は菊池正治・清水教恵。そのほかの分担執筆者は加藤博史、池田和彦、柿本誠、亀田尚、杉山博昭。社会福祉の導入教育のテキストになるように、また制度と技術を統合的にとらえることをねらいとして作成している。	
論文					
「母性保護論争から母子保護法成立までの過程に関する研究」	単著	平成15年1月	同志社大学(博士論文)	同志社大学博士論文。	1頁～248頁
「『身の上相談』の分析、その方法と結果ー『女性相談』に浮かびあがる昭和初期の母子問題ー」	単著	平成15年3月	関西社会福祉学会誌(創刊号)		44頁～59頁
「覚え書き 母子保護法成立までの軌跡ー母性保護連盟の活動を追ってー」	単著	平成16年4月	大阪体育大学健康福祉学部紀要(創刊号)		67頁～84頁
「社会運動としての社会福祉ー奥むめおの活動を通してー」	単著	平成18年12月	『キリスト教社会問題研究』第55号		1頁～28頁
「先輩からの助言(第五回)五味百合子先生」(インタビュー)	共著	平成19年3月	『社会事業史研究』第34号	71-100pうち今井担当「2. 母性保護連盟職員の時代」77-84p	77頁～84頁
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					

(表24)

6 8

所属	健康福祉学部	職名	准教授	氏名	今堀 美樹	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概要		
1. 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)							
「社会福祉援助技術論Ⅰ」の講義				平成19年度	ソーシャルワーク理論の特徴を創設者はどのように見出したのか、理論家の生涯と関連づけて学ぶことで“物語”として理解が深まるよう、テキストに平行して資料を配付し授業をしている。またその理論家の生涯は、社会的自立に向けて苦闘する学生達の良き手本であることも、折に触れ指摘している。		
「社会福祉援助技術論Ⅱ」の講義				平成18, 19年度	講義に関する課題や社会福祉実践のビデオ教材によるレポートを授業内に作成し、授業への理解度を高め考えを明確にしそれを文章化できるよう訓練している。レポートは出席票もかね、出席状況が把握できるよう留意している。		

<p>「社会福祉援助技術演習Ⅰ」の演習授業</p> <p>「社会福祉援助技術演習Ⅱ」の演習授業</p>	<p>平成18,19年度</p> <p>平成18,19年度</p>	<p>構成的エンカウンター・グループのエクササイズを授業に導入し、“相互作用を促進するような場づくり”が可能となるよう働きかけを行っている。自分自身の感情の動きや、他のメンバーの思いに気づき、相互に率直なフィードバックを試みる場となるよう配慮している。</p> <p>グループスーパービジョンとして、それぞれの学生が実習で出会った心に残る利用者との場面をインシデントシートにまとめ報告し、他のメンバーからフィードバックをしてもらい、実習での学びをさらに深めるための取り組みを実施した。この取り組みについては、研究論文として報告した。</p>			
<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p>構成的エンカウンター・グループのエクササイズを学生達の状況にあわせて選出し、展開方法を工夫した。</p>	<p>平成18,19年度</p>	<p>エクササイズ集は中学・高校生を対象にしたものを使用しているが、そこから社会福祉士の養成教育にも応用できるものを選出し、グループの発達過程にあわせて展開した。</p>			
<p>3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等</p>					
<p>4. その他教育活動上特記すべき事項</p>					
<p>Ⅱ 研究活動</p>					
<p>著書・論文等の 名 称</p>	<p>単著・ 共著の別</p>	<p>発行または発表の 年月</p>	<p>発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称</p>	<p>編者・著者名 (共著の場合のみ記入)</p>	<p>該当頁数</p>

論文				
「出会い」を中心とした学習過程についての考察—グループ・スーパービジョンへの取り組みを通して—	単著	平成18年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要, 第3号	pp. 13-26
「出会い」を中心とした学習過程についての考察—相互作用を促進するグループワーク・プログラムを通して—	単著	平成19年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要, 第4号	

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容		
平成2年 ~	現在に至る	ソーシャルカウセリング研究所研究員	
平成8年 ~	現在に至る	同志社社会福祉学会会員	
平成9年 ~	現在に至る	日本社会福祉実践理論学会会員	
平成9年 ~	現在に至る	日本社会福祉学会会員	
平成11年 ~	現在に至る	日本キリスト教社会福祉学会会員 (養成教育委員会委員に選出され活動している)	
平成11年 ~	現在に至る	関西社会福祉学会会員	

(表24)

6 9

所属	健康福祉学部	職名	准教授	氏名	大谷 悟	大学院における研究指導担当資格の有無	有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)							
① 「社会福祉援助技術演習」での実技試験の実施				平成17/18年12月	コミュニケーション技法の獲得をねらいとして、構造化して、ポイント制にて実施した。面接技法の獲得をねらいとして、面接場面を構造化し、ポイント制にして実施した。		
② 「社会福祉援助技術演習現場実習Ⅰ」で、フィールド・ワーク導入				平成17/18年 夏休み期間	社会福祉学は究めて実践的な学問であって、社会福祉現場実習理解抜きには学べない。建学といった受動的な学びではなく、参加型の学びを実施した。学習主体者である学生の意欲を引き出すために、学生自身の模擬研究授業を実施した。		
③ 「福祉科教育法Ⅱ」で、参加型学習の導入				平成18年後期授業			
④ 視聴覚教材活用による社会福祉実践現場実習理解の向上				平成17年～	社会福祉サービス利用者は、多様多岐にわたる特性を有する人々である。そういった利用者理解を促すことで、学生の実践力強化を目指した。		
2. 作成した教科書、教材、参考書							
① 「社会福祉現場実習」終了後の学生に対する評価アンケート票作成				平成17/18年前期	社会福祉現場実習終了後、その実習効果を測定するために、実習後評価アンケート票を作成した。		
② 「社会福祉現場実習」評価アンケートの回収と集計				平成17/18年後期	社会福祉現場実習終了後、後期授業において実習後評価アンケート(自計式)を学生に配布、回収の上集計を行った。		

③社会福祉現場実習報告会発表用教材の作成と評価アンケート結果報告書作成	平成17/18年11月	社会福祉実践現場での実習成果を教材としてまとめて作成する。又、社会福祉実習の評価アンケート結果を報告書としてまとめて講評し、その学びの成果を数量化した。
③コミュニケーション技法の構造化とマニュアル化	平成17/18年前期	社会福祉援助技術の1つであるコミュニケーション技法を学生にわかりやすく構造化すると共にマニュアル化を学生にはかり、その技術的獲得を容易にすると共に、社会福祉現場実習で生かせるように工夫した。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
①大阪府社会福祉協議会主催による「社会福祉実習のあり方検討会」(座長大阪府立大学 黒田教授)	平成18年8月26日	社会福祉士実習教育のあり方について、研究発表を行い、報告書をまとめた。
②大阪府高齢社会福祉課主催介護支援専門員実務研修講演及びケアマネジメント手法の実技指導	平成17年6月2日 平成18年6月21日	高齢者分野の介護支援専門員に対するケアマネジメントについての講演と事例を用いたケアマネジメント技法の実践について指導を行った。
③大阪府障害保健福祉課主催障害者ケアマネジメント従事者に対する講演及びケアマネジメント手法の実技指導	平成17年9月14日 平成18年1月23日	障害者分野のケアマネジメント従事者に対するケアマネジメントについての講演と事例を用いたケアマネジメント技法の実践についての指導を行った。
4. その他教育活動上特記すべき事項		
①石川県社会福祉協議会依頼による研修指導	平成17年9月2日	民生・児童委員に対する研修指導
②鳥取県社会福祉協議会依頼による研修指導	平成18年1月24日	民生・児童委員に対する研修指導
③大阪府立身体障害者センター 第3者委員	平成17年4月～19年3月	
④大阪府国保連合会介護給付審議会委員	同上	
⑤大阪市ケアマネジメント推進協議会副委員長	平成16年4月～17年3月	
⑥大阪市城東区地域福祉活動計画策定委員長	平成16年4月～	
⑦和泉市障害者施策推進協議会委員長	平成16年4月～	
⑧熊取町地域福祉計画策定委員長	平成16年4月～17年3月	
⑨忠岡町介護保険事業計画及び第4次老人保健福祉計画策定委員長	平成17年7月～	

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の名称	編者・著者名(共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
新しいソーシャルワーク	共著	2005年5月	中央法規出版	杉本敏雄、住友雄資	173頁～184頁
論文					
ICFの観点とケアマネジメント	単著	2005年4月	大阪府高齢福祉課		
ICFと障害者ケアマネジメント～障害者の自立の観点から～	単著	2005年9月	大阪府障害保健福祉課		

社会福祉実習教育	単著	2005年10月	大阪府社会福祉協議会		
権利擁護システムについて	単著	2006年10月			
Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成17年4月1日	～	現在に至る	社会福祉法人堺ハートピア理事		
平成17年4月1日	～	現在に至る	大阪市立障害者自立生活センター運営委員		
平成17年4月1日	～	現在に至る	社会福祉法人「里の風」評議委員		
平成17年4月1日	～	現在に至る	NPO法人「たびだちの仲間の会」理事		
平成17年4月1日	～	現在に至る	大阪府介護普及センター運営委員長		
平成18年4月1日	～	現在に至る	社会福祉法人福泉会身体障害者永興施設理事・評議員		
平成18年4月1日	～	現在に至る	社会福祉法人貝塚いぶき作業所理事		

(表24)

70

所属	健康福祉学部	職名	准教授	氏名	小西 治子	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1) 「福祉レクリエーション論」 発表におけるレジュメ作成と発表方法を指導		平成15年前期～	授業時の発表時のレジュメ作成方法の習得とリーダー資質には欠かせない「前に立って話す」技術の向上を図っている。				
(2) 「福祉レクリエーション援助論」「福祉レクリエーション援助技術演習」 福祉現場と机上学習の一体化による具体的な支援目標の立て方を指導		平成15年後期～ 平成16年前期～	NPO法人「BON」（自閉症児支援グループ）との連携により、実際に自閉症児との活動を通して、障害をもつ人の余暇生活や日常生活のA-P-I-Eプロセスによる支援方法を具体的に学び理解度を高めた。				
(3) 「総合演習」 社会情勢の把握と、学生の関心事の引き出し		平成15年前期～	新聞を活用し、学生として知るべき社会情勢の把握や、学生として持つべき関心事を模索させ、これからの大学生活に対する意識付けを行っている。				
(4) 「基礎演習」 社会福祉の基本となる人権に対する意識の向上		平成16年前期～	「人権読本」を用いさまざまな立場の人権を学び、「人権」についての理解を深めた。 学外での実践を数多く経験し、企画力・スタッフ力など実践力の向上を図った。				

(5) 「専門演習Ⅰ・Ⅱ」 学外実践を通じた実践力の向上	平成16年前期～	1年次の不安解消を行うため、出会いの場とするグループ活動等を取り入れ、新生活でのコミュニケーション手段の学びとコミュニケーション能力の向上を図った
(6) 「レクリエーション実技」 コミュニケーション手段の学びとコミュニケーション力の向上	平成15年前期～	
2. 作成した教科書、教材、参考書		
(1) 障害にあわせたレクリエーション活動工夫シート	平成16年～	各障害に合わせた工夫のポイントを明確化し、具体化するために使用「福祉レクリエーション援助技術演習で使用」
(2) ビデオ教材用シート	平成16年～	個人援助を学ぶビデオ教材の講義シート。個人援助のポイントとなる支援者の言動をピックアップして書き出し、支援者として必要な資質と援助のプロセスを理解できるような教材に作成している。「福祉レクリエーション援助技術演習で使用」
(3) 障害者とスポーツ (財) 日本障害者スポーツ協会	平成15年10月1日	障害者スポーツ初級スポーツ指導員課程認定校用テキスト
(4) 「障害者のスポーツ指導の手引き」第2次改訂版 ぎょうせい	平成16年2月10日	障害者スポーツ指導員カリキュラムに添ってわかりやすく作成した。著者：藤原進一郎・小西治子 障害者スポーツ指導員養成テキスト 障害者スポーツ指導員養成カリキュラムに添ってより詳細なテキストとした。著者：矢部京之助・藤原進一郎・小西治子他23名
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
(財)大阪YMCA主催「高齢者レクリエーションワークショップ」講師	平成15年6月15日	福祉領域関係者を対象に「障害者の自立支援におけるレクリエーションの活動」について講演と実技指導を行った。
生協協同組合エスコープ大阪主催「2級ホームヘルパー養成講座」講師	①平成15年6月22日 ②平成16年6月27日 ③平成17年5月21日	ホームヘルパー資格取得希望者対象にホームヘルパー資格に必要とされる「レクリエーションの体験学習」の講義と実技指導を行った。
(財)日本レクリエーション協会主催「福祉レクリエーション・ワーカー養成通信教育課程スクーリング」講師	①平成15年6月28日～29日 ②平成15年11月2日～3日 ③平成16年7月10日～11日 ④平成16年10月2日 ⑤平成17年6月4日～5日 ⑥平成17年9月9日～10日 ⑦平成17年10月15日～16日	福祉レクリエーション・ワーカー資格取得希望者対象に「グループを介したレクリエーション援助の方法」の講義を行った
大阪府障害者スポーツ振興協会主催「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」講師	①平成15年7月13日 ②平成16年6月13日 ③平成17年6月12日	障害者スポーツ指導員資格取得希望者を対象に「スポーツ・レクリエーションの活用」について講義と実技の指導を行った。
和泉市福祉公社主催「福祉レクリエーション連続講座」講師	平成15年9月18日・10月16日・11月20日	福祉レクリエーション援助を用い、ケア・ワーカーの資質向上を図るための講義を行った
大阪府岸和田市社会福祉協議会主催「地域福祉活動研修会」講師	平成15年10月26日	地域福祉活動実践者を対象に「いきいきサロンなどグループ援助活動の目的と役割について」講演。さらに「レクリエーションとは～楽しくてリハビリ効果も～」の実技指導を行った。

近畿ブロック障害者スポーツ指導者養成協議会主催「中級障害者スポーツ指導員養成講習会」講師	①平成15年11月23日 ②平成18年1月22日	中級スポーツ指導員資格取得希望者を対象に「重度障害者や知的障害者の親しめる軽スポーツ」について実技指導を行った
大阪府障害者スポーツ振興協会主催「大阪府障害者スポーツフォーラム」シンポジウム司会	平成16年2月11日	障害者スポーツを振興する行政などを対象に「リハビリテーションスポーツからアスリートスポーツへの道」のシンポジウムを行った。
静岡県沼津市社会福祉協議会主催「地区社会福祉協議会企画委員研修会」講演	平成16年2月17日	地区社会福祉協議会を対象に「小地域福祉活動を考える」講演を行った。
大阪府寝屋川市社会福祉協議会主催「校区福祉委員研修会 地域福祉活動フォーラム」講演	平成16年2月23日	校区福祉委員を対象に「地域福祉活動計画と校区福祉委員会活動」について講演を行った。
大阪府岸和田市社会福祉協議会主催「ボランティア入門講座」講演	平成16年2月26日	ボランティアを始めようとする市民を対象に「ボランティア活動について」講演を行った。
和歌山県障害者スポーツ協会主催「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」講師	①平成16年2月28日 ②平成17年2月26日 ③平成18年3月4日	障害者スポーツ指導員資格取得希望者対象に「レクリエーション概論・実技」の講演と実技指導を行った。
大阪府寝屋川市北校区福祉委員会主催「委員研修会」講師	平成16年6月2日	校区福祉委員・校区ボランティアを対象に「福祉委員とボランティアが地域活動で担う役割」について講演を行った。
財山口県ひとづくり財団主催「介護福祉士養成研修会」講師	①平成16年7月12日 ②平成17年7月1日	介護福祉士資格取得希望者（国家試験受験対象者）を対象に「レクリエーション活動援助法」の講演を行った。
大阪府泉佐野市社会福祉協議会主催「ボランティア講座」講師	①平成16年8月19日 ②平成17年8月25日	ボランティア活動経験者と未経験者を対象に「ボランティアってなんだろう」の講演を行った。
島根県レクリエーション協会主催「島根県レクリエーション・インストラクター養成講習会」講師	平成16年9月4日～5日	島根県内のレクリエーション・インストラクター資格取得希望者を対象に「レクリエーション支援の展開と方法・レクリエーション支援の目標と理念・レクリエーション支援者の役割」について講義を行った。
大阪府熊取町教育委員会主催「熊取ゆうゆう大学」講師	平成16年9月9日	熊取町住民を対象に「豊かに暮らすいきいき暮らす術」の講演をレクリエーション技術を中心に講演した。
大阪府介護福祉士会主催「介護福祉士受験対策講座」講師	①平成16年11月20日 ②平成17年11月12日	介護福祉士資格取得希望者（国家試験受験対象者）を対象に「レクリエーション活動援助法」の講演を行った。
真正幼稚園身体活動研究会主催「遊び・福祉レクリエーションセミナー」講師	平成16年11月20日	幼児教育関係者を中心とした対象者に「楽しいひと時の演出と交流を深める場としての遊び・レクリエーション活動援助のための個人～小集団へのレクリエーション体験とアレンジ法」について講義と実技指導を行った。
大阪府主催「ピアヘルパー養成（2級）コース」講師	①平成17年1月6日 ②平成17年9月30日	障害者の態様に応じた多様な委託訓練事業。精神障害をもちホームヘルパー2級資格取得希望者を対象に「レクリエーション体験学習」の講義とホームヘルパーに必要とされるレクリエーション実技の指導を行った。
大阪市東住吉区社会福祉協議会主催「初めての福祉ボランティアスクール」講師	平成17年1月27日	東住吉区住民を対象に「ボランティア活動」の基礎と考え方について講演を行った。
大阪府岸和田市社会福祉協議会主催「地域福祉活動研修会」講師	平成17年1月30日	地域で個別援助活動に携わっているスタッフ対象に「個別援助活動の基本、目的と役割について」講演を行った。
学校法人浪商学園大阪体育大学健康福祉学部主催「ホームヘルパー養成研修（2級課程）講座」講師	平成17年2月23日	ホームヘルパー2級資格取得希望学生を対象に「レクリエーション体験学習」の講義とホームヘルパーに必要とされるレクリエーション実技の指導を行った。
大阪府寝屋川市西北コミュニティセンター運営協議会主催「健康教室」講師	平成17年3月1日	西北コミュニティセンター地域住民を対象に「ちょっと体を動かして、介護予防とリフレッシュ」について講演と実技指導を行った。

大阪府高石市立ふれあいゾーン複合センター主催「障害者福祉センターボランティア養成講座」講師	平成17年3月5日	高石市在住者を対象に「初心者対象のボランティア活動について」講演を行った。
大阪府寝屋川市社会福祉協議会主催「社会福祉協議会役員・評議員・組織構成役員対象研修会」講師	平成17年3月8日	「地域福祉活動計画の推進」について推進を担うと考えられる役職者を対象に「地域福祉活動計画の概要と役員・組織構成会員に求められる役割」について講演を行った。
大阪府寝屋川市西校区校区福祉委員会主催「西校区研修会」講師	平成17年3月25日	地域活動を積極的に行っている委員を対象に、「活動の目標とつながり」について講演を行った。
大阪府立久米田高校主催「人権教職員研修会」講師	平成17年6月23日	久米田高校教職員を対象に「障害者福祉について（障害をもつ学生の学校生活支援の方法）」講演を行った。
大阪市東住吉区社会福祉協議会主催「東住吉区アクションプラン研修会」講師	平成17年7月4日	東住吉区アクションプラン作業部会委員を対象に「アクションプラン策定作業の進め方」について講演を行った。
龍谷大学エクステンションセンター主催「ホームヘルパー養成研修（2級課程）講座」講師	平成17年9月2日	ホームヘルパー2級資格取得希望者を対象に「レクリエーション体験学習」の講義とホームヘルパーに必要とされるレクリエーション実技の指導を行った。
大阪府立貝塚高校主催「ホームヘルパー養成研修（2級課程）講座」講師	平成17年11月18日・25日	ホームヘルパー2級資格取得希望学生を対象に「レクリエーション体験学習」の講義とホームヘルパーに必要とされるレクリエーション実技の指導を行った。
大阪府富田林市社会福祉協議会主催「福祉委員会いきいきサロン交流会」講師	平成17年12月3日	富田林市でいきいきサロンを実施している、又はこれから立ち上げてみたいと考えている福祉委員会を対象に「いきいきサロン活動を通じた高齢者支援のあり方」について講演し、実際に役立つレクリエーション実技の指導を行った。
大阪市中央区寝たきり予防推進協議会主催「会員研修会」講師	平成18年1月19日	寝たきり予防推進協議会会員を対象に「寝たきりにならないようにするには（予防法）」について講演と、実技指導を行った。
大阪府寝屋川市若葉町校区福祉委員会主催「ボランティア研修会」講師	平成18年1月28日	若葉町でボランティア活動をされている方対象に「高齢者のための福祉レクリエーションについて」講演と実技指導を行った。
大阪府寝屋川市北校区福祉委員会主催「住民福祉講座」講師	平成18年3月6日	北校区福祉委員・ボランティアを対象に「みんなで作る地域の輪」と題し、委員会活動で創っていく地域の人間関係づくりについて講演を行った。
財団法人レクリエーション協会福祉レクリエーション・ワーカー養成通信教育課程第109回スクーリング講師	平成18年5月27日～28日	福祉レクリエーション・ワーカー資格取得希望者対象に「グループを介したレクリエーション援助の方法」の講義を行った。
大阪府障害者スポーツ振興協会主催「初級スポーツ指導員養成講習会」講師	平成18年6月11日	障害者スポーツ指導員資格取得希望者を対象に「スポーツ・レクリエーションの活用」について講義と実技の指導を行った。
(財)山口県ひとつくり財団主催「介護福祉士養成研修会」講師	平成18年7月21日	介護福祉士資格取得希望者（国家試験受験対象者）を対象に「レクリエーション活動援助法」の講演を行った。
熊取町あるふぁシティくまとり推進会議健康福祉部研修会講師	平成18年8月10日	あるふぁシティ熊取推進会議健康福祉部員を対象に「げんきで豊かに暮らし続けるために」の講義を行った。
大阪府主催「ピアヘルパー（2級）養成コース」講師	平成18年9月4日	障害者の態様に応じた多様な委託訓練事業。精神障害をもちホームヘルパー2級資格取得希望者を対象に「レクリエーション体験学習」の講義とホームヘルパーに必要とされるレクリエーション実技の指導を行った。
大阪府介護福祉士会主催「介護福祉士受験対策講座」講師	平成18年11月4日	介護福祉士資格取得希望者（国家試験受験対象者）を対象に「レクリエーション活動援助法」の講演を行った。
堺市立大仙西小学校福祉教育「障害理解」講師	平成18年11月17日	5年生を対象に「障害」について講義し、障害者スポーツ体験を行った。

大阪府社会福祉協議会主催民生委員・児童委員リーダー研修会講師	平成18年11月24日	大阪府の民生委員・児童委員を対象に「民生委員児童委員活動のリーダーに求められるリーダーシップとは」を講義し、「リーダーシップを強化するには」のグループ討議を行った
大阪府障害者スポーツ振興協会主催「障害者コーチフォーラム」	平成19年1月28日	視覚障害者スイマー「河合純一氏」と「障害者スポーツと学校教育について」対談をおこなった。
熊取町長生会研修会講師	平成19年2月9日	熊取町長生会会員を対象に「地域で豊かに暮らし続けるために」の講義を行った。
吹田市社会福祉協議会研修会講師	平成19年2月15日	「福祉委員会で行う見守り・声かけ運動の意義と目的」について講義した。
和歌山県障害者スポーツ振興協会主催「初級障害者スポーツ指導員養成講習会」講師	平成19年2月18日	障害者スポーツ指導員資格取得希望者対象に「レクリエーション概論・実技」の講演と実技指導を行った。
大阪府障害者スポーツ振興協会主催「初級スポーツ指導員養成講習会」講師	平成19年6月10日	障害者スポーツ指導員資格取得希望者を対象に「スポーツ・レクリエーションの活用」について講義と実技の指導を行った。

4. その他教育活動上特記すべき事項		
大阪府老人大学南部講座健康福祉科講師	平成15年～平成16年	レクリエーション概論
大阪YMCA高等学校非常勤講師	平成14年～平成15年	人間関係トレーニング
平安女学院大学非常勤講師	平成17年～現在に至る	レクリエーション理論・レクリエーション実技
(財)日本レクリエーション協会福祉レクリエーション・ワーカー通信教育スクーリング講師	平成10年～平成18年3月	
(財)日本レクリエーション協会福祉レクリエーション・ワーカー通信教育レポート添削講師		
医療法人錦秀会高等看護学院非常勤講師	平成18年度～現在に至る	レクリエーション論・実技

II 研究活動					
著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
小地域ネットワーク活動配色サービス	共著	2003年10月1日	エルピス社	平野和子	p 4・9～14・65～67・72～73
「ボランティア・NPO用語事典」	共著	2004年4月1日	中央法規出版	岡本栄一・筒井のり子・他62名	p 106～107
みんなのレクリエーションゲーム	共著	2005年4月26日	池田書店	高尾都茂子・松戸良一	p 56～77・96・114～145・160
介護・看護現場のレクリエーション～考え方と事例～	共著	2007年4月20日	昭和堂	西村誠・榎岡義明・砂糖弥生・中川善彦・矢木一美	p 53～59
論文					
個別ケアの必要性について～通所リハビリテーションにおける実践例から～	共著	2004年3月	大阪体育大学健康福祉学部研究紀要	◎横井光治	
余暇活動と生活自立について	単著	2005年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要		

障害者のスポーツ活動の現状に関する調査研究 ～サポートを必要とする障害当事者の海外旅行の報告と考察～	共著	2006年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要	◎安田ななえ・永吉宏英・池島明子	
その他					
大阪市東住吉区地域福祉アクションプラン策定冊子		2006年3月	東住吉区地域福祉アクションプラン策定委員会	編集協力・小西治子	

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成7年～現在に至る	日本介護福祉教育学会会員
平成7年～現在に至る	日本介護福祉学会会員
平成7年～現在に至る	同志社大学福祉学会会員
平成8年～現在に至る	きょうりゅうクラブ（障害児・者）身体活動・余暇活動支援ボランティアグループ代表
平成10年～毎年大会終了時まで	大阪府障害者スポーツ大会実行委員会委員
平成12年4月～現在に至る	大阪南YMCA会員委員
平成12年12月～現在に至る	大阪障害者フライングディスク協会理事
平成13年4月～平成18年3月	障害者作業所・障害児学童・障害児・者支援事業所「ユイの会」運営委員
平成13年～現在に至る	日本福祉文化学会会員
平成15年4月～現在に至る	大阪車椅子ハンドボール連盟理事
平成15年～現在に至る	日本遊戯療法学会会員
平成15年6月～平成17年3月	寝屋川市地域福祉活動計画策定委員会副委員長
平成15年6月～平成17年3月	寝屋川市地域福祉活動計画作業委員会委員長
平成15年12月～平成17年3月	寝屋川市地域福祉計画策定委員
平成16年4月～現在に至る	大阪府レクリエーション協会課程認定校連絡協議会幹事
平成16年10月～平成17年7月	大阪府立障害者交流促進センター専門アドバイザー委員
平成16年9月～平成17年3月	寝屋川市地域福祉活動計画策定委員会起草委員
平成17年～現在に至る	日本レジャーレクリエーション学会会員
平成17年～平成18年3月	大阪市東住吉区アクションプラン策定委員会委員
平成17年～現在に至る	大阪市東住吉区アクションプラン策定アドバイザー
平成18年3月～平成19年2月	大阪府立障害者交流促進センターあり方検討委員会
平成18年3月～現在に至る	社会福祉法人「虹のかけはし」理事

平成18年4月～現在に至る	堺市障害者スポーツ大会実行委員会副委員長				
平成18年6月～現在に至る	全国障害者スポーツ大会堺市代表選手選考委員会委員長				
平成18年10月	全国障害者スポーツ大会堺市選手団副団長				
IV クラブ活動の指導業績					
1. 指導クラブ名	同好会ボランティアサークル“きょうりゅう”部	2. 役職	指導教員	3. 部員数	13人
4. 現場指導の頻度	②	① ほぼ毎日 ② 週3日 ③ 週1日 ④ 現場指導はしていないが、計画や内容の指導 ⑤ 全く関与していない			
5. 合宿指導	年間合宿回数：	回	延べ日数：	日	
6. クラブの競技力向上への取り組み		①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
7. クラブの教育及び部員の学習への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
8. 部員の就職指導への取り組み	①	①積極的に取り組んでいる ②ある程度取り組んでいる ③あまり取り組んでいない ④全く取り組んでいない			
9. 年間の引率公式大会名	大会名	期間	場所		
10. クラブ戦績 (全日本選手権8位以上、関西選手権4位以上、関西1部リーグ3位以上の団体・個人の戦績を記入して下さい。)					

(表24)

7 1

所属	健康福祉学部	職名	準教授	氏名	辰巳 佳寿恵	大学院における研究指導担当資格の有無	有 <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む) 障害者福祉論Ⅱ		平成16年～19年	障害者福祉における制度的な理解にとどまらず、障害者の芸術団体や、障害者自身が主演する海外ドラマ、国内ドラマ、海外・国内公開映画等の映像、欧米と日本の神話比較などを通して、万人に存在する差別意識や排除性に気づき、それと葛藤する過程を取り入れた。現行制度と障害者の生活実態を、支援者としての立場だけではなく、誰にも生じる問題として、より望ましい支援の方法や制度のあり方を、皮膚感覚で捉えることのできる教授方法を試みた。授業のほとんどにレポート課題を課し、毎回フィードバックを行なうことによって、色々な価値観があることに気づき、他の意見や価値観を受け入れ、論理的な反論を行なうことのトレーニングを兼ねた。最終的には、日本における「障害」という概念の社会的な成立過程と現況について、国際比較をも通しながら、その問題点に気づくことを目指した。				
2. 作成した教科書、教材、参考書 福祉臨床シリーズ9 福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂 臨床に必要な障害者福祉 (執筆担当箇所) 第1章 臨床に必要な障害者福祉概念 2 障害者福祉の理念と実際 A 人権の尊重 5		平成19年3月30日	従来の教科書は、障害者福祉に関する制度上の知識理解を中心としていたが、目まぐるしく変容する法制度の理解に終始することは、根本的な専門職の資質の向上に有効であるか否かについては疑問がある。左に示した教科書は、「臨床に役立つ」ことを共通の目的として編集され、知識的な理解にとどまらず、社会福祉の臨床家として身に着けるべき「感覚」を鍛えることをも含んでいる。すなわち、日本の定義する協議の「障害者福祉」ではなく、社会学、哲学、政治学、経済学の諸分野の隣接分野としての福祉学の教授に耐えう				

B 発達保障の理念 7 C イングレーションの理念 8 D リハビリテーションの理念 10			内容レベルに近づいた教科書であると評価できる。		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等					
4. その他教育活動上特記すべき事項					
II 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
学びやすい障害者福祉論第2版	共著	平成17年3月	金芳堂	硯川真旬	単元1・3・4
臨床に必要な障害者福祉	共著	平成19年3月	弘文堂	福祉臨床シリーズ編集委員会	5頁～10頁
論文					
中途視覚障害者への支援ー視覚障害者リハビリテーション施設におけるサービス提供状況ー	共著	平成15年11月	リハビリテーション連携科学第4巻第一号	辰巳佳寿恵・原志治・香川邦生	79頁～88頁
中途視覚障害者のリハビリテーション過程に関する研究	単著	平成15年12月	博士論文（心身障害学・筑波大学）		
地域リハビリテーション支援における課題ー中途視覚障害者のリハビリテーションを通してー	単著	平成16年3月	大阪体育大学健康福祉学部紀要創刊号		85頁～98頁
地方自治体事業における視覚障害者支援の課題	共著	平成17年11月	リハビリテーション連携科学第6巻第一号	辰巳佳寿恵・香川邦生	15頁～21頁
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動					
期 間		内 容			
平成18年4月 ～	現在	障害者施策推進協議会 副会長			
平成18年4月 ～	現在	障害者自立支援法・障害程度区分認定審査委員			

7 2	所属	健康福祉学部	職名	准教授	氏名	安場 敬祐	大学院における研究指導担当資格の有無	無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年月日	概 要			
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 「 老人福祉論 I 及びII 」				平成18年4月	健康福祉学部学生の必修専門科目で大教室での講義になるが、基本的に双方向の授業展開に心がけた。また、視聴覚教材の活用も行い理解を深めさせた。			
2. 作成した教科書、教材、参考書 VTR教材 在宅介護支援センターの役割 等他				平成18年4月	一方的講義に視聴覚教材を併用することで効果があった。			
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等								
4. その他教育活動上特記すべき事項 卒業論文作成指導				平成18年度	卒業論文11編の作成を指導し、合格させた。			
II 研究活動								
著書・論文等の名称		単著・共著の別	発行または発表の年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名（共著の場合のみ記入）		該当頁数	
著書								
第2版 新・社会福祉学講義		共著	平成16年4月	西日本法規出版	◎杉本敏夫、宮川数君 小尾義則 編著		165頁～178頁	
第3版 学びやすい社会福祉		共著	平成18年4月	金芳堂	編集代表 硯川 眞旬		126頁～129頁 139頁～141頁	
論文								
高齢者援助サービスの変化と特性 -1980年代以降に焦点をあてて-		単著	平成14年2月	修士論文				
		単著	平成15年3月					
今後の在宅介護支援センターの存続とあり方に関する一考察		単著	平成19年	大阪体育大学健康福祉学部紀要				
III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動								
期 間				内 容				
平成 元年 9月～ 平成 2年 5月				大阪府高槻市高齢者サービス調整チーム専門部会委員				
平成 2年 9月～ 現在に至る				自治体学会		正会員		
平成 2年 9月～ 現在に至る				日本社会福祉学会		正会員		

平成 2年 9月～ 現在に至る	日本地域福祉学会 正会員
平成 4年 6月～ 平成 5年7月	滋賀県愛知郡愛東町老人保健福祉計画策定委員及び技術指導
平成 5年10月～ 現在に至る	日本介護福祉学会 正会員
平成 7年 7月～ 平成17年3月	日本介護福祉教育学会 正会員
平成10年10月～ 現在に至る	日本保健福祉学会 正会員
平成10年11月～ 現在に至る	関西社会福祉学会 正会員
平成13年 4月～ 平成14年3月	大阪市介護認定審査会 委員
平成15年 9月～ 平成18年3月	泉佐野市支援費調整委員会 委員長
平成18年 4月～ 現在に至る	泉佐野市（障害者自立支援法に基づく審査会）審査会 委員長

(表24)

7 3

所属	健康福祉学部	職名	准教授	氏名	若木 常佳	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績		年月日	概 要				
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1)「日本語技法Ⅰ」での文章表現力伸長を目途とした指導		平成19年前期～	毎時間、400～800字の作文を書かせ、個別に添削指導を行った。その際、習得技能を段階的に整理し、それを毎時間提示することによって、文章表現に必要な技能を意識的に習得させるようにした。評価規準と基準は学生に公表した。				
(2)「日本語表現法」での文章・音声表現の伸長を目途とした指導		平成19年後期～	文章表現技能の習得においては、毎時間、基礎知識指導・創構指導・表現指導の3観点から授業を構成し、毎時間400～600字の作文を書かせ、個別に添削指導、及び、相互評価作業を行った。音声表現技能の習得においては、絵本の朗読指導を通し、姿勢、声量、発声についての指導を行った。				
(3)「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」での教員の資質育成に機能する指導		平成19年前期～	教育実習の事前指導・事後指導を行った。事前指導においては、教職に対する認識、並びに指導と評価の有り様、具体的な対応、指導案作成、模擬授業を行った。事後指導においては、自己の課題把握、研究授業の振り返り、教職への理解等を中心に交流発表会とレポート作成を行った。				
2. 作成した教科書、教材、参考書							
(1)「日本語技法Ⅰ」補助資料		平成19年前期～	『大阪体育大学・教養基礎テキスト(暫定版)』の補助資料の作成を行った。				
(2)「日本語表現法」ハンドアウト		平成19年後期～	習得させる技能を整理した資料を配布した。				
(3)「教育実習Ⅰ」「教育実習Ⅱ」ハンドアウト		平成19年前期～	教職に対する認識の深化、指導技能の育成を意図した資料を作成し配布した。				
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等							
4. その他教育活動上特記すべき事項							
II 研究活動							

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
「話す・聞く能力を育成する国語科カリキュラム」	単著	平成17年3月	「教育学研究紀要」(50巻)		pp. 302～307
「対話能力を育成するためのカリキュラムについての研究—『方略的知識』と『関係づける力』を中心に—」	単著	平成17年9月	「国語科教育」(58集)		pp. 26～33
「話す・聞く学習指導における『思考』を育てる学習の手びき—大村はま実践を手がかりに—」	単著	平成18年3月	「広島大学大学院教育学研究科紀要」(54号)		pp. 141～149
「話す・聞く能力を高める指導法について—『台本型手びき』の成果と留意点」	単著	平成18年3月	「教育学研究紀要」(51巻)		pp. 458～463
「話す・聞く能力の育成における指導内容—認知的側面に着目して—」	単著	平成18年3月	「世羅博昭先生御退官記念論集」		pp. 10～21
「話す・聞く能力の認知的側面に関する中学生の実態—独話理解の場合—」	単著	平成18年11月	「日本教科教育学会誌」vol.29 No.3		pp. 29～38
「話す・聞く能力を育成するカリキュラムの構築に向けて—認知的側面への着目—」	単著	平成19年3月	「広島大学大学院教育学研究科紀要」(55号)		pp. 163～172
「話す・聞く能力を育成する指導方法における考慮点」	単著	平成19年3月	「教育学研究紀要」(52巻)		pp. 351～356
「討論に培う対話能力の育成」	単著	平成19年5月	「月刊国語教育研究」(NO.21)		pp. 16～21

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成6年4月 ～ 現在	日本国語教育学会会員
平成16年4月 ～ 現在	全国大学国語教育学会会員
平成16年4月 ～ 現在	日本教科教育学会会員
平成16年4月 ～ 現在	中四国教育学会会員

7 4	所属	健康福祉学部	職名	講師	氏名	加美 嘉史	大学院における研究指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無	
II 研究活動									
教育実践上の主な業績					年月日	概要			
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） 公的扶助論の講義					平成17年10月 ～平成18年1月	パワーポイントとビデオ教材を使用し、学生が視覚的にも理解ができるように努めた。 また単元毎に学習課題を設け、レポート提出を行うことによって理解度の把握に努めた。 同時にその単元での質問等があれば記入してもらい、質問の回答については授業で資料を配付し、説明を行うように努めた。			
社会福祉援助技術演習Ⅰ・Ⅱの授業					平成18年4月 ～平成19年1月	各福祉現場で活躍している社会福祉専門職を特別講師として3名招聘し、学生が社会福祉実践の理解をより深めることができるよう努めた。			
2. 作成した教科書、教材、参考書									
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等									
4. その他教育活動上特記すべき事項 学生の調査活動への参加					平成18年2月6日 ～7日	京都市南区の京都市自立支援センターにおいて、学生が中心となり野宿生活を経験した人々への聞き取り調査を行った。 聞き取りを行うなかで、実際の社会福祉対象者の悩みや健康・生活問題を知り、今後の支援のあり方について考察を行う場となった。 聞き取り調査の結果については報告書として発行している。			
II 研究活動									
著書・論文等の 名称		単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）		該当頁数		
著書									
『公的扶助論』		共著	平成16年6月	高菅出版	著者：金澤誠一、加美嘉史、寺久保光良、松崎喜良、吉永純		53頁～65頁、83頁～98頁、109頁～118頁、125頁～135頁、183頁～196頁、245頁～256頁		
『ケース研究101の事例—福祉現場からの声—』		共著	平成17年2月	久美株式会社	監修・著：前田崇博・吉井珠代		149頁～151頁		
『ホームレス研究—釜ヶ崎からの発信—』		共著	平成19年7月	信山社	編著：高田敏、桑原洋子、逢坂隆子		203頁～223頁		
論文									

『ホームレスの自立の支援等に関する基本方針（案）を読み解く』	単著	平成15年9月	総合社会福祉研究所「福祉のひろば」(2003年9月号)		62頁～67頁
『野宿者支援の新たな可能性』	単著	平成16年3月	総合社会福祉研究所「福祉のひろば」(2004年3月号)		52頁～55頁
『野宿生活者を生み出す社会階層』	単著	平成18年3月	大阪体育大学健康福祉学部、「研究紀要」第3号		27頁～44頁
『京都市のホームレス自立支援事業と就労支援の課題』	単著	平成18年4月	現代企画室、「季刊Shelter-less」第28号		62頁～73頁
『生活問題の発生要因と連鎖に関する基礎的研究』	単著	平成19年3月 (発行予定)	大阪体育大学健康福祉学部、「研究紀要」第4号		

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

期 間	内 容
平成 13年 3月 ～	日本社会福祉学会 会員
平成 14年 4月 ～	社会政策学会 会員
平成 14年 5月 ～	社会福祉法人みおつくし福祉会大淀寮 第三者委員
平成 14年 5月 ～	全国公的扶助研究会 運営委員
平成 14年 7月 ～	日本地域福祉学会 会員
平成 15年 6月 ～	西成区指定居宅介護支援事業者連絡会 第三者評価調査員（学識経験者）
平成 15年 7月 ～	日本社会医学会 会員
平成 15年 7月 ～	社会福祉法人釜ヶ崎ストロームの家 評議員
平成 16年10月 ～	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 大阪市ブロック社会貢献事業推進委員会委員
平成 18年 8月 ～	京都市自立支援センター事業運営委員会 運営委員長
平成 18年12月 ～	NPO法人大津夜まわりの会 理事長

(表24)

7 5

所属	健康福祉学部	職名	講師	氏名	中川 智子	大学院における研究指導担当資格の有無	有 ・ 無
I 教育活動							
教育実践上の主な業績				年月日	概 要		
1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む）							
(1) 精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ内でのゲストスピーカー				平成18年4月～	精神保健福祉現場の精神科ソーシャルワーカーの方を招き、実際の役割、精神保健福祉の現状や課題についての理解を深め、専門性を高めることを目的に実施している。		

(2) 視聴覚教材活用による学習意欲および理解力の向上	平成19年4月～	授業内容にそった視聴覚教材を使い、学習内容を具体的にイメージさせ、理解を高め、授業に興味、関心を持たせる。
(3) ミニレポート作成指導	平成19年4月～	当日の授業内容についてのミニレポートを作成させ、内容の理解を促し、質問等は次回の授業にて振り返りを行っている。
2. 作成した教科書、教材、参考書 授業レジメの作成		授業開始時に、当日の授業内容についてのレジメを作成配布し、当日の学習内容を内閣にすることを心がけている。
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 NPO法人ウェルビーイング主催による精神障害者 ホームヘルパー養成講習講演 大阪体育大学健康福祉学部国試対策講座	平成18年1月 平成16年 平成17年	精神保健福祉制度(福祉プログラム)について講義 精神保健学担当 精神リハビリテーション学担当

II 研究活動

著書・論文等の 名称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌(及び巻・号数)等の 名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
ケアマネジメント用語辞典	共著	平17年12月	ミネルヴァ書房	編者：杉本敏夫・米増國雄・南武志・和田謙一郎 執筆：朝倉美江・梓川一・東超・雨宮由紀恵・中川智子 他	
論文					
児童虐待に関するグランドデザイナー-公的機関による介入への提案-	共著	平成19年3月	大阪河崎リハビリテーション大学 紀要 創刊号	執筆：野村和樹・平尾竜一・中川智子	75頁～183頁

III 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動

(表24)

75	所属	健康福祉学部	職名	助教	氏名	吉中 季子	大学院における研究 指導担当資格の有無	有・ <input type="radio"/> 無
I 教育活動								
教育実践上の主な業績				年月日	概要			

1. 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ・ワークショップの実施 ・ゲストスピーカーによる講演		・若者のDVについてのワークショップを実施。 相互に実演し他者の感情の理解に結びつける試みをした。 ・言語聴覚士・理学療法士による、現場での他業種の連携についての講演。
2. 作成した教科書、教材、参考書		
3. 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
4. その他教育活動上特記すべき事項 ・大津市「人権・生涯」学習推進協議会連合会主催 輪を広げる人権講座	平成18年1月17日	テーマ：「民間女性シェルターの活動から学ぶもの」女性専用の民間シェルターの実態を通して、女性の人権問題の課題を報告。
・ホームレス自立支援法による「ホームレスに実態に関する全国調査」	平成19年1月～2月	ホームレス自立支援法による 全国一斉に実施された野宿生活者の実態調査の一環として、兵庫県尼崎市において野宿生活者への聞き取り調査を実施した。ニーズと今後の施策への課題については中間報告・最終報告として発行。

II 研究活動

著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の別	発行または発表の 年月	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の 名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
『改訂 法学』	共著	平成19年3月	建帛社	◎志田民吉編著 岡田行雄・和田謙一郎・櫻本正樹・米谷光正・亀井節子・菅原好秀・吉中季子	163頁～196頁
論文					
貧困層における学歴の試論 —セーフティネットにおけるジェンダー	単著	平成19年3月	『大阪体育大学健康福祉学部紀要』（大阪体育大学健康福祉学部）第4号		183頁～193頁
公的年金制度と女性 —「世帯単位」の形成と「個人単位化」	単著	平成18年3月	『社会問題研究』（大阪府立大学社会福祉学部）第55号第2号.		14頁～168頁
在日コリアン高齢者の無年金問題 —大阪・生野における在日コリアン高齢者調査から—	単著	平成18年3月	『大阪体育大学健康福祉学部紀要』（大阪体育大学健康福祉学部）第3号		45頁～62頁
社会保障とジェンダー —家族モデルと公的年金の個人単位化	単著	平成17年3月	大阪府立大学大学院社会福祉学研究所 修士論文		
‘General Characteristics of Rough Sleepers through the “National Survey of Homeless People in Japan”’	共著	平成16年7月	『大分大学経済論集』大分大学経済学会 No. 56, Vol. 2		68頁～92頁

Ⅲ 学会、学術団体、審議会、競技団体等の社会における主な活動		
期 間		内 容
平成15年10月 ~	現在に至る	日本社会福祉学会 会員
平成18年6月 ~	現在に至る	福祉社会学会 会員
平成18年8月 ~	現在に至る	堺市生活保護自立支援プログラム検討委員会委員